熊本県文化財調査報告第175集

古閑北（こがきた）・梨木（なしのき）遺跡

益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999．3

熊本県教育委員会

古閑北遺跡・梨木遺跡遠景（西より）

平成 8 年度調査区空中写真（南西より）

平成 9 年度調査区空中写真（北より）

熊本県文化財調査報告第175集

古閑北（こがきた）・梨木（なしのき）遺跡

益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

１９９９．３

熊 本 県 教 育 委 員 会

序　　文

熊本県教育委員会では、日本道路公団九州支社の委託及び熊本県土木部道路建設課の依頼を受け、益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施いたしました。

今回報告する古閑北・梨木遺跡の発掘調査は、平成８年度から９年度にかけて実施し、縄文時代全般及び弥生時代末期を中心とする多数の遺物が出土いたしました。中でも縄文時代全般にわたり出土した土器や石器等は、この時代の人類の生活を知るための貴重な資料となると思われます。

この報告書が、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解を深め、さらには学術研究の進展にいささかでも寄与するところがあれば、まことに喜びに堪えません。

なお、本調査を実施するにあたり、文化財保護の観点から多大の御協力を惜しまれなかった日本道路公団九州支社、熊本県土木部、熊本土木事務所ならびに御指導御助言をいただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。

平成11年３月31日

熊本県教育委員会

教育長　佐 々 木 正 典

例　　言

1　本書は、日本道路公団の益城熊本空港インターチェンジ建設事業及び熊本県土木部のインター連結道路建設事業計画に伴い、平成８年度から９年度にかけて実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査を実施した遺跡は、熊本県上益城郡益城町大字古閑字横道に所在する古閑北遺跡及び大字広崎字梨木に所在する梨木遺跡で、日本道路公団九州支社の委託及び熊本県土木部道路建設課の依頼を受けて、熊本県教育委員会が行った。

3　現地での調査は、野田恒親、濱田彰久、岡本真也、本山千絵、荒木聖子、池田由希子　安達武敏、中川裕二、長尾彰心が行った。

4　遺物の整理、実測は、平成９・10年度に熊本県文化財収蔵庫で実施し、野田、濱田、荒木、安達、本松亜希子、牧寺俊明、知名石揚子、藤本圭司がこれにあたった。また、遺物実測の一部については、(有)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

5　本書に使用した挿図のうち、第１図は熊本土木事務所から提供を受けたものを基礎にした。また、第２図は国土地理院の２万５千分の１地形図を利用した。

6　本書の執筆および編集は、熊本県文化財収蔵庫において、野田、濱田が行った。また、第Ⅲ章第１節については村崎孝宏が執筆した。

7　遺物の写真撮影は、熊本県文化財収蔵庫において、今村龍太郎が行った。

8　整理後の遺物は、熊本県文化財収蔵庫（熊本市渡鹿３丁目15－12）に保管されている。

凡　　例

1　本書に使用した測量等の基準は、第２図を除き、４級基準点測量によって導き出した、国土地理院の設定する「公共座標Ⅱ系」を使用している。このため、使用した方位はすべて公共座標上の北を指している。

2　遺構における高度は、海抜高である。

3　遺構の深さで特に断りのないものは、検出面からの深さである。

4　出土遺物観察表における計測値は現存値であるが、土器の口底径については復原値を示した。

本　文　目　次

口　絵
序　文
例言・凡例

第Ⅰ章　序　説…… 1
　第１節　調査に至る経緯と経過…… 1
　　1　調査に至る経緯…… 1
　　2　調査組織…… 1
　第２節　遺跡の位置と環境…… 2
　　1　遺跡の位置…… 2
　　2　遺跡の地理的環境…… 2
　　3　調査区の地形…… 4
　　4　遺跡周辺の歴史的環境…… 4
　第３節　発掘調査の概要…… 8
　　1　調査方法および調査区の設定…… 8
　　2　調査の概要…… 13
　　3　遺跡の基本層位…… 16

第Ⅱ章　古閑北遺跡の調査…… 17
　第１節　縄文時代の遺物…… 17
　　1　土器…… 17
　　2　石器…… 22
　第２節　その他の時代の遺構…… 24

第Ⅲ章　梨木遺跡の調査…… 25
　第１節　旧石器時代の遺物…… 25
　第２節　縄文時代の遺物…… 26
　　1　集石遺構…… 26
　　2　土器…… 26
　　3　石器…… 52
　第３節　その他の時代の遺構と遺物…… 72
　　1　円形周溝遺構…… 72
　　2　溝…… 72
　　3　土器…… 76

第Ⅳ章　まとめ…… 82

写真図版
報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　古閑北遺跡・梨木遺跡調査区位置図…… 3
第２図　古閑北遺跡・梨木遺跡周辺遺跡分布図…… 5
第３図　古閑北遺跡調査区グリッド図…… 8
第４図　梨木遺跡調査区グリッド図…… 9
第５図　古閑北１区・２区遺構配置図…… 10
第６図　梨木１区遺構配置図…… 11
第７図　梨木２区・３区遺構配置図…… 12
第８図　梨木４区遺構配置図…… 13
第９図　梨木５区遺構配置図…… 14
第10図　梨木６区遺構配置図…… 15
第11図　古閑北遺跡・梨木遺跡基本土層図…… 16
第12図　古閑北遺跡出土土器（１）…… 18
第13図　古閑北遺跡出土土器（２）…… 19
第14図　古閑北遺跡出土土器（３）…… 20
第15図　古閑北遺跡出土土器（４）…… 21
第16図　古閑北遺跡出土石器…… 23
第17図　梨木遺跡出土旧石器…… 25
第18図　梨木１区・５区集石遺構…… 27
第19図　梨木遺跡出土縄文土器（１）…… 28
第20図　梨木遺跡出土縄文土器（２）…… 29
第21図　梨木遺跡出土縄文土器（３）…… 31
第22図　梨木遺跡出土縄文土器（４）…… 32
第23図　梨木遺跡出土縄文土器（５）…… 33
第24図　梨木遺跡出土縄文土器（６）…… 34
第25図　梨木遺跡出土縄文土器（７）…… 35
第26図　梨木遺跡出土縄文土器（８）…… 36
第27図　梨木遺跡出土縄文土器（９）…… 37
第28図　梨木遺跡出土縄文土器（10）…… 38
第29図　梨木遺跡出土縄文土器（11）…… 39
第30図　梨木遺跡出土縄文土器（12）…… 40
第31図　梨木遺跡出土縄文土器（13）…… 41
第32図　梨木遺跡出土縄文土器（14）…… 42
第33図　梨木遺跡出土縄文土器（15）…… 43
第34図　梨木遺跡出土縄文土器（16）…… 44
第35図　梨木遺跡出土縄文土器（17）…… 46
第36図　梨木遺跡出土縄文土器（18）…… 47
第37図　梨木遺跡出土縄文土器（19）…… 48

第38図　梨木遺跡出土縄文土器（20）…… 49
第39図　梨木遺跡出土縄文土器（21）…… 50
第40図　梨木遺跡出土縄文土器（22）…… 51
第41図　梨木遺跡出土縄文土器（23）…… 52
第42図　梨木遺跡出土石器（1）…… 56
第43図　梨木遺跡出土石器（2）…… 57
第44図　梨木遺跡出土石器（3）…… 58
第45図　梨木遺跡出土石器（4）…… 59
第46図　梨木遺跡出土石器（5）…… 60
第47図　梨木遺跡出土石器（6）…… 61
第48図　梨木遺跡出土石器（7）…… 63
第49図　梨木遺跡出土石器（8）…… 64
第50図　梨木遺跡出土石器（9）…… 65
第51図　梨木遺跡出土石器（10）…… 66
第52図　梨木遺跡出土石器（11）…… 67
第53図　梨木遺跡出土石器（12）…… 68
第54図　梨木遺跡出土石器（13）…… 69
第55図　梨木1区1号・2号円形周溝遺構 …… 73
第56図　梨木5区円形周溝遺構…… 74
第57図　梨木6区1号・2号円形周溝遺構…… 75
第58図　梨木6区2号円形周溝遺構内出土遺物…… 76
第59図　梨木6区3号・4号円形周溝遺構…… 77
第60図　梨木遺跡出土弥生土器（1）…… 79
第61図　梨木遺跡出土弥生土器（2）…… 80
第62図　梨木遺跡出土弥生土器（3）…… 81

表　目　次

第1表　古閑北遺跡・梨木遺跡周辺遺跡一覧表…… 6
第2表　古閑北遺跡出土土器観察表…… 17
第3表　古閑北遺跡出土石器観察表…… 24
第4表　梨木遺跡出土縄文土器観察表（1）…… 53
第5表　梨木遺跡出土縄文土器観察表（2）…… 54
第6表　梨木遺跡出土石器観察表（1）…… 70
第7表　梨木遺跡出土石器観察表（2）…… 71
第8表　梨木遺跡出土弥生土器観察表…… 78

写　真　図　版

図版１　古閑北１区全景（遺物出土状況）、古閑北１区３号溝（完掘）、古閑北１区磨製石斧（出土状況）
図版２　古閑北２区全景（完掘）、古閑北２区（遺物出土状況）、古閑北２区（遺物出土状況）
図版３　梨木１区全景（完掘）、梨木１区（遺物出土状況）、梨木１区（遺物出土状況）
図版４　梨木１区集石遺構、梨木１区１号円形周溝遺構（遺物出土状況）、
　　梨木１区２号円形周溝遺構（遺物出土状況）
図版５　梨木２区全景（完掘）、梨木２区２号溝（完掘）、梨木２区３号溝（完掘）
図版６　梨木３区全景（完掘）、梨木３区弥生土器（出土状況）、梨木３区（遺物出土状況）
図版７　梨木４区全景（完掘）、梨木５区全景（完掘）、梨木５区集石遺構
図版８　梨木５区円形周溝遺構（完掘）、梨木６区全景（完掘）、梨木６区１号円形周溝遺構（完掘）
図版９　梨木６区２号円形周溝遺構（完掘）、梨木６区３号円形周溝遺構（完掘）、
　　梨木６区４号円形周溝遺構（完掘）
図版10　梨木６区４号溝（完掘）、梨木６区道路状遺構、梨木６区16号溝（完掘）
図版11　作業風景（１）、作業風景（２）、作業風景（３）
図版12　古閑北遺跡出土土器（１～６、８）
図版13　古閑北遺跡出土土器（７、９～14、16～19）
図版14　古閑北遺跡出土土器（15、20～25）
図版15　古閑北遺跡出土石器（１～10）
図版16　梨木遺跡出土縄文土器（１～10）
図版17　梨木遺跡出土縄文土器（11～13）
図版18　梨木遺跡出土縄文土器（14～20）
図版19　梨木遺跡出土縄文土器（21～25）
図版20　梨木遺跡出土縄文土器（26～29）
図版21　梨木遺跡出土縄文土器（30～37）
図版22　梨木遺跡出土縄文土器（38～45）
図版23　梨木遺跡出土縄文土器（46～50）
図版24　梨木遺跡出土縄文土器（51～63、65）
図版25　梨木遺跡出土縄文土器（64、66～73、75、77、78）
図版26　梨木遺跡出土縄文土器（74、76、79～85）
図版27　梨木遺跡出土縄文土器（86、88、89）
図版28　梨木遺跡出土縄文土器（87、90、91）
図版29　梨木遺跡出土縄文土器（92～97）
図版30　梨木遺跡出土縄文土器（98～101）
図版31　梨木遺跡出土縄文土器（102、103、105）
図版32　梨木遺跡出土縄文土器（104、106）
図版33　梨木遺跡出土縄文土器（107～112）
図版34　梨木遺跡出土縄文土器（113～120）
図版35　梨木遺跡出土縄文土器（121～133）

図版36　梨木遺跡出土縄文土器（134～144）
図版37　梨木遺跡出土旧石器（１、２）及び梨木遺跡出土石器（１～23）
図版38　梨木遺跡出土石器（24～54）
図版39　梨木遺跡出土石器（55～76）
図版40　梨木遺跡出土石器（77～99）
図版41　梨木遺跡出土石器（100～110）
図版42　梨木遺跡出土石器（111～116、119～121、122a、131，132、134）
図版43　梨木遺跡出土石器（117、118、122(a+b)、123～128）
図版44　梨木遺跡出土石器（129、130、133、135、136）
図版45　梨木６区２号円形周溝遺構内出土石器及び梨木遺跡出土弥生土器（１～６）
図版46　梨木遺跡出土弥生土器（７～12）
図版47　梨木遺跡出土弥生土器（13～16）

第Ⅰ章　　序　　説

第１節　調査に至る経緯と経過

１　調査に至る経緯

平成７年度、熊本県土木部道路建設課から、平成11年度開催の「くまもと未来国体」に向けての県内交通整備の一環として、熊本県上益城郡益城町大字古閑及び大字広崎地内に益城熊本空港インターチェンジ建設事業が概ね10haに及ぶ広範囲で計画中であり、事業計画地内における遺跡の存在の有無の照会がなされた。

熊本県教育庁文化課では、この地点そのものは、周知の埋蔵文化財包蔵地としての登録は行われていなかったものの、隣接する産業展示場建設予定地内において古閑北遺跡の発掘調査が行われており、遺跡の範囲が広がっていることが予想される旨回答した。このため、道路建設課から遺跡範囲の確認のための試掘調査の依頼があり、依頼を受けた文化課では、建設事業予定地のうち買収済みの部分について試掘調査を実施することになった。

試掘調査は、平成７年５月23・24日に参事江本直、平成７年10月11・12日及び平成８年２月22・23日に学芸員長谷部善一が実施した。その結果、試掘対象地のうち約7,900㎡から縄文及び弥生時代の遺物が多量に確認され、この部分には縄文及び弥生時代の遺跡が存在すると判断された。

このため、道路建設課と文化課は、遺跡の取り扱いについて協議を行い、平成８年度から本調査を実施することとし、平成８年４月から、建設事業予定地内での発掘調査を行った。

また、本調査の実施中に新たに買収された建設用地についても５回にわたって試掘調査を実施し、新たに遺跡の存在が確認された8,800㎡についても本調査の対象として、引き続き発掘調査を実施し、平成９年９月に調査を終了した。

なお、この事業はインターチェンジ本体部分（約6,500㎡）を日本道路公団、町道部分（約2,400㎡）を上益城郡益城町、産業展示場進入道路・インターチェンジ取り付け道路及び調節池部分（約7,800㎡）を熊本県が、それぞれを分担するという複雑な事業であった。しかし、文化課では一連の遺跡と判断し、三事業分の遺跡を同時に発掘調査を実施した。

２　調査組織

調査主体	熊本県教育委員会
調査責任者	桑山　裕好（平成８年度、文化課長）
	豊田　貞二（平成９・10年度、文化課長）
調査総括	松本　健郎（平成８年度、主幹兼文化財調査第二係長）
	島津　義昭（平成９年度、主幹兼文化財調査第二係長、平成10年度、課長補佐）
調査担当	野田　恒親（平成８・９年度、参事）
	岡本　真也（平成９年度、文化財保護主事）
	濱田　彰久（平成９年度、文化財保護主事）
	本山　千絵（平成８年度、嘱託）
	荒木　聖子（平成８年度、嘱託）
	池田由希子（平成８年度、嘱託）

安達　武敏（平成９年度、嘱託）
長尾　彰心（平成９年度、嘱託）
中川　裕二（平成９年度、嘱託）
報告書担当　野田　恒親（平成９・10年度、参事）
濱田　彰久（平成９・10年度、文化財保護主事）
荒木　聖子（平成９年度、嘱託）
安達　武敏（平成９年度、嘱託）
本松亜希子（平成10年度、嘱託）
牧寺　俊明（平成９年度、臨時職員）
調査指導及び助言者
新東　晃一（鹿児島県埋蔵文化財センター、課長補佐）
清田　純一（城南町歴史民俗資料館）
写真撮影　今村龍太郎（フォト・リュウ）

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置（第１図）

古閑北遺跡・梨木遺跡は、熊本県の中央にある、益城町の北西部（北緯32度47分18秒・東経130度47分27秒）に位置し、赤井川の支流木山川の北側の低い丘陵地帯に広がる縄文時代の早期から晩期及び弥生時代後期の遺跡である。

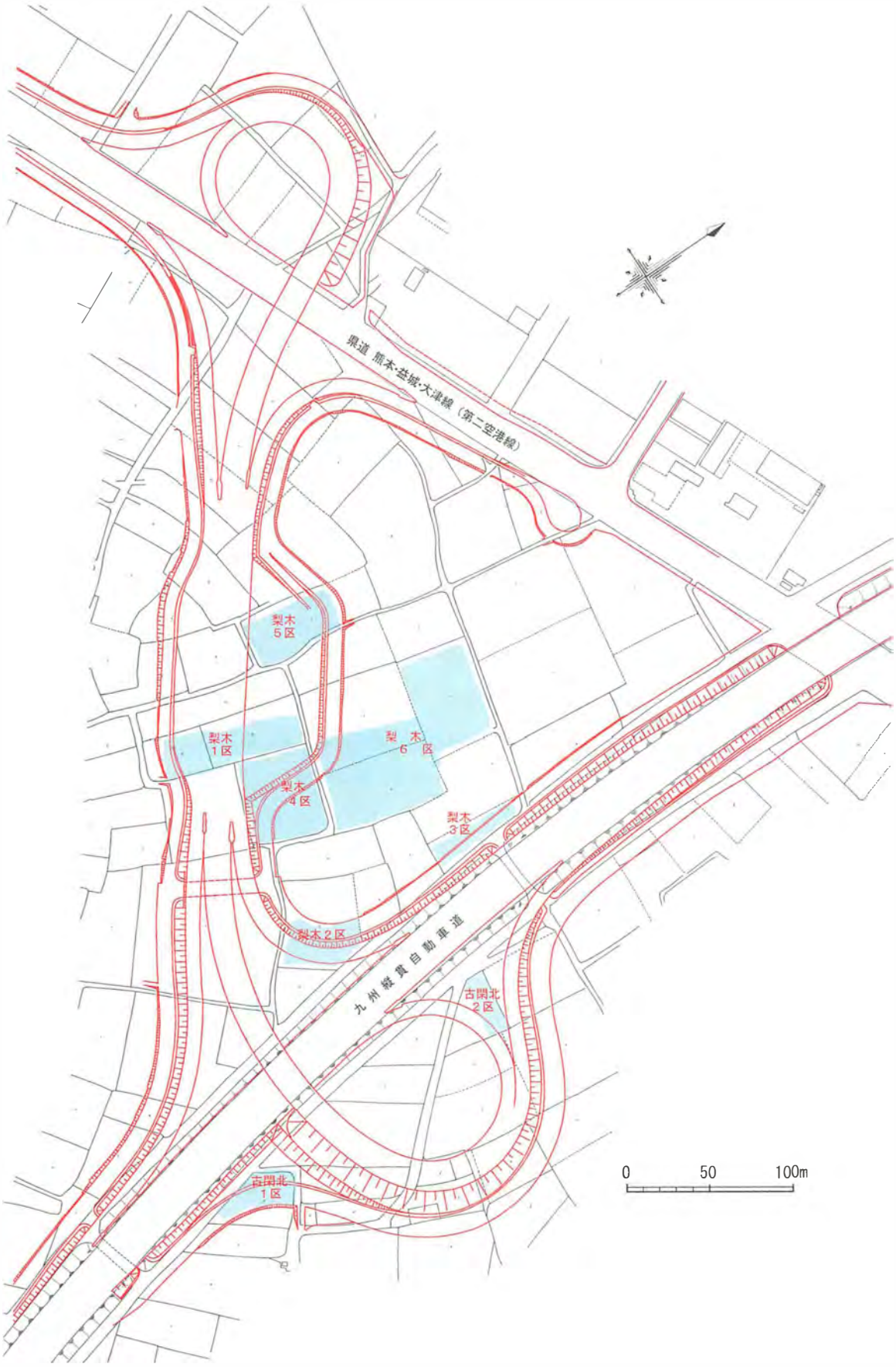
今回の益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴う発掘調査は、遺跡の中心部に当たり、また、調査面積も合計16,700㎡に及ぶ大規模なもので、遺跡の性格を考えるうえで重要な遺物が多数出土した。

なお、今回の調査地点及び調査面積は、平成８年度調査区が益城町大字古閑字横道235番地及び249－1番地の約1,200㎡、益城町大字広崎字梨木1,258番地、1,259番地を中心とする約7,000㎡。平成９年度調査区が益城町大字広崎字梨木1,271番地、1,481番地の約8,500㎡である。

２　遺跡の地理的環境

古閑北遺跡・梨木遺跡の所在する益城町の地形は、東部・南部は九州山地から続く、城山(480.4m)・朝来山（469.5m）・船野山（307.8m）･飯田山（481.2m）などが山塊を形作る。北部には広大な益城台地がひろがり、その北方をしめる高遊原は空港として利用されている。北の台地と東･南の低地には阿蘇外輪山、冠ヶ岳に源を持つ木山川が東から西に向かって流れ、谷底平野が発達している。西は熊本平野に連なり、その東域をなす。丘陵と平野の境には豊富な湧水がみられ、いくつもの自噴池がある。木山川には赤井川･金山川･岩戸川などが注ぎ、北側台地の下を流れる秋津川と江津湖において合流し、加勢川となり有明海に連なる。この豊かな水は、低地に肥沃な平野を造るとともに、水運路としても人々の生活に役立ってきたが、降水の多い年には水害を引き起こす元凶でもあった。しかし、このような恵まれた水を有効に利用して人々の生活は今日に至っている。

また、気候は多日照・高温・多雨、すなわち「光と熱と雨」の三拍子が揃っており、熊本県の中でも穏やかな数値を示し、生活のしやすさを現している。



第１図　古閑北遺跡・梨木遺跡調査区位置図

なお、一帯の地質は阿蘇溶結凝灰岩（阿蘇４火砕流）を基盤とし、上層に阿蘇４風化層、洪積世堆積層、沖積世堆積層をのせている。遺跡付近はほぼ平坦で、平均標高は約30mである。

３　調査区の地形

古閑北遺跡・梨木遺跡は熊本県上益城郡益城町大字古閑及び大字広崎字梨木にある。遺跡名は旧来の古閑遺跡の北側約１㎞に位置するということで「古閑北遺跡」、及び小字名の梨木を冠して「梨木遺跡」とした。

両遺跡とも益城台地の南側に位置し、平均標高は約30mで、九州自動車道を挟んで、東側が古閑北遺跡、西側が梨木遺跡である。

古閑北遺跡は、ほぼ中央部を県道熊本・益城・大津線（第二空港線）が東西に貫き、北側に東部環境工場東側に井関農機熊本工場、南側には広安西小学校がある。

梨木遺跡は、北側に県道熊本・益城・大津線（第二空港線）、西側にさくらマーケット、南側の台地上にさくら病院がある。

４　遺跡周辺の歴史的環境

古閑北遺跡・梨木遺跡の周辺には、各時代の遺跡が集中的に分布しており、益城町内でも有数の遺跡群を形成している。詳しくは「古閑北遺跡・梨木遺跡周辺遺跡分布図」（第２図）及び「古閑北遺跡・梨木遺跡周辺遺跡一覧表」（第１表）にまとめたが、ここでは周辺の主な遺跡について、簡単にまとめてみたい。

（１）旧石器時代

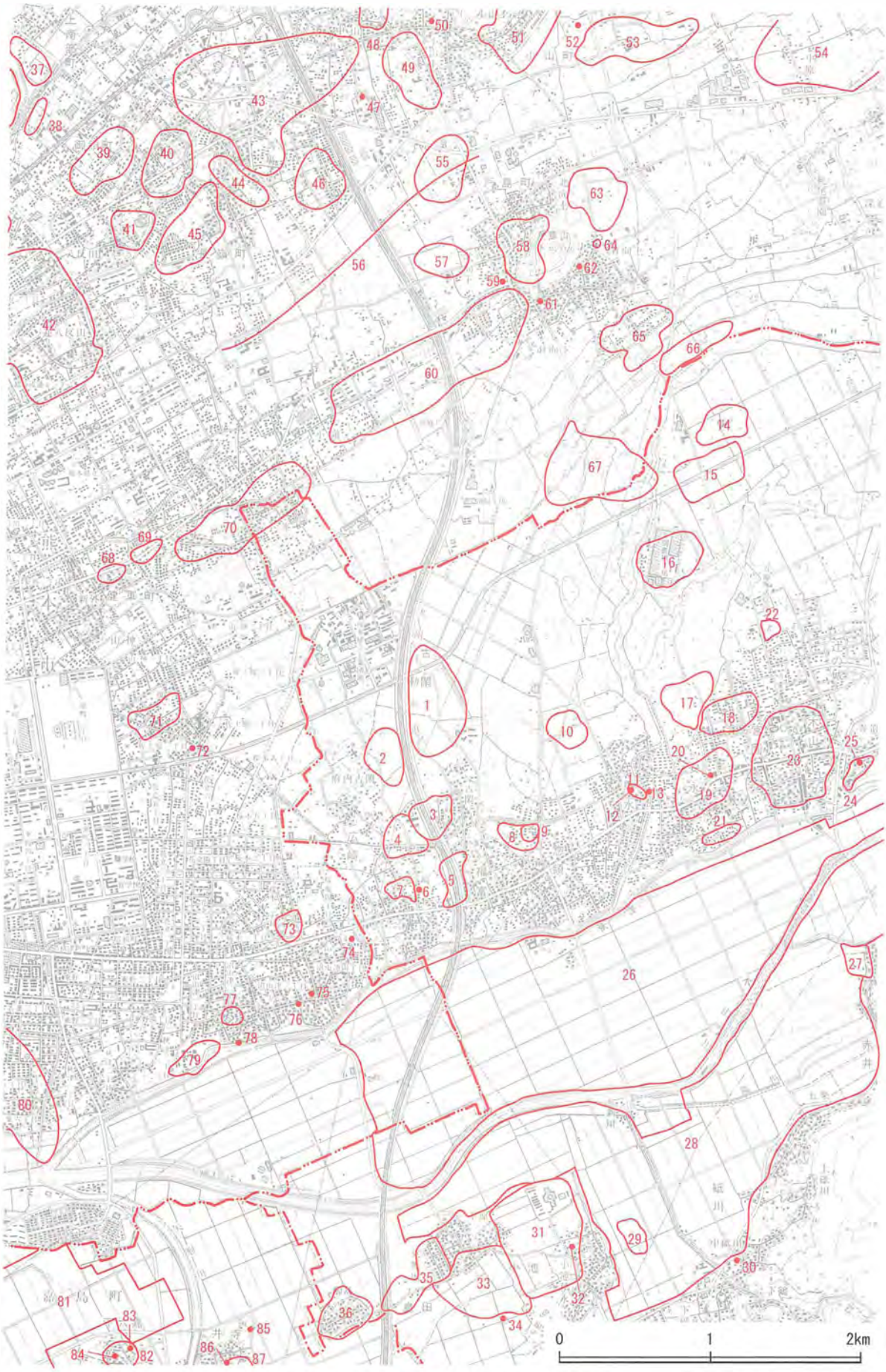
熊本地方における歴史上の最初の痕跡である旧石器時代の遺跡であるが、最近では発見される遺跡数も増加し、次第にこの時代の文化の様相が明らかにされつつある。益城町でも、塔の平遺跡（大字小池）から細石器・スクレイパー・剥片・礫器（輝緑凝灰岩）が表面採集されている。また、近隣の「くまもと未来国体」の主会場予定地である熊本市平山町の石の本遺跡からは約22,000年前の火山灰堆積層である「姶良・丹沢（AT）層」の下にあたる赤褐色土層から局部磨製石斧や剥片石器などの石器が出土し、熊本のみならず九州でも最も古い段階の石器群として注目されている。

（２）縄文時代

益城町内には、点々と縄文時代の土器や石器が出土する場所があり、長い縄文時代に、かなり多くの人の生活が営まれたと思われるが､残念ながらその実体は良く分かっていない。ここでは､正式な発掘調査を行った二カ所の遺跡を紹介し、この時代を考えてみたい。

櫛島遺跡（大字島田）からは、押型文土器の他に、塞ノ神式土器の立派なものが出土した。縄文時代の早い時期のものでありながら、土器の表面の文様には、後の時代に流行する、網目の外を線で区画したり、あるいはその中に列点を入れ飾ったり、趣向を凝らしたものがある。また、土器以外の生活の道具である石槍や石斧なども出土した。

古閑遺跡（大字古閑）からは、のちに「古閑式」と呼ばれる縄文晩期の土器が出土した。縄文後期から晩期にかけての土器の移り変わりはよくわからなかったが、古閑遺跡の調査により、三万田式から始まる、九州縄文土器の発展の最後の姿を、古閑遺跡出土の土器が示していることがわかった。



第２図　古閑北遺跡・梨木遺跡周辺遺跡分布図

第１表　古閑北遺跡・梨木遺跡周辺遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	指定	群内遺跡名	備考
1	古閑北	益城町古閑　崎久保・横道	縄文～弥生	包蔵地			
2	梨木	広崎　梨木	縄文～弥生	包蔵地			
3	古閑	古閑　宅地	縄文・弥生	包蔵地			縄文・弥生、土師器外の遺物包含
4	広崎六本木	広崎　六本木		包蔵地			
5	福富	古閑　石井川ほか	縄文・弥生	包蔵地			縄文・弥生、土師器外の遺物包含、瓦片
6	葉山古墳	広崎　葉山	古墳	古墳			稲荷さん
7	葉山	広崎　葉山・西原	弥生～古代	包蔵地			
8	高木箱式石棺	惣領　高木	古墳	古墳			石棺多数
9	惣領	惣領　高木		埋葬			
10	大辻	馬水　大辻	縄文～平安	包蔵地			
11	駿河原	馬水　駿河原	縄文・弥生	包蔵地			
12	狐塚古墳	馬水　駿河原	古墳	古墳			埴輪片、須恵器
13	馬水製鉄所跡	馬水　駿河原	古代・中世	生産			ふいご羽口・鉱滓・青磁・土師器
14	遠見塚	木山　遠見塚	縄文～古代	包蔵地			
15	宮園B	木山　遠見塚ほか	縄文・弥生	包蔵地			縄文～弥生中期土器
16	小久保	上小久保　下小久保	縄文～中世	包蔵地			
17	宗曽利	安永　宗曽利	縄文～中世	包蔵地			
18	辻	宮原　辻	縄文～中世	包蔵地			
19	安永	安永　居屋敷・火迫ほか		包蔵地			
20	火迫石棺群	安永　火迫	古墳	古墳			
21	古川	安永　古川		住居・集落			
22	下辻	木山　下辻	縄文～中世	包蔵地			
23	宮園A	木山　遠見塚ほか	弥生	包蔵地			弥生中期土器
24	木山城跡	寺迫　城ノ本	弥生	城			下部に弥生後期、住居址群
25	城ノ本古墳	寺迫　城ノ本	古墳	古墳			円墳、箱式石棺(移転)
26	条里跡		古代・中世	生産			
27	赤井	赤井　登町	古代	包蔵地			土師器
28	条里跡		古代・中世	生産			
29	八反田	砥川　八反田	弥生	埋葬			弥生中期甕棺
30	砥川城跡	砥川　城の尾	中世	城			(城の尾城跡)
31	秋永	小池　秋永ほか	弥生	集落			弥生中・後期、土師器
32	秋永石棺群	小池　秋永・麻生原	古墳	古墳			
33	東無田	島田　東無田居敷	弥生	包蔵地			弥生中期土器・甕棺
34	鬼塚古墳	小池　鬼塚	古墳	古墳			消滅
35	立石	島田　立石	弥生	包蔵地			弥生土器
36	櫛島	島田　南島	縄文	包蔵地			縄文土器
37	王田遺跡	熊本市上南部町　王田	縄文～平安	包蔵地			黒髪式合口甕棺
38	平ノ山	上南部町		包蔵地			
39	北小迫	御領町		包蔵地			
40	南小迫	御領町	縄文～平安	包蔵地			
41	八反田居屋敷	長嶺町		包蔵地			
42	乾原・迎八反田	長嶺町　乾原・迎八反田	縄文～平安	包蔵地		乾原遺跡・迎八反田遺跡・田の迎遺跡	乾原:縄文後晩期中心　迎八反田:縄文早期中心
43	長嶺遺跡群	長嶺町	縄文～平安	包蔵地		長嶺遺跡・中山叶遺跡・中山五輪塔遺跡(若殿塚遺跡)・馬場居屋敷遺跡・長嶺南遺跡・坂田長者屋敷跡・長嶺石神碑・坂田家墓地	石神碑:天文18年銘
44	長嶺南	長嶺町　南居屋敷	弥生・中世	包蔵地		長嶺広福寺跡・長嶺南遺跡・長嶺共有墓地	須玖式甕棺、寛文・延宝・元禄・正徳の記念碑銘
45	八反田遺跡群	長嶺町　八反田	縄文・中世	包蔵地		殿山古墳参考地	縄文後晩期、土偶
46	長嶺油出	長嶺町		包蔵地			
47	中山畜犬管理所五輪塔	小山町	中世	建造物			同所出土
48	中山	小山町	縄文～平安	包蔵地			
49	小山山伏塚	小山町	弥生	墳墓		馬場氏真山板碑	甕棺墓、銅剣出土?
50	楳国寺境内古塔碑群	小山町	中世	建造物			宝きょ印塔、一字一石、五輪塔
51	小山上	小山町	弥生	散布地			
52	御船塚墓地群	小山町	中世	墓地			
53	御船塚	小山町　御船塚	縄文・中世	散布地			
54	中原道明	小山町	縄文	包蔵地			縄文早期、後晩期。
55	上黒迫（二岡中学校校庭）	戸島町	縄文・中世	包蔵地			
56	南郷往還跡	長嶺町、戸島町	近世	交通			
57	戸島京塚	戸島町	縄文～中世	包蔵地			
58	戸島北向（戸島西）	戸島町	縄文・中世	包蔵地		札の辻遺跡・戸島香福寺跡・戸島神社境内古塔碑群	
59	北向下の五輪塔	戸島町	中世	建造物			農家の庭先、近くに寺院か
60	葉山遺跡群	戸島町　葉山	旧石器・縄文	包蔵地		葉山遺跡・葉山B遺跡・日向下六地蔵	
61	戸島神社入口古塔碑群	戸島町	中世	建造物			宝きょ印塔、五輪塔
62	円通寺跡	戸島町	中世	寺社			地蔵堂、観音堂、塔碑
63	戸島東	戸島町　日向	縄文	包蔵地			
64	戸島経塚跡	戸島町　日向	縄文・中世	包蔵地			経塚一字一石埋納
65	戸島桑鶴	戸島町	縄文～平安	包蔵地			
66	下佐土原	戸島町	縄文～平安	包蔵地			
67	日向桟敷尾	戸島町　日向	縄文	包蔵地		日向遺跡	
68	新外A	健軍町　小峰	縄文	包蔵地			
69	新外B	健軍町　小峰	縄文～平安	包蔵地			
70	小嶺	健軍町　小峰	縄文～平安	包蔵地			
71	佐土原	健軍町　佐土原	縄文・古墳～平安	包蔵地			
72	佐土原芥川板碑	健軍町　佐土原	中世	石造物			線刻観音板碑
73	沼山津	秋津町	弥生～平安	包蔵地			
74	横井小楠の墓	秋津町沼山津	明治	墓			明治2年
75	沼山津板碑群	秋津町	中世	石造物			天文9年、永禄11年
76	沼山津会所跡	秋津町	江戸	包蔵地			
77	下津代里	秋津町	縄文～平安	包蔵地			
78	四時軒及び四時軒跡	秋津町沼山津	江戸	建造物	市		市指定建造物及び史跡
79	沼山津貝塚	秋津3丁目、沼山津　貝原	縄文	貝塚			縄文中期・後期
80	江津湖遺跡群	神水、画図町、水源ほか	縄文～中世	包蔵地		上江津大曲遺跡・堀内邸石造遺物・神水若宮・神祇寺跡・弁天石・古屋敷遺跡	
81	矢形川流域条里跡	嘉島町下六嘉　上島・鯰ほか	古代・中世	生産			
82	西光寺	下六嘉　西光寺	縄文～中世	包蔵地			
83	西光寺甕棺群	下六嘉　西光寺	弥生	埋葬			
84	下六嘉の五輪塔	下六嘉	中世	石造物			
85	手水鉢	井寺　浮島	中世	石造物			
86	井寺古墳	井寺　富屋敷	古墳	古墳	国		横穴式石室墳、幾何文様あり、直刀
87	井寺	井寺　富屋敷	縄文～中世	包蔵地			

（３）弥生時代

弥生時代の遺跡は、発掘調査の事例は極めて少ないが、特に八反田遺跡（大字砥川）から出土した甕棺は、弥生前期の板付式土器と縄文的色彩の強い夜臼式土器が使用されており、当時の縄文時代から弥生時代への移行期の時代相を反映したものとみられる。

木山川左岸に位置する秋永遺跡（大字小池）では弥生時代の竪穴住居跡と思われるものが検出され、免田式土器を含む弥生時代後期の土器が多量に出土した。また、弥生時代中期と思われる甕棺墓も検出された。その他、典型的な弥生期の環濠の一部と思われる断面Ｖ字形の溝や、弥生時代後期の水田遺構も検出された。

平田遺跡（大字平田）では、弥生時代後期の甕型土器がほぼ完全な形で出土した。宮園遺跡（大字木山）では、大形甕棺（須玖式）や黒髪式などの小形の甕棺も出土した。また、東無田遺跡（大字島田）や下原遺跡（大字島田）では、弥生時代中期の甕棺が出土している。

（４）古墳時代

熊本平野の東部に位置する益城町には、畿内政権と強く関わりのある人物の墳墓と考えられる前方後円墳は存在しないが、木山川沿いの湿地帯の縁の方からの開田による水稲耕作と、台地上の畑作物を生産基盤とした在地の大小の支配者階層の人々の墳墓がみられる。

前期から中期にかけての墳墓としては、安山岩製板石で造られた箱式石棺が、大字小池の台地上、大字広崎から大字寺迫に至る台地の縁辺部、大字福原の台地上、大字上陳の台地上などに分布している。このうち発掘調査されたものは少ないが、鏡を副葬していた大字寺迫の城の本古墳を始めとする円墳、大字小池の秋永遺跡にみられる方形周溝墓などがある。

中期の後半には、益城町に隣接した上益城郡嘉島町に装飾壁画のある井寺古墳（円墳・横穴式石室）が造られ、益城町内各地の支配者もその首長の支配下に置かれたものと考えられる。

後期になると、熊本平野東部の勢力の中心は上益城郡御船町の台地上へ移行したとみられ、そこに装飾壁画を持つ今城大塚古墳（前方後円墳・横穴式石室）が造られている。益城町大字小池の鬼塚古墳、大字寺迫の遠見塚古墳、大字福原の鬼ノ窟古墳（いずれも円墳で横穴式石室）は、その勢力下にある各地域の豪族の墳墓とみられる。

また、後期の横穴墓は、県道熊本・高森線に沿
区にみられ、大字寺中の上神内横穴墓群の発掘調査からみると、副葬品は豊かではないが、鉄刀や装身具類を伴うことから一般民衆の墳墓とは考えにくく、各地域の豪族のもとにおかれた官人層ともいうべき支配者層一族の墳墓と理解できるのではないだろうか。

（５）歴史時代

奈良・平安時代になると、律令体制の導入に伴い、肥後国においても行政組織の整備、条里制の施行が進められ、その影響が周囲に及んでくる。益城町の多くは益城郡に属し、「和名抄」に見える小按郷に比定する説がある。益城郡の条里は大きな河川を中心とした自然条件に作用され、御船川・緑川・木山川（赤井川）の３流域に見られる。当町域の条里遺構は木山川を中心にして、北は益城台地縁辺部から、南は船野・飯田両山麓まで、流れに沿って東西へ網羅的に展開している。古代の官衙・寺院に限られて使用されたとされる布目瓦が古閑遺跡（大字古閑）･塔の平遺跡（大字小池）から出土している。又、奈良朝に始まるとされる僧侶・官人の火葬骨を納めた須恵器の骨壺や、大陸産陶磁器の褐釉水注などが福田寺跡（大字福原）から出土している。

中世には、大字広崎及び古閑などは木山郷に属していた。なお、中世の城跡には赤井城、砥川城や飯田城

などがある。

近世になり肥後藩は、寛永９(1632) 年に加藤氏の移封に伴い細川氏の支配に属し、古閑･広崎の各村等は沼山津手永に属した。また、このころから、台地上の開拓が行われるようになり、特に面積増加の著しい村は、木山川中流域、あるいは木山川右岸益城台地東部の台地であり、現在の熊本空港寄りにあたる。

現在の遺跡周辺は、熊本市のベッドタウンとして宅地化が進み、熊本市への通勤者も多い。また、造成によって旧地形が削られるなど、急速に昔の面影を失いつつある。

なお、交通混雑の緩和、市街地化に伴う道路・施設などの環境整備が早急な課題となり、県道熊本・益城大津線（第二空港線）が拡幅されたり、グランメッセ熊本（国際産業展示場）が建設されたり、益城熊本空港インターチェンジが建設されつつある。

第３節　発掘調査の概要

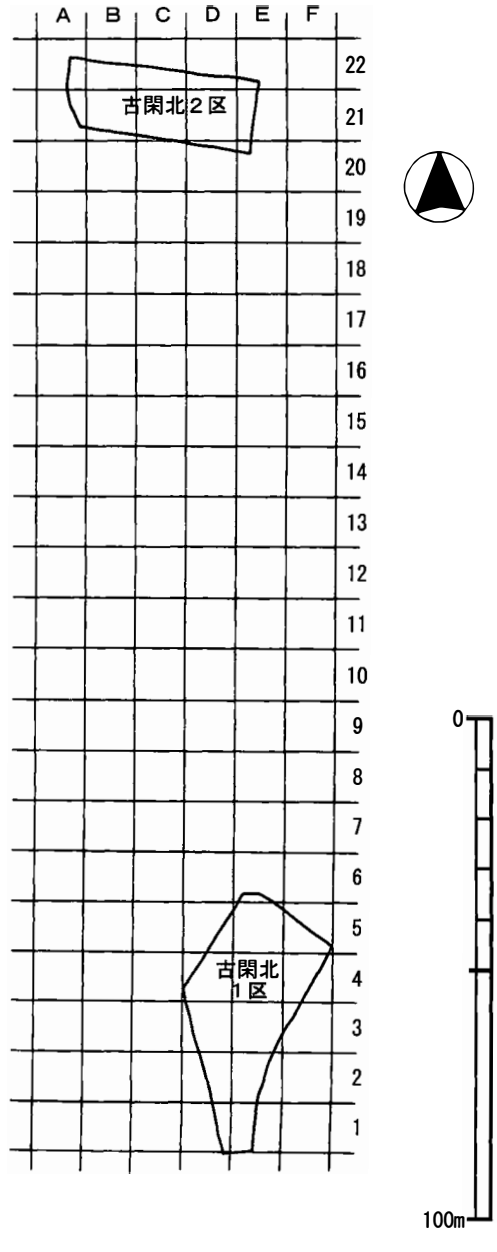
１　調査方法および調査区の設定

（１）調査方法

調査方法は、10m四方のグリッド法を採用した。具体的には、第Ⅰ層の耕作土を重機を使用し一括して剥ぎ取った後、縄文時代から弥生時代の遺物包含層である第Ⅱ層および第Ⅲ層までを土層観察用の幅60㎝ の畦を適宜確保しながら、一区画（10m×10m）毎に人力で掘り下げていく方法をとった。こうして掘り出した遺物は、出土位置及び高度を記入した上で、取り上げを行ったが、遺物の出土量が多い区画では、同一の作業を繰り返し行う手順となる。なお、畦は遺物取り上げ後取り外した。

これらの遺物の取り上げ作業が終了した時点で、区画毎に清掃を行い、第Ⅳ層の上面で遺構の有無を確認した。存在が確認された遺構については、引き続き調査を行い、全体を１／20、一部（集石遺構など）を１／10の縮尺で実測図を作成したほか、遺構の配置を確認するための全体図としては、１／200の地形測量図を作成することとした。また、それぞれの調査段階において、適宜写真撮影を実施した。

なおそのほか、土層の観察と縄文時代以前の文化層の有無の確認のため、任意に数カ所の深堀の試掘坑を設定し、第Ⅶ層まで人力によって掘り下げたが、遺構･遺物は確認できなかった。



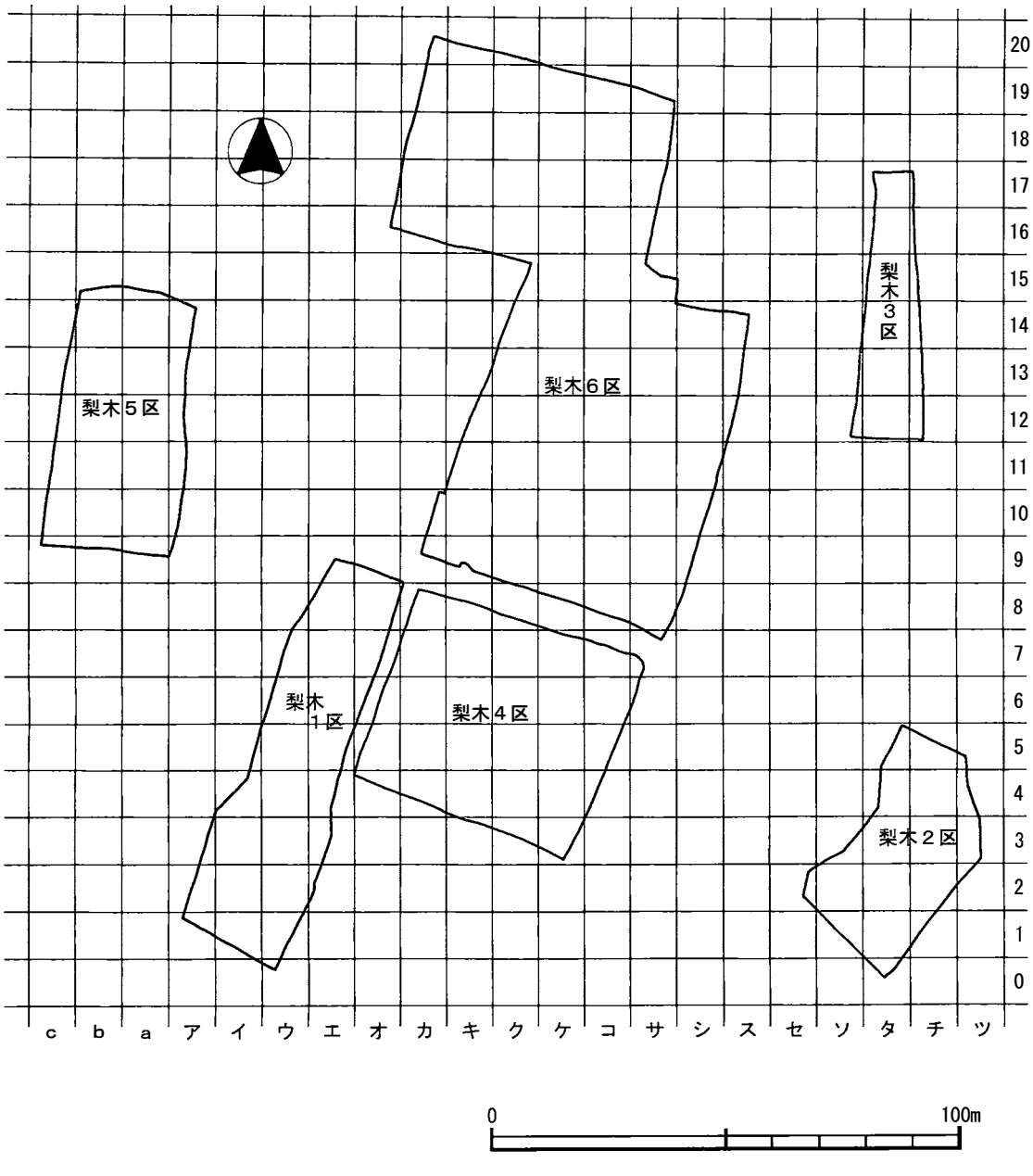
第３図　古閑北遺跡調査区グリッド図

（２）調査区の設定

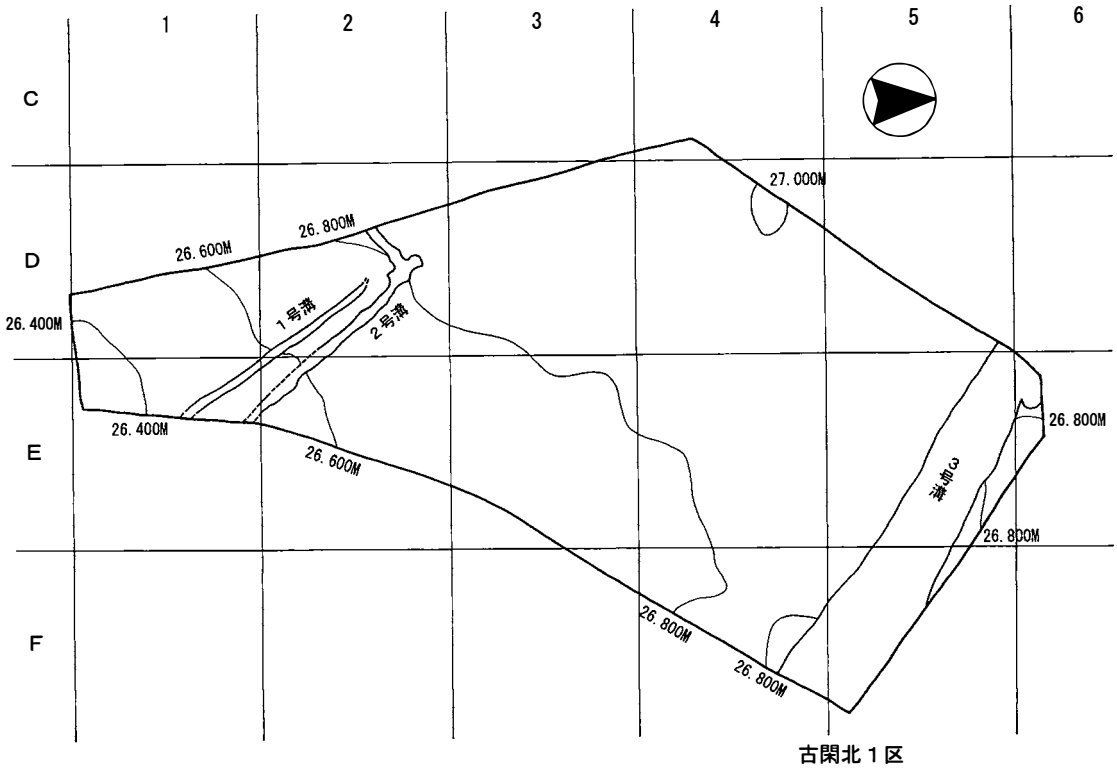
本調査に先立って平成７・８年度に、益城熊本空港インターチェンジ建設事業予定地内の買収済みの建設用地に任意に試掘坑を設定して、遺跡の分布調査を実施した。その結果、試掘対象地区のうち約7，900㎡から縄文及び弥生時代の遺物が多量に確認された。

その後も、平成８年度から本調査を実施しながら、新たに買収された建設用地については随時試掘調査を実施し、遺跡の広がりを随時確認しながら実際の調査区を決定し、最終的に８カ所の調査区で、合計約16，700㎡の発掘調査を行った（第１図）。

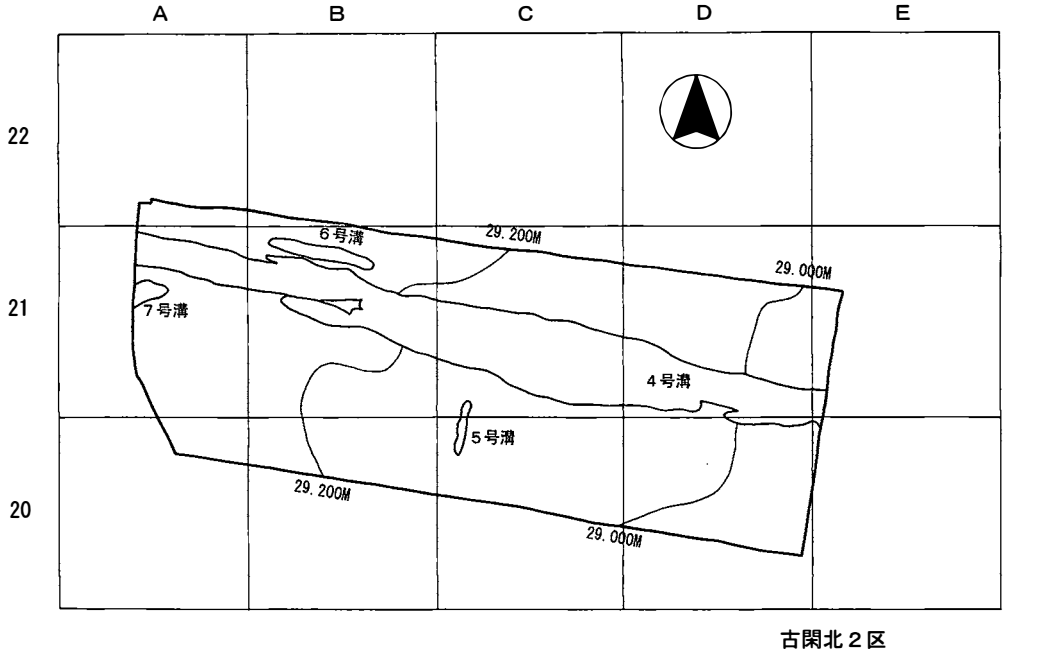
なお、調査区には、測量の基準とするための調査用グリッド（区画）を10mの間隔で設定した。グリッドの設定方向は、４級基準点測量によって導き出した国土座標Ⅱ系のメッシュの方向に沿ったもので、古閑北遺跡は南から北に向かって算用数字で、また直行する側を西から東へアルファベットで表した(第３図)。同様に梨木遺跡は南から北に向かって算用数字で、また直行する側を西から東へアルファベット及びカタカナで表した（第４図）。



第４図　梨木遺跡調査区グリッド図

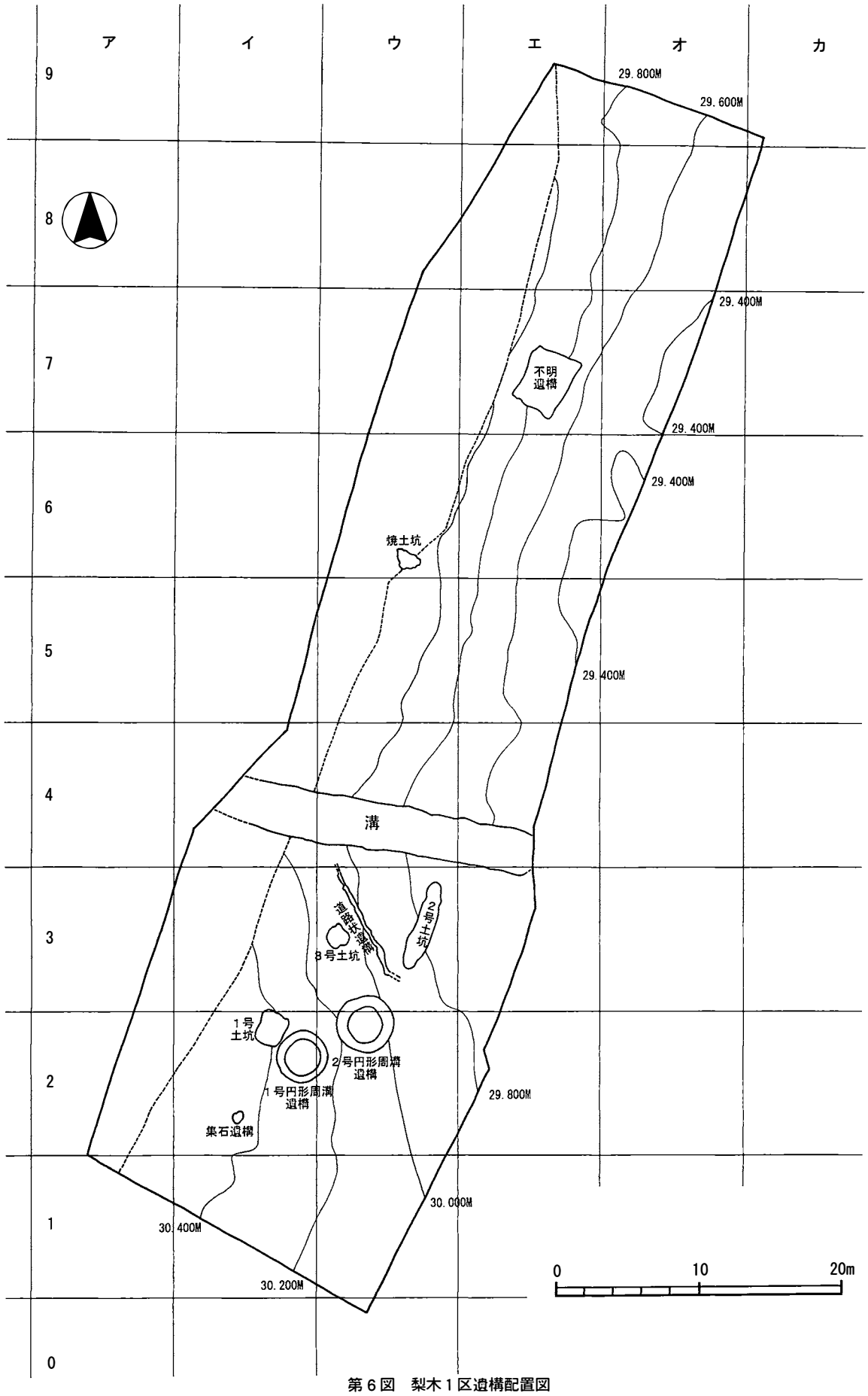


古閑北１区

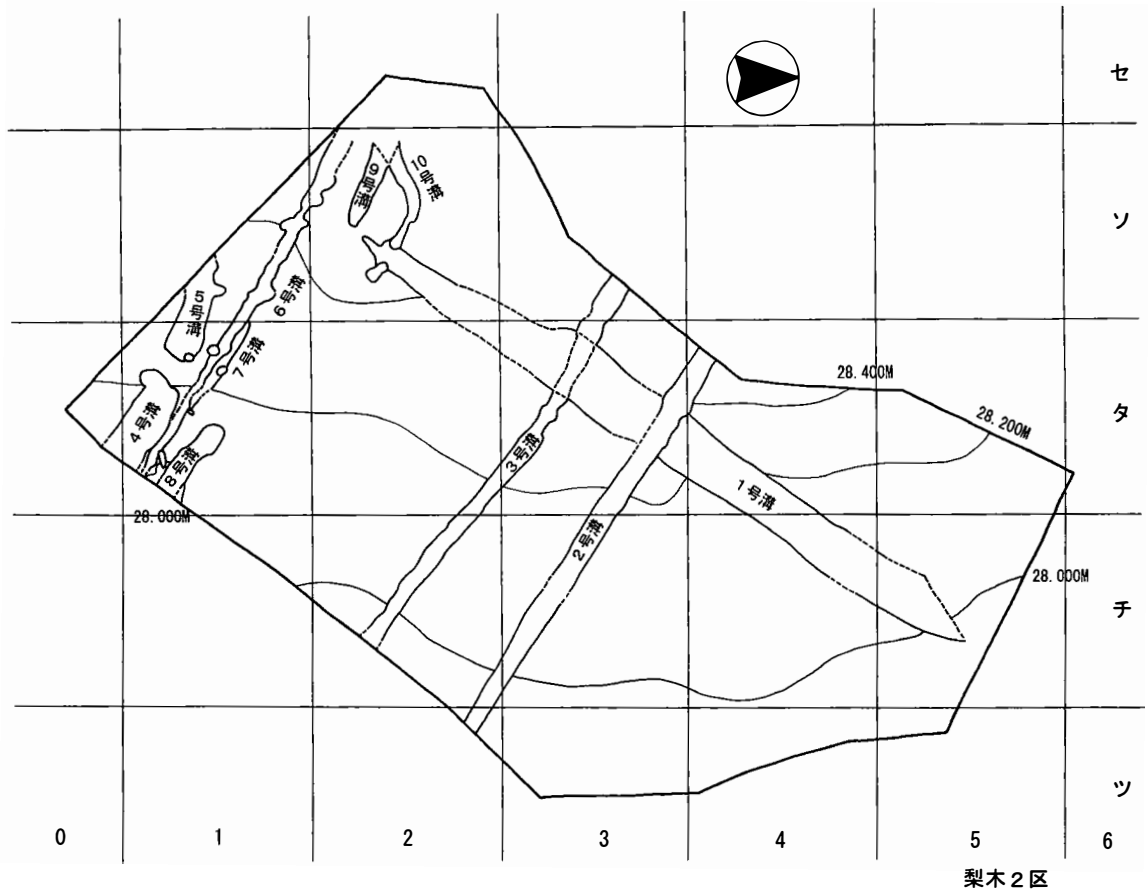


古閑北２区

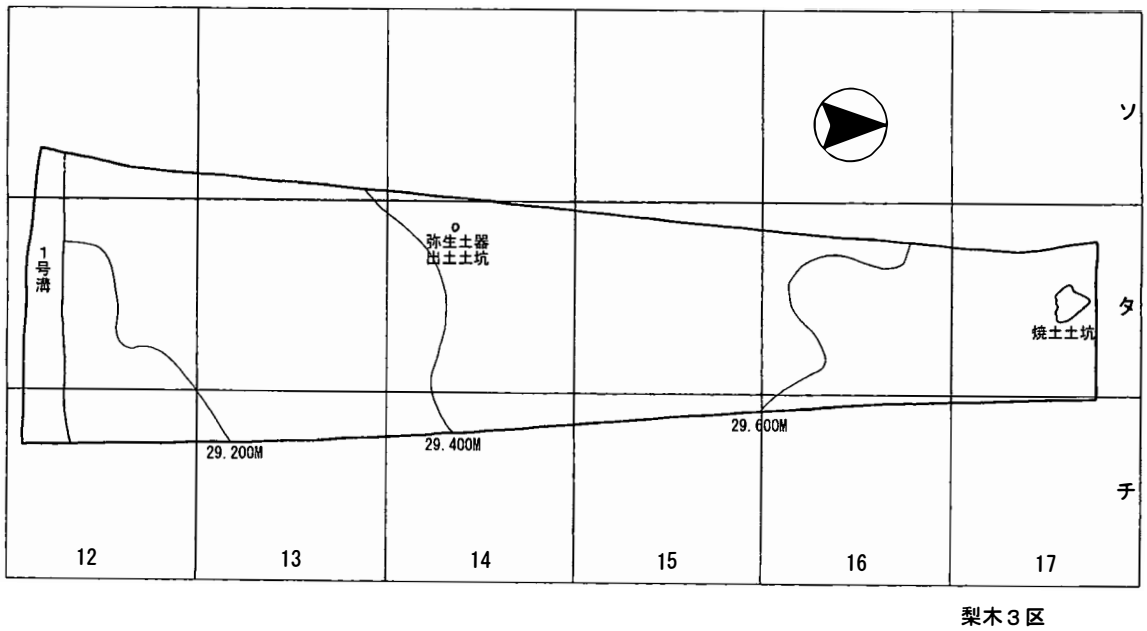
第５図　古閑北１区・２区遺構配置図



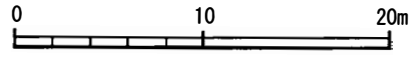
第６図　梨木１区遺構配置図



梨木２区



梨木３区



第７図　梨木２区・３区遺構配置図

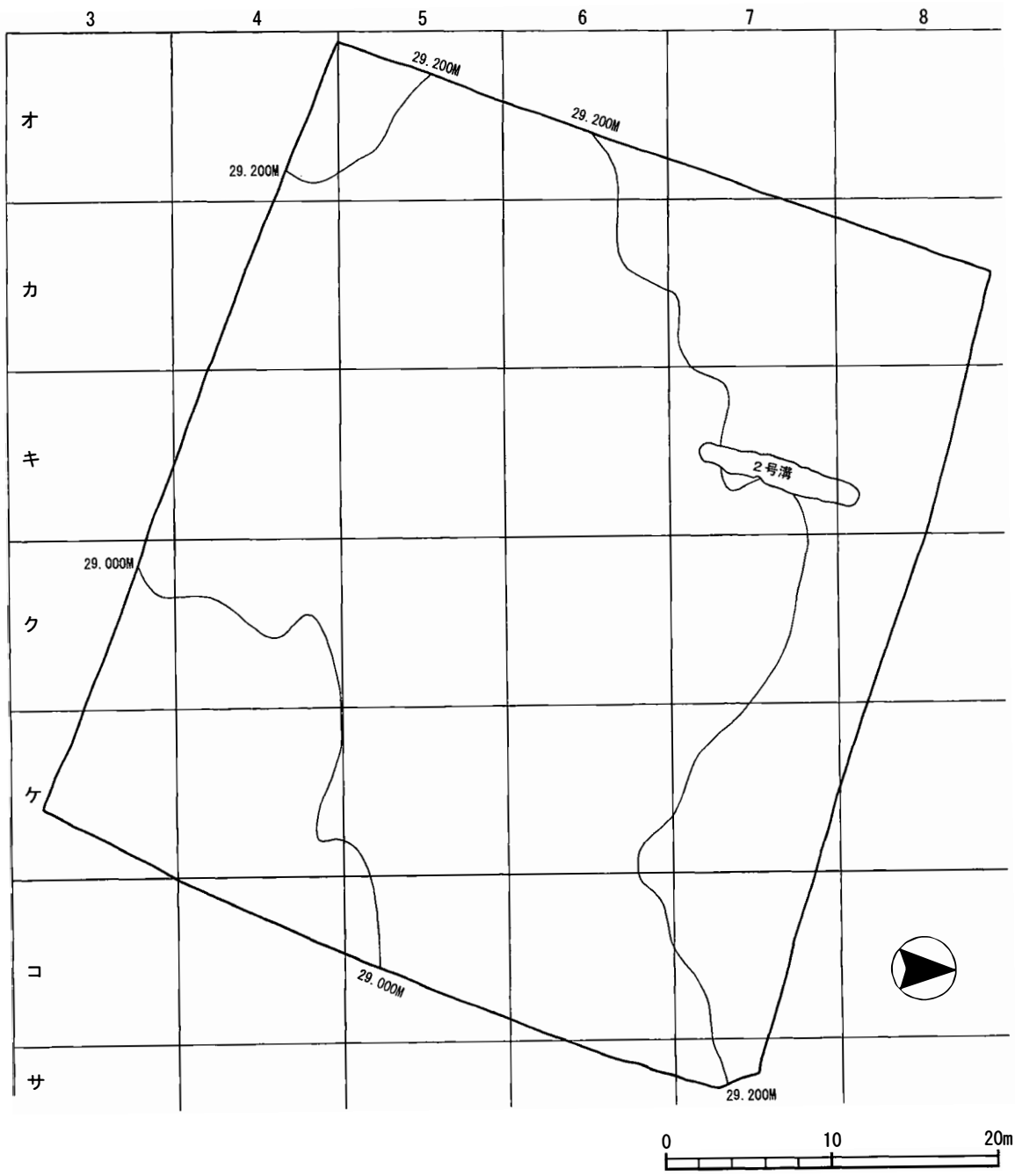
2　調査の概要（第５～10図）

発掘調査の経過を発掘調査日誌から月別に記載することとした。

平成８年５月　発掘調査の準備及び調査の開始（５月８日）。調査事務所設置。表土剥ぎ作業。調査区画の設置。調査区内（古閑北１区）の清掃作業及び遺構確認作業。包含層発掘。この年、九州・山口地区文化財担当者ソフトボール大会が本県で開催された。

６月　調査区の北側に東西に走る３号溝の発掘。この頃から古閑北２区の発掘調査を開始する。雨天の日が多く、作業日数は10日位であり、しかも調査区内に多量の土が流れ込み、発掘作業は停滞ぎみであった。

７月　古閑北２区の包含層発掘及び中央を東西に走る４号溝の発掘。土器集中地点（Ｄ－21グリッド）の



第８図　梨木４区遺構配置図

実測。

８月　新しい調査区の清掃及び除草作業。梨木１区の包含層発掘(古閑北３区を梨木１区とする)。台風12号が熊本市内を通過する。第78回全国高校野球選手権大会決勝戦で熊本工業高校が松山商業高校に延長11回を戦い３対６で敗れる。

９月　梨木１区で硬化面検出。1号円形周溝遺構検出。ウ－３グリッドで弥生土器が多量に出土。

10月　２号円形周溝遺構検出。次回の調査区の表土剥ぎ作業。

11月　梨木１区で集石遺構検出。新しい調査区（梨木２区）へ移動。

12月　梨木２区の本格的な調査開始。1～３号溝検出、3号溝だけは古い時期の溝のようである。その後大小の溝が10条ほど検出。発掘調査現場事務所を益城町大字広崎字梨木地内に移動する。

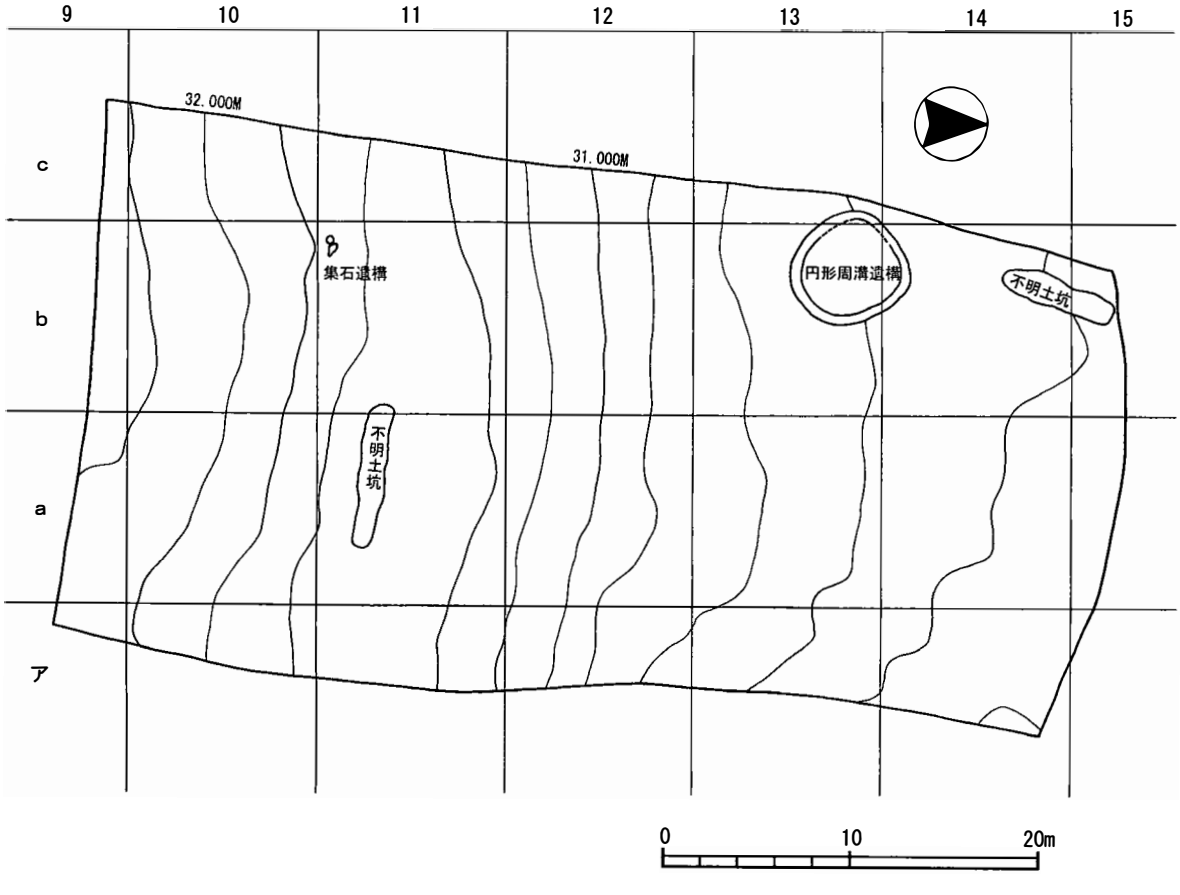
平成９年１月　梨木３区の調査開始。九州自動車道の西側の法面が火事、約１時間後に鎮火。

２月　新しい調査区の表土剥ぎ作業。梨木４区の調査開始、グリッド設定後包含層の発掘。ケ－３グリッド及びカ－４グリッドに土器が集中して発掘された箇所がある。

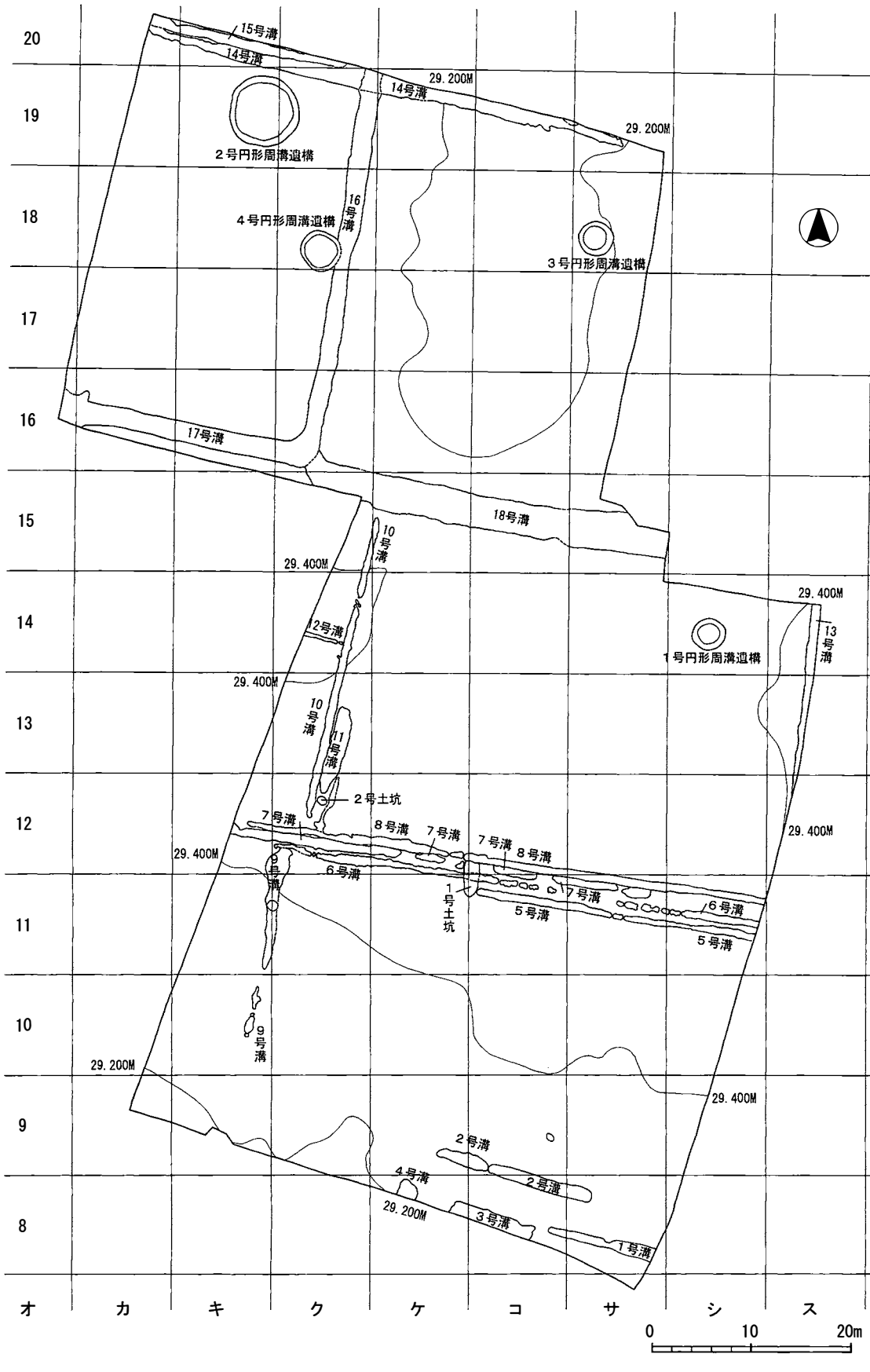
３月　空中写真撮影。梨木４区の道路公団施工部分と町道部分は調査完了。梨木５区へ調査区を移動、同時に梨木６区も部分的に調査開始。梨木５区（ｂ－11グリッド）で集石遺構を１基検出。

４月　新年度から２班体制で調査開始。梨木４区の熊本県の施工部分（調節池）及び梨木５区の道路公団施工部分の調査。

５月　梨木５区で円形周溝遺構を１基検出。梨木４・５区の調査が完了。梨木６区の残り部分の表土剥ぎ作業、発掘調査対象区の最後の調査区である。沖縄返還25周年。



第９図　梨木５区遺構配置図



第10図　梨木６区遺構配置図

６月　１～13号溝の検出。包含層の発掘。

７月　円形周溝遺構の検出（梨木６区１・２号）。14～16号溝の検出。調査面積が残り２筆分となる。

８月　17・18号溝の検出。16号溝に硬化面検出。

９月　円形周溝遺構の検出（梨木６区３・４号）。台風19号が枕崎に上陸。遺跡全体の地形図や必要な図面の作成。遺跡遠望の写真撮影や空中写真撮影の実施。

以上の経過により、９月22日（月）に益城熊本空港インターチェンジに関する発掘調査は無事完了した。

３　遺跡の基本層位（第11図）

古閑北遺跡・梨木遺跡の層序は、熊本平野に基本的に見られるもので、阿蘇山の火山灰堆積土層である。

Ⅰ層は、耕作土層であり、色調は主に灰褐色である。

Ⅱ層は、黒色土層で通称「クロボク」と呼ばれ、開田によりほとんど削平され、部分的にしか残存していない。

Ⅲ層は、しまりのない、サラサラした褐色土層で、上部の暗褐色土をａ、下部の淡褐色土をｂと区分した。

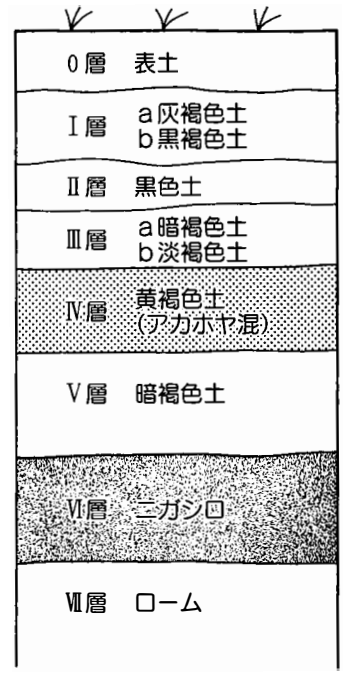
Ⅳ層は、黄褐色土層で、やや粘質性があり、いわゆる「アカホヤ」と称される土層である。

Ⅴ層は、暗褐色土層であるが、上部はかなり暗く、下部は明るい色調である。

Ⅵ層は、「ニガシロ」と通称される黒色土層で、層全体が塊状に硬化している。中には長石、石英、火山ガラスなどを多量に含んでいる。

Ⅶ層は、明褐色ローム質土層で、いわゆる「ハードローム」と称されるものに類似し、かなり硬くしまっている。

なお、遺物出土状況は概ね次のようであった。Ⅱ層が弥生時代後期、Ⅲａ層が縄文時代後・晩期、Ⅲｂ層～Ⅳ層上面が縄文時代早・前・中期であった。



第11図　古閑北遺跡・梨木遺跡基本土層図

第Ⅱ章　古閑北遺跡の調査

第１節　縄文時代の遺物

１　土器（第12～15図）

古閑北遺跡の１区と２区からは、数十点の土器が出土した。縄文時代晩期の土器がそのほとんどを占める。その中から、口縁部と底部を中心に器形の推定が可能なものを25点掲載し、口縁部の特徴をもとに深鉢型土器と浅鉢型土器に分けた。以下、これらの土器について見ていきたい。なお、個別の土器の計測値および観察結果については「古閑北遺跡出土土器観察表」（第２表）にまとめている。

深鉢形土器（１～11、15）

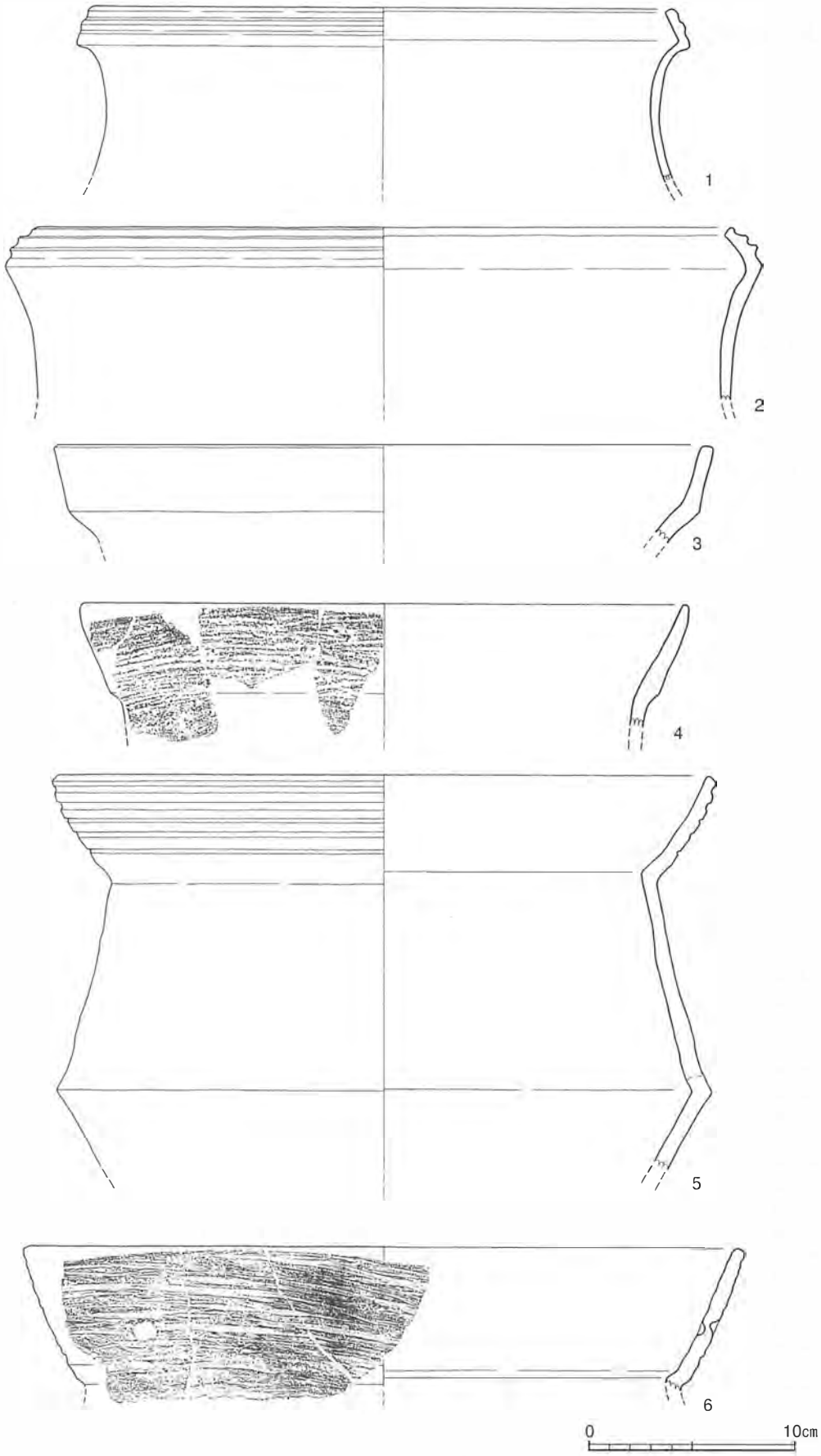
いずれも口縁部の破片である。１と２は内弯気味に外に開く頸部から、くの字状に折れる口縁帯を持つ。口縁帯には２～３条の平行凹線を持つ。２よりも１の方が口縁部の屈曲が強い。３は頸部から外傾気味に立ち上がる口縁帯を持つ。口縁帯は条痕調整の後、ナデ調整を行っている。４は頸部から外傾する肥厚気味の口縁帯を持つ。口縁帯には横方向の条痕が施されている。５～10は頸部でくの字形に屈曲し、外傾する口縁をもつ。５は口縁部外面に５条の平行沈線をもつ。頸部は稜をなして屈曲し、口縁部はやや肥厚し、内弯気味に立ち上がる。６～９は口縁部外面に貝殻条痕を施した後、ナデ調整が行われている。９は頸部の屈曲がゆるく、内面で稜をなさない。10の口縁部外面は無文である。11は胴部で屈曲して内弯する頸部を持ち、口縁部外面に突帯を持つ。15は胴部と頸部でややゆるめに屈曲し、外傾気味に立ち上がる口縁帯を持つ。口縁帯の外面は無文である。

浅鉢形土器（12～14、16～20）

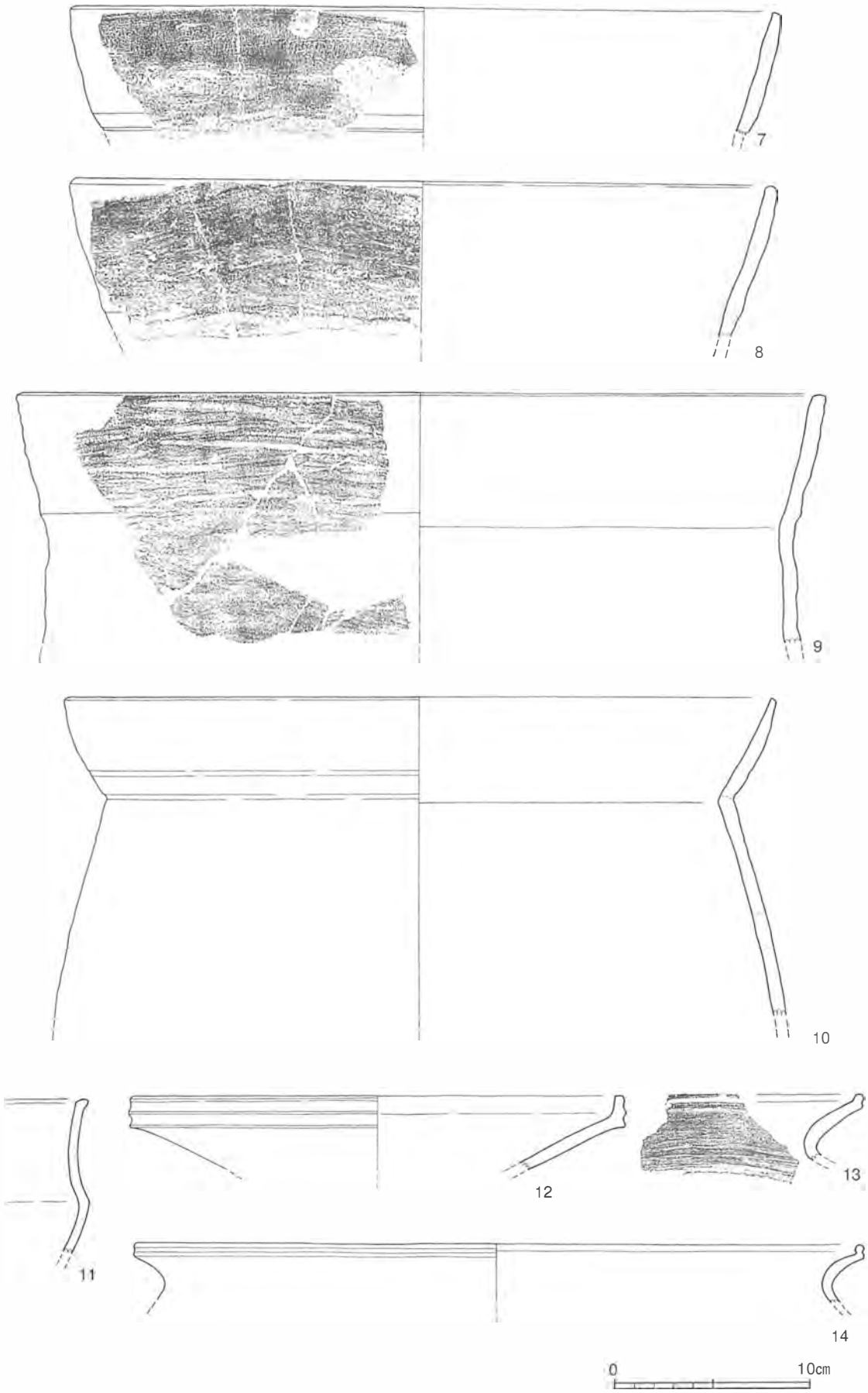
いずれも口縁部の破片である。12は大きく外に開く体部から直立する口縁帯を持つ。口縁帯には２条の平行凹線がある。13と14は胴部から頸部にかけて内側に屈曲し、頸部から立ち上がる口縁帯を持つ。口縁帯に

第２表　古閑北遺跡出土土器観察表

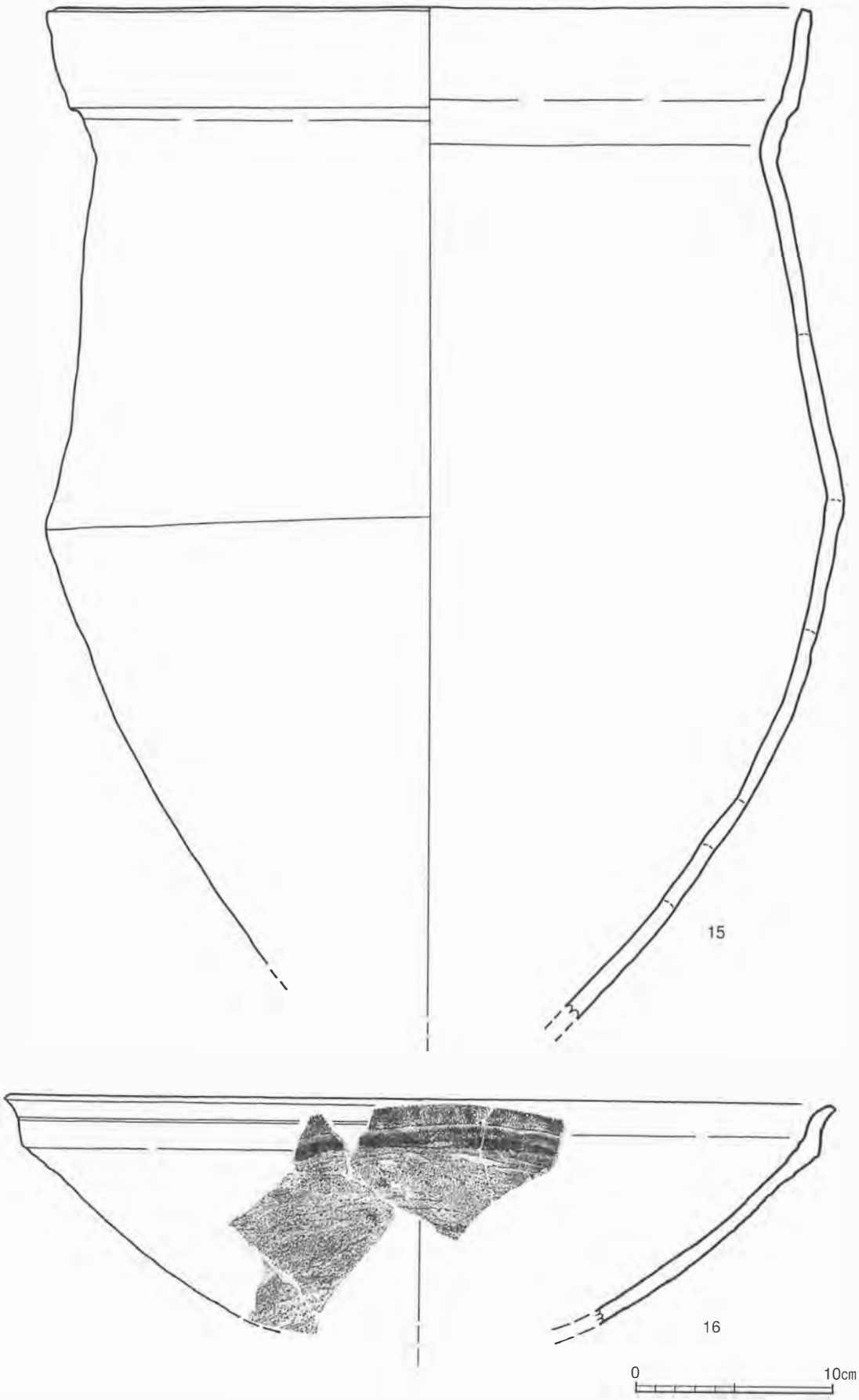
遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調整		色調		胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
					(内面)	(外面)	(内面)	(外面)						
1	深鉢口縁	28.2		8.2	ミガキ	凹線2条、ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ褐(7.5YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	E-1	74	
2	深鉢口縁	33.6		8.3	ナデ	凹線3条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	明赤褐(5YR5/6)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	B-21	715	
3	深鉢口縁	32.0		4.7	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR6/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	B-21	1924	
4	深鉢口縁	29.8		5.9	条痕後ナデ	条痕後ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	2	B-21	1425	
5	深鉢口縁	32.3		18.9	ミガキ	沈線1条、ミガキ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	D-21	一括	スス付着
6	深鉢口縁	35.1		6.9	ナデ	条痕後ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	B-21	596他	スス付着
7	深鉢口縁	36.4		6.2	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	黄灰(2.5Y4/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	C-21	1800他	
8	深鉢口縁	36.4		7.6	ナデ	条痕後ナデ	明黄褐(10YR7/6)	橙(5YR6/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	B-21	681他	スス付着
9	深鉢口縁	41.5		12.7	ミガキ、ナデ	条痕後ナデ	にぶ橙(5YR6/4)	橙(5YR6/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	C-21	1883他	
10	深鉢口縁	36.6		16.1	ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄(2.5Y6/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	D-22	2142他	
11	深鉢口縁			7.9	ミガキ	ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	2	C-21	2496	
12	浅鉢口縁	25.0		3.8	ミガキ	凹線2条、ミガキ	黄灰(2.5Y6/1)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	B-21	590	
13	浅鉢口縁			3.3	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黄灰(2.5Y6/2)	黒褐(2.5Y3/1)	砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	2	C-22	1298	
14	浅鉢口縁	37.4		3.0	ナデ	沈線1条、ミガキ	浅黄橙(10YR8/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	D-1	472	
15	深鉢口縁	39.0		50.3	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ橙(7.5YR7/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	2	D-21	1696他	スス付着
16	浅鉢口縁	42.2		11.3	ミガキ、ナデ	ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	にぶ黄橙(10YR7/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	D-1	320他	スス付着
17	浅鉢口縁	30.1		2.9	ミガキ	ミガキ	黒褐(2.5YR3/2)	黒褐(10YR3/2)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	2	D-22	2145他	
18	浅鉢口縁	22.0		6.6	ミガキ	ミガキ	オリーブ黒(5Y3/1)	褐灰(10YR4/1)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	2	C-22	1260	
19	浅鉢口縁			7.2	ミガキ	波状口縁、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	B-21	706他	
20	浅鉢口縁	33.4		7.3	ミガキ	ミガキ	褐灰(10YR4/1)	黒褐(10YR3/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	C-21	5溝一括	
21	鉢底部		7.5	1.7	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	D-21	一括	
22	鉢底部		9.2	2.3	ナデ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	2	C-21	一括	
23	鉢底部		10.0	7.0	ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	2	B-21	759他	
24	深鉢底部		10.4	11.9	ナデ	ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	D-22	2188他	
25	深鉢底部		13.8	6.3	ミガキ、ナデ	ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	C-21	894他	スス付着



第12図　古閑北遺跡出土土器（1）



第13図　古閑北遺跡出土土器（2）



第14図　古閑北遺跡出土土器（3）

は沈線１条を持つ。16は椀状の器形で、

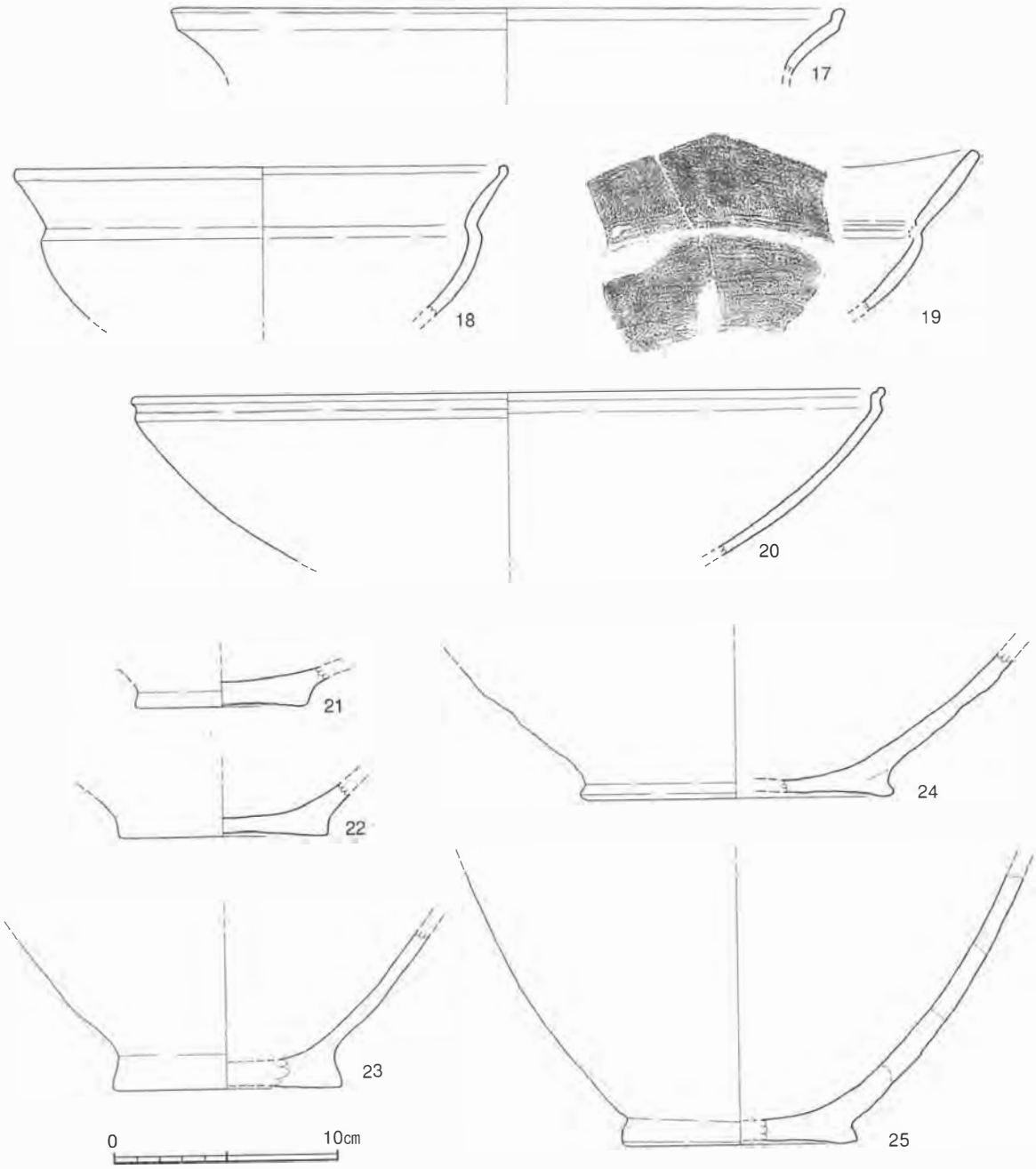
外反する頸部から立ち上がる口縁帯を持つ。19は頸部から外傾する直口口縁で、

器形で、

底部（21～25）

底部は５点掲載した。21と22は胴部が外反し、

出す。24、



第15図　古閑北遺跡出土土器（4）

2　石器（第16図）

古閑北遺跡の１区と２区からは、合計10点の縄文時代の石器が出土した。その内訳は、石鏃５点、石匙１点、石錐１点、磨製石斧３点である。ここでは、出土した遺物の特徴を器種ごとに見ていきたい。

なお、それぞれの遺物の計測値については、「古閑北遺跡出土石器観察表」（第３表）にまとめている。

石鏃（１～５）

石鏃は、５点出土した。石材としては、黒耀石製が２点、頁岩製が１点、安山岩製が２点となっている。

出土した石鏃は、すべて無茎鏃にあたるが、形状はいずれも二等辺三角形を呈するもの（２類）である。さらに、基部の形状の特徴から、平基のもの（ａ）、浅い抉りが入るもの（ｂ）、Ｖ字状に抉りが入るもの（ｃ）、Ｕ字状に抉りが入るもの（ｄ）の４類に細かく分類することができる。

２ａ類（２）

平基で、二等辺三角形を呈する石鏃である。１点出土している。表裏面とも細かな調整が行われている。

２ｂ類（４）

二等辺三角形で、基部に浅い抉りの入る石鏃である。１点出土している。風化と摩耗が激しく、調整がわかりにくくなっている。

２ｃ類（３）

二等辺三角形で、基部がＶ字状に抉られた凹基の石鏃である。１点出土している。作りが非常に丁寧であり、側縁に細かな鋸歯が施されており、左脚部を欠損している。

２ｄ類（１、５）

二等辺三角形で、基部がＵ字状に抉られた凹基の石鏃である。２点出土している。１は長さ3.90㎝の大型の石鏃であり、先端が再生されている。又風化を受けている。５は内弯した側縁を持ち、表裏面とも細かな調整が行われている。

石匙（６）

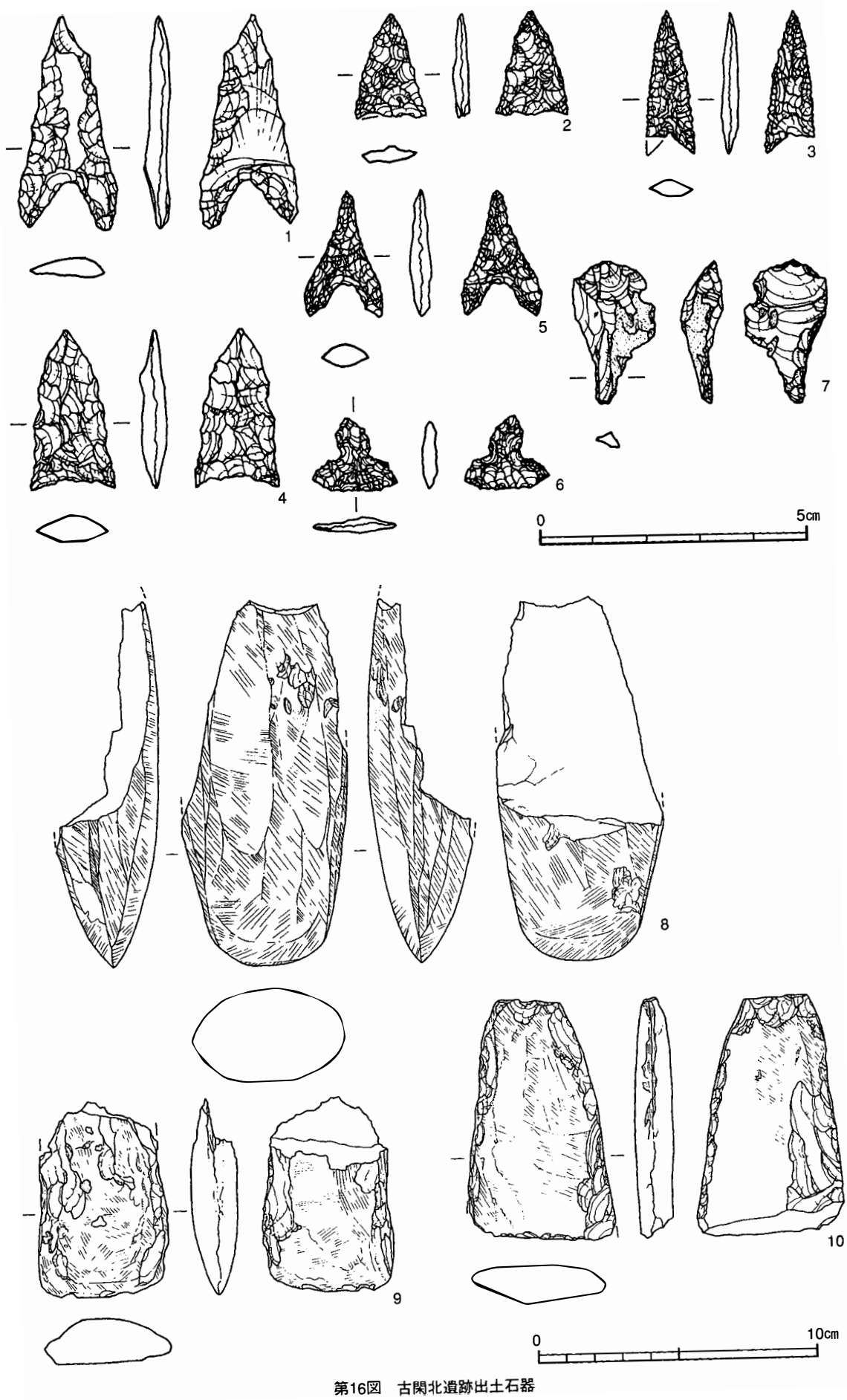
石匙は、黒耀石製の小型の横形石匙が１点だけ出土した。石器の大きさに比して摘み部が大きく作り出されている。表面右側縁に裏面側から細かなリタッチを施し抉入部を作り出している。左側縁の抉入部の作り出しは、表裏両面から施されており石鏃の抉入部の製作技法に類似する。摘み部の作出は、左右両側で調整加工の手法が異なり、見方を変え右側を上部に置くと石鏃である可能性も考えられる。

石錐（７）

石錐は、１点出土した。円形のつまみ状の頭部を持ち、やや長い錐部をもっているが、かなり雑な作りである。

磨製石斧（８～10）

磨製石斧は、３点出土した。８はホルンフェルス化した石材を素材として基部側から石器中位面にかけて大きく欠損している。刃部の形態は両刃であり、刃部及び石器全面を丁寧に磨いている。９は蛇紋岩製の磨製石斧である。基部側上半部を欠損している。刃部及び器面中央は丁寧に磨かれ、一部に形状調整段階の剥離痕が観察される。石器中位面の左右両側縁に潰れ痕が認められ装着痕の可能性が考えられる。10は砂岩製の磨製石斧である。石器中位面から刃部にかけて欠損している。板状に剥離された剥片を素材とし、左右両側縁の表裏両面から形状調整のための剥離を施している。研磨は基部の表裏両面と表面の器面中央部に認められる。基部上端には研磨により面とりが施されている。



第16図　古閑北遺跡出土石器

第３表　古閑北遺跡出土石器観察表

遺物番号	器　種	石　材	計測値（残存部）				調査区	出土地点	取上番号	備　　考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(ｇ)				
1	石鏃	頁岩	3.90	1.85	0.50	1.6	1	D-1	46	風化
2	石鏃	黒耀石	1.90	1.45	0.30	0.6	1	E-1	87	
3	石鏃	安山岩	2.65	0.90	0.30	0.6	2	E-21	2289	鋸歯
4	石鏃	安山岩	2.90	1.55	0.50	1.8	2	D-21	1622	風化
5	石鏃	黒耀石	2.30	1.50	0.40	0.8	2	E-21	2346	
6	石匙	黒耀石	1.35	1.60	0.30	0.4	2	B-21	584	
7	石錐	黒耀石	2.60	1.50	0.75	1.6	2	C-21	4号溝上部一括	
8	磨製石斧	ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ	12.80	5.90	3.70	208.6	1	E-3	235	
9	磨製石斧	蛇紋岩	6.90	4.70	1.70	61.2	1	E-3	231	
10	磨製石斧	粘板岩	8.50	5.80	1.35	81.6	2	C-21	896	基部平坦面あり

第２節　その他の時代の遺構

古閑北遺跡の１区と２区から合計７本の溝状遺構が検出された。時期は不確定であるが、覆土から近世の陶磁器片が出土しているので、近世以降と考えられる。また、３号溝の中程に幅約0.55m×厚さ約0.15mの褐色土の硬化面が検出された。これは、人々の往来により踏み固められた道路状遺構と考えられる。

第Ⅲ章　梨木遺跡の調査

第１節　旧石器時代の遺物

梨木遺跡から出土した旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器２点である。

ナイフ形石器（第17図）

１は１区のエー６グリッドからの出土で、縄文時代の包含層の最下部かつアカホヤ直上からの出土である。完形品で、長さ4.2㎝、幅1.8㎝、厚さ0.8㎝、重さ4.9ｇを計る。

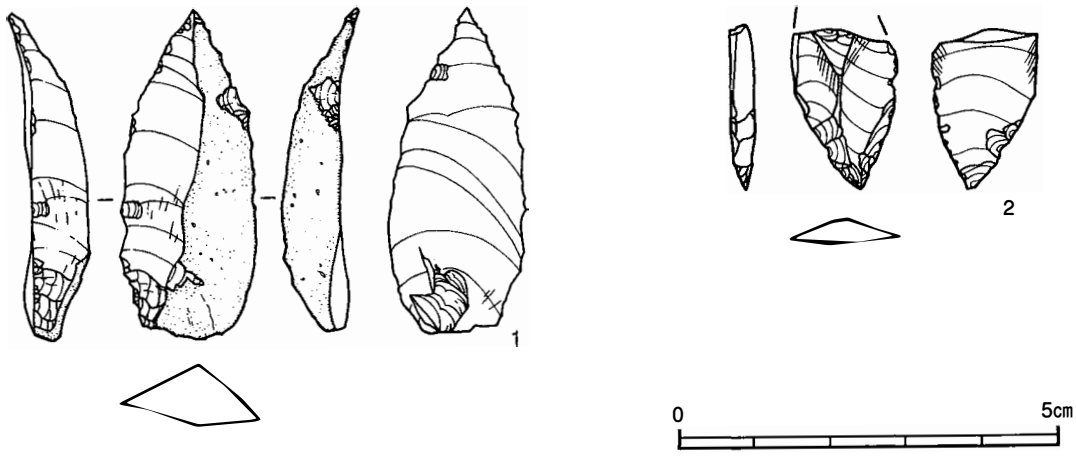
石材は黒耀石で先細る縦長剥片を素材とし、表面に礫面を大きく残し、また裏面にはバルブを残置する。素材剥片の形状を大きく変更せず、表面左側縁基部にわずかにリタッチを加えて作り上げており、基部加工のナイフ形石器に分類できる。石器の先端部は素材剥片の形状をそのまま利用し、左右両側縁に使用痕が観察され、この石器の使用・用途を考える上で示唆的である。

２は１区のオー６グリッドからの出土で、１と同様の出土である。基部を残し刃部は欠損しているので全容はわからないが、長さ2.1㎝、幅1.3㎝、厚さ0.35㎝、重さ0.75ｇを計る。

石材は黒耀石で縦長剥片を素材とし、１と同様に、素材剥片の形状を大きく変更せず、リタッチは基部にのみ、わずかに施されている。表面の剥離面構成は、上下方向の対向する剥離面が観察され、この石器の素材剥片を剥ぎ出した石核の形状を類推することが可能である。

旧石器時代の遺物としては２点だけの出土であるが、本遺跡において確実に旧石器時代にも人々が生活していたという確かな証拠となるものであろう。

第Ⅰ章第２節でも触れたとおり、隣接する益城町の塔の平遺跡からも細石器や剥片石器が表面採集されており、また、近隣の「くまもと未来国体」の主会場予定地である熊本市平山町の石の本遺跡からも約22,000年前の火山灰堆積層である「姶良・丹沢（AT）層」の下にあたる、赤褐色土層から局部磨製石斧や剥片石器などが出土しており、これらは旧石器時代人の狩猟生活が想像できる資料であるといえよう。



第17図　梨木遺跡出土旧石器

第２節　縄文時代の遺物

１　集石遺構（第18図）

縄文時代早期のものと思われる集石遺構が、梨木１区と梨木５区からそれぞれ１基ずつ確認された。いずれもアカホヤ火山灰層下のⅤ層中より検出されている。

梨木１区集石遺構

Ⅳ層（アカホヤ火山灰層）とⅤ層（暗褐色土）の境にやや食い込む形で検出された。伴出遺物がないので時期の特定はできないが、隣接するグリッドにおいて塞ノ神式土器の口縁部等が数点出土しているので、縄文時代早期の遺構が存在する可能性があると思われる。石（合計29個）を取り除いた後の掘り込みは確認できなかった。土層の堆積そのものが削平により浅くなったため、集石の下部しか残らなかったのかもしれない。旧地形は南側丘陵部から北側谷部に向かって傾斜しているものと思われ、集石は丘陵部の北側縁の部分で検出された。

梨木５区集石遺構

梨木５区の南側斜面部で検出された集石で、不整形の２群の浅い掘り込みをもっている。この２群の土坑の中には合計31個の礫があり、約半数は赤く焼けていた。土坑はⅤ層（暗褐色土）の中に掘り込まれており、埋土は柔らかい黒褐色土である。この集石も伴出遺物がないので時期の特定はできないが、縄文時代早期の遺構と考えられる。

２　土器（第19～41図）

梨木遺跡から出土した縄文土器の時期は、早期から晩期まで継続しているが、中期以降のものがその多くを占める。このうち、口縁部と底部を中心に器形の推定が可能なものを144点掲載した。以下、これらの土器について時期別に見ていきたい。

なお、個別の土器の計測値および観察結果については「梨木遺跡出土縄文土器観察表」（第４、５表）にまとめている。

（１）縄文早期土器

押型文土器、塞ノ神式土器が出土した。

押型文土器（１、２）

口縁部１点、底部１点を掲載した。１はやや外反気味の口縁を持ち、外面は横位の山形文、内面は原体条痕と横位の山形文が施文されている。２は平底で、底部と胴部が直線的につながり、外面に横位の山形文が施文されている。

塞ノ神式土器（３、11）

３は口縁部の破片である。円筒形の胴部から屈曲して大きく開く口縁をもつ。内面はナデ調整で、外面の口縁部に連続刺突文、胴部に撚糸文を充填した文様帯が施文されている。11は深鉢形土器で、破片の残りが良く、ほぼ全体を復原することができた。円筒形で上半に最大径をもつ胴部から、やや外反気味に開く口縁部をもつ。外面は全体的に貝殻条痕調整の上からナデ調整が行われており、口縁部に貝殻連続刺突文と細い沈線文、胴部上半には平行して貝殻連続刺突文が３条施されている。器面の状態から、調整の順序は貝殻条痕→刺突文→ナデ→沈線文と考えられる。また、口唇に瘤状の突起が１個現存している。残りの位置は不明

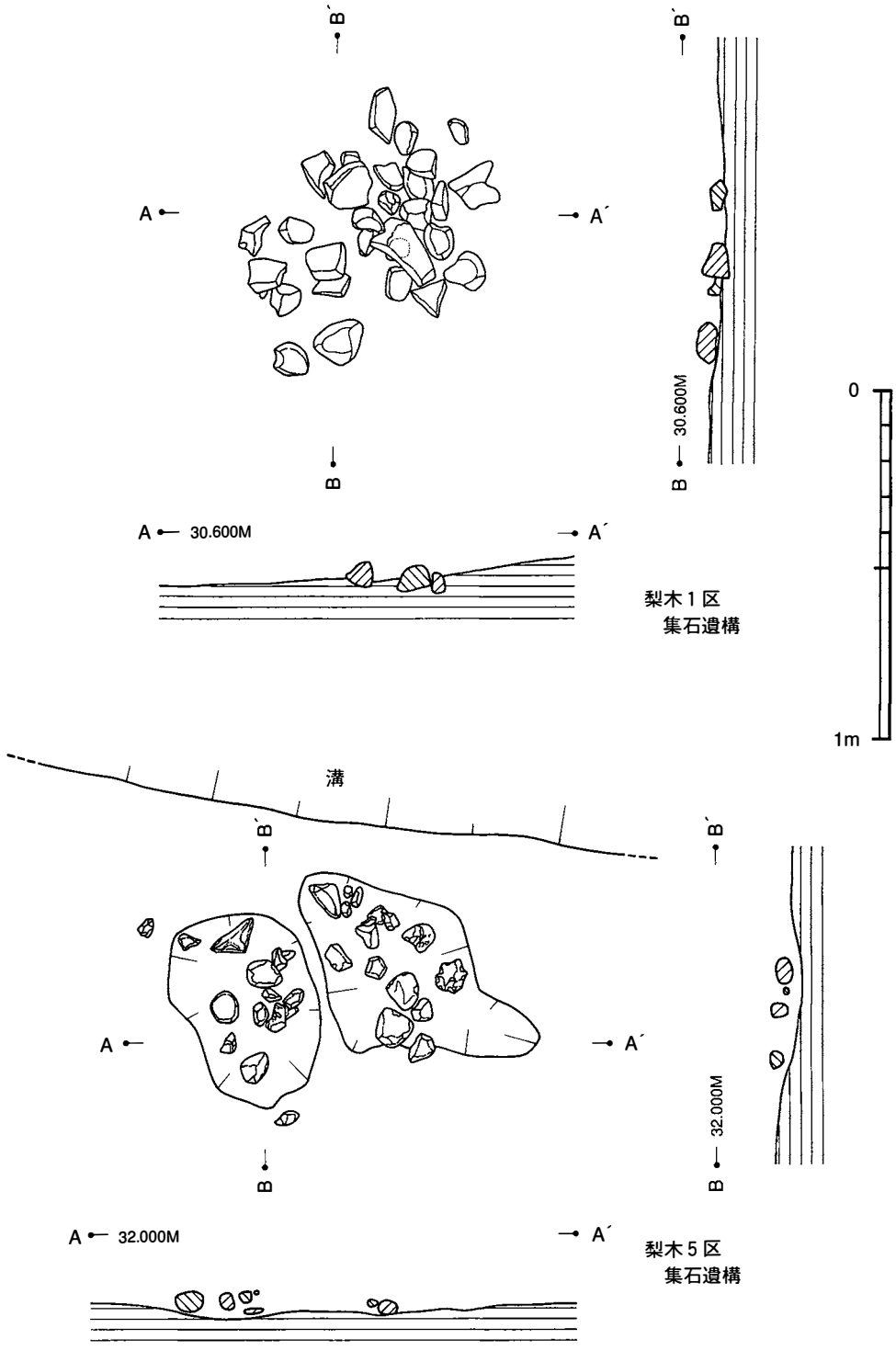
であるが、施文の状況から見ると４個あったのではないかと推定される。

（２）縄文前期土器

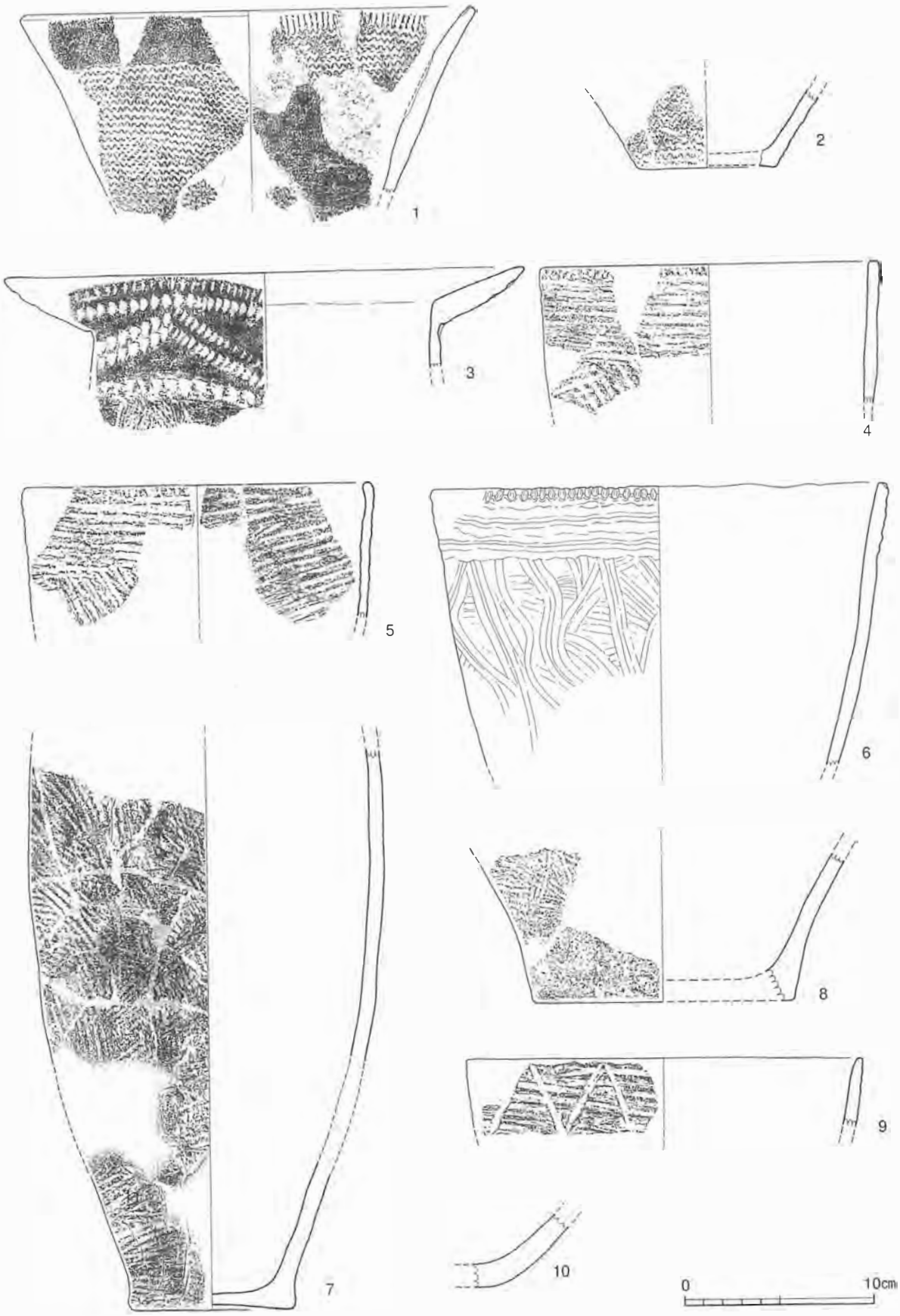
轟式土器、曽畑式土器が出土した。

轟式土器（４～８、12）

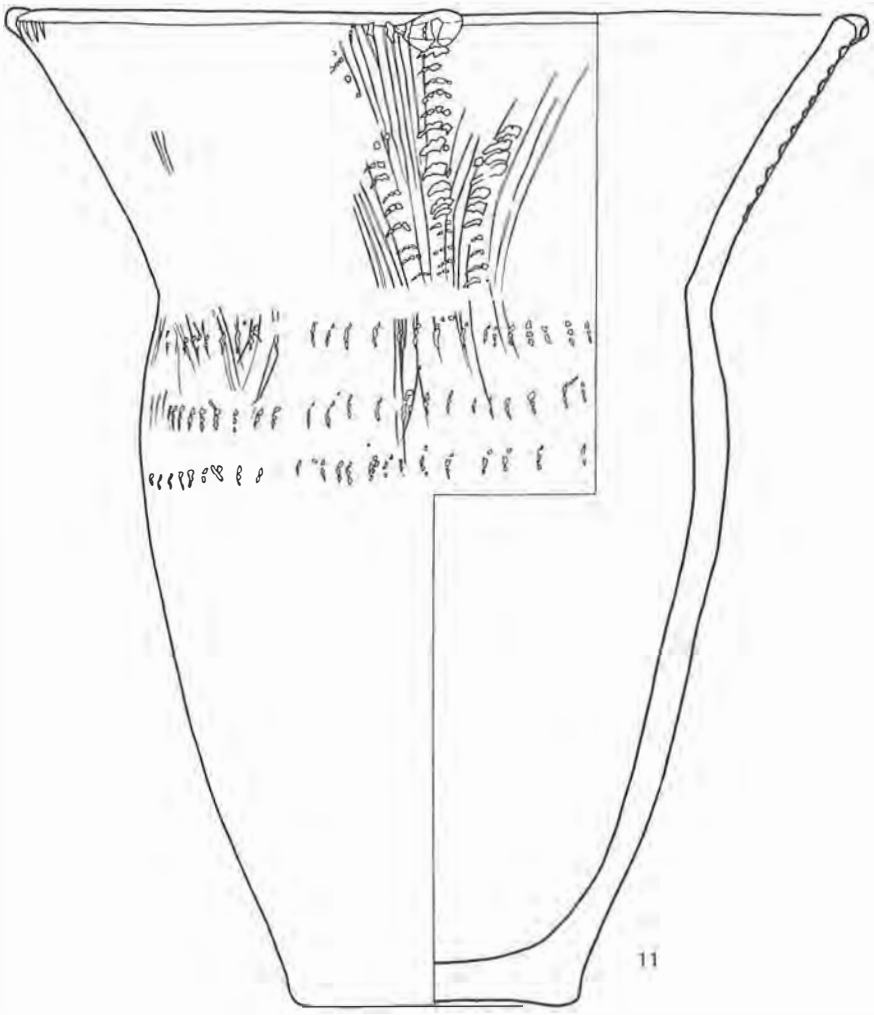
４、５、12は口縁部の破片である。ともに直口口縁で、内外面とも貝殻による条痕調整が施され、口唇には

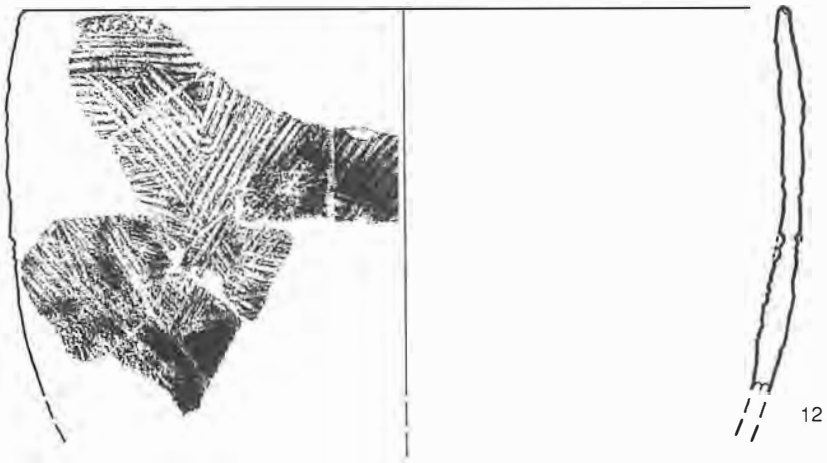


第18図　梨木１区・５区集石遺構



第19図　梨木遺跡出土縄文土器（1）





0　10cm

第20図　梨木遺跡出土縄文土器（2）

刻目を持つ。このうち、４と５は出土地点や施文、胎土の特徴などから同一個体の可能性がある。６は上半部の破片である。直口口縁で口唇に刻み目をもち、口縁下には２条の平行する隆起帯をもつ。また、外面は条痕調整の後、流水状あるいは波状の文様らしきものを施している。７と８は平底の底部片で、内外面とも貝殻による条痕調整が施されている。

曽畑式土器（９、10）

口縁部１点、底部１点を掲載した。９は直口口縁で、口縁部外面は平行沈線文の上に連続山形文を重ねて施文している。10は丸底の底部片で、胎土には滑石が含まれている。

（３）縄文中期、後期前半土器

並木式土器、阿高式土器、出水式土器、鐘崎式土器などが多数出土した。良好な資料が少なく、中期土器と後期土器を明確に区分する事はできなかったが、口縁部と底部の特徴をもとに分類を行った。

口縁部・胴部

並木式土器（13、14）

13は上半部の破片である。外面に貝殻の腹縁と思われる２列単位の施文具による押引文を施し、間の無文部に凹線文を入れて押引文を強調している。口唇にも押引文が施され、一部には突起がある。14は凹線文の後に貝殻腹縁と思われる２列単位の施文具による沈線文が施文されている。また、口唇には押引文が施されている。

阿高式土器（15～46、49～51、62）

梨木遺跡からは多数の阿高式土器が出土した。ほとんどが深鉢形であると思われるが、施文の位置と特徴をもとに、Ⅰ類～Ⅵ類に分類した。

Ⅰ類（15～18、20、21）

上半部に単一の施文が行われているものをⅠ類とした。文様は直線的で、枝状突起があり、入組文は未発達のものが多い。口唇には指頭または棒状工具による刻目をもつものがある。器形は胴部から口縁にかけてほぼ直立するもの（15、17、18）と胴部が膨らみ、口縁が内弯するもの（16）がある。胴部の破片である20、21もⅠ類になると思われる。

Ⅱ類（19、22～24）

文様帯が複数あるものをⅡ類とした。文様は凹点文、入組文など多様で、突帯を使用したもの（19）もある。器形は胴部から口縁にかけてほぼ直立するもの（19）と胴部上半がいったんくびれて口縁が直立あるいは外反気味になるもの（22～24）がある。

Ⅲ類（25～27）

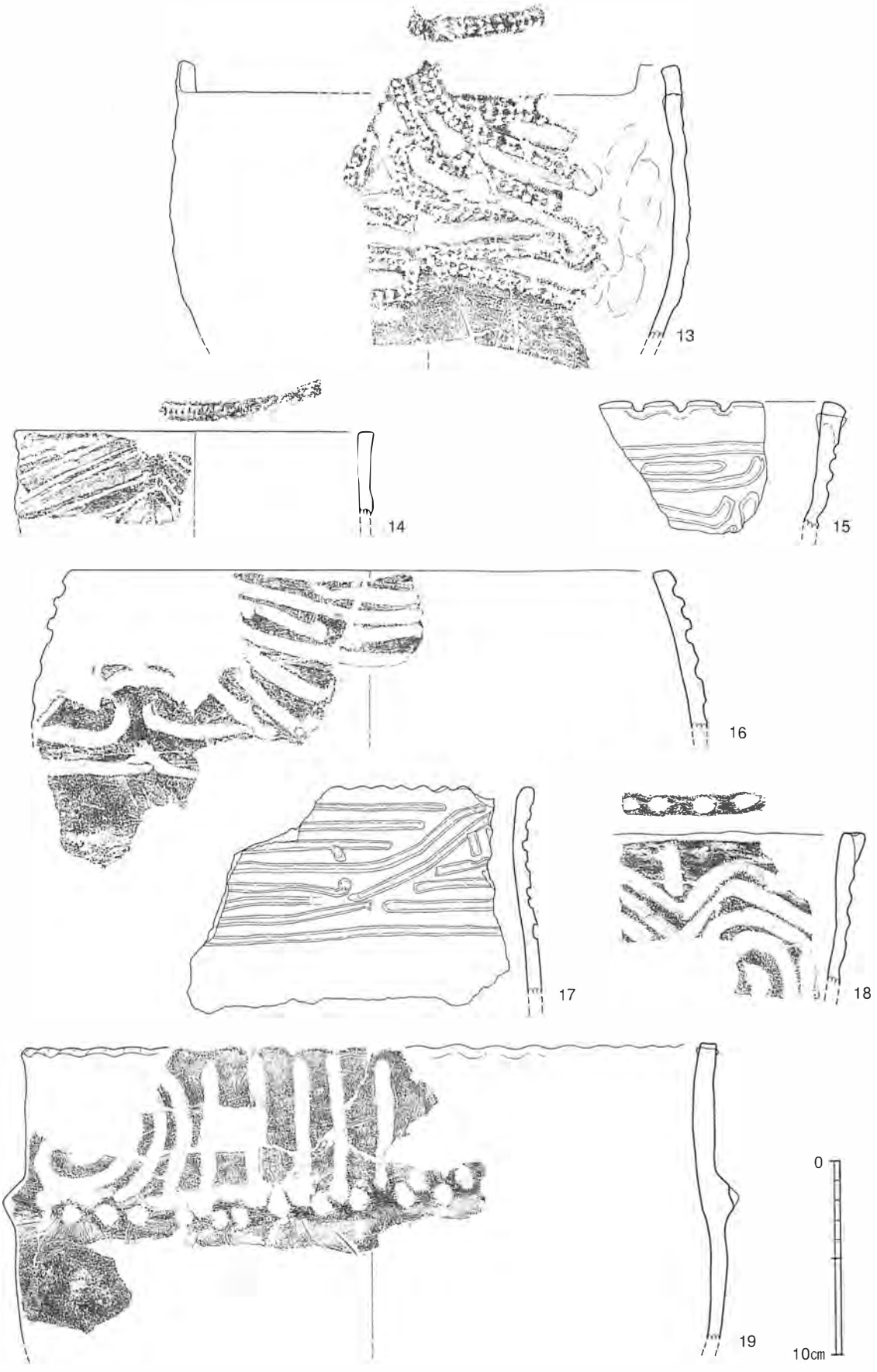
口縁部に狭い文様帯をもつものをⅢ類とした。文様は平行的で、入組文などが使用されている。器形は単純な深鉢形で、直立気味の口縁になると思われる。

Ⅳ類（29～34）

口縁部に押点文をもつものをⅣ類とした。中には押点文と簡略化した凹線文を併用したもの（29）もある。器形は口縁が直立するもの（29、34）、外反するもの（30）、内弯するもの（31、33）、肩部で屈曲して立ち上がるもの（32）がある。

Ⅴ類（28、35～37、49～51）

やや肥厚した口縁をもち、浅く太めの凹線文が施されているものをⅤ類とした。文様は平行文やＳ字状文、凹点文などがある。いわゆる「南福寺式」に近い特徴を持つ。



第21図　梨木遺跡出土縄文土器（3）

Ⅵ類（38～46、

無文のものをⅥ類とした。器形は口縁が直立するもの（38～40、

（42～44）、

出水式土器（47、

胴部上位がふくらみ、直

をもつもの（52～56、

が肥厚していないが、

御手洗Ａ式土器（57、

外反気味の直口口縁で口縁の内外面に連続刺突文をもつ土器で、

市来式土器（59、

断面三角形に肥厚させた外反口縁をもつもの。口唇部には連続刺突文をもつ。

北久根山式土器（61）

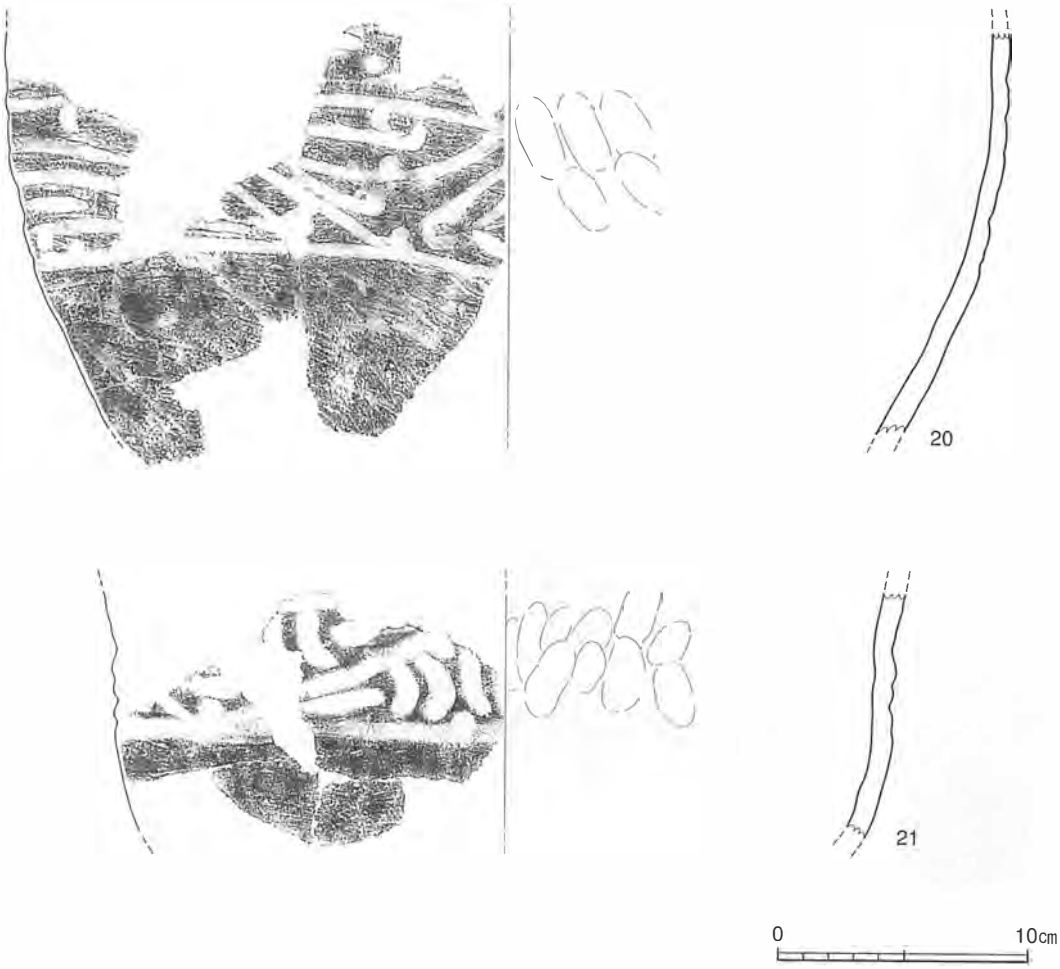
61は肥厚した口縁に綾杉状の短沈線文を施しており、

鐘崎式土器（65～72）

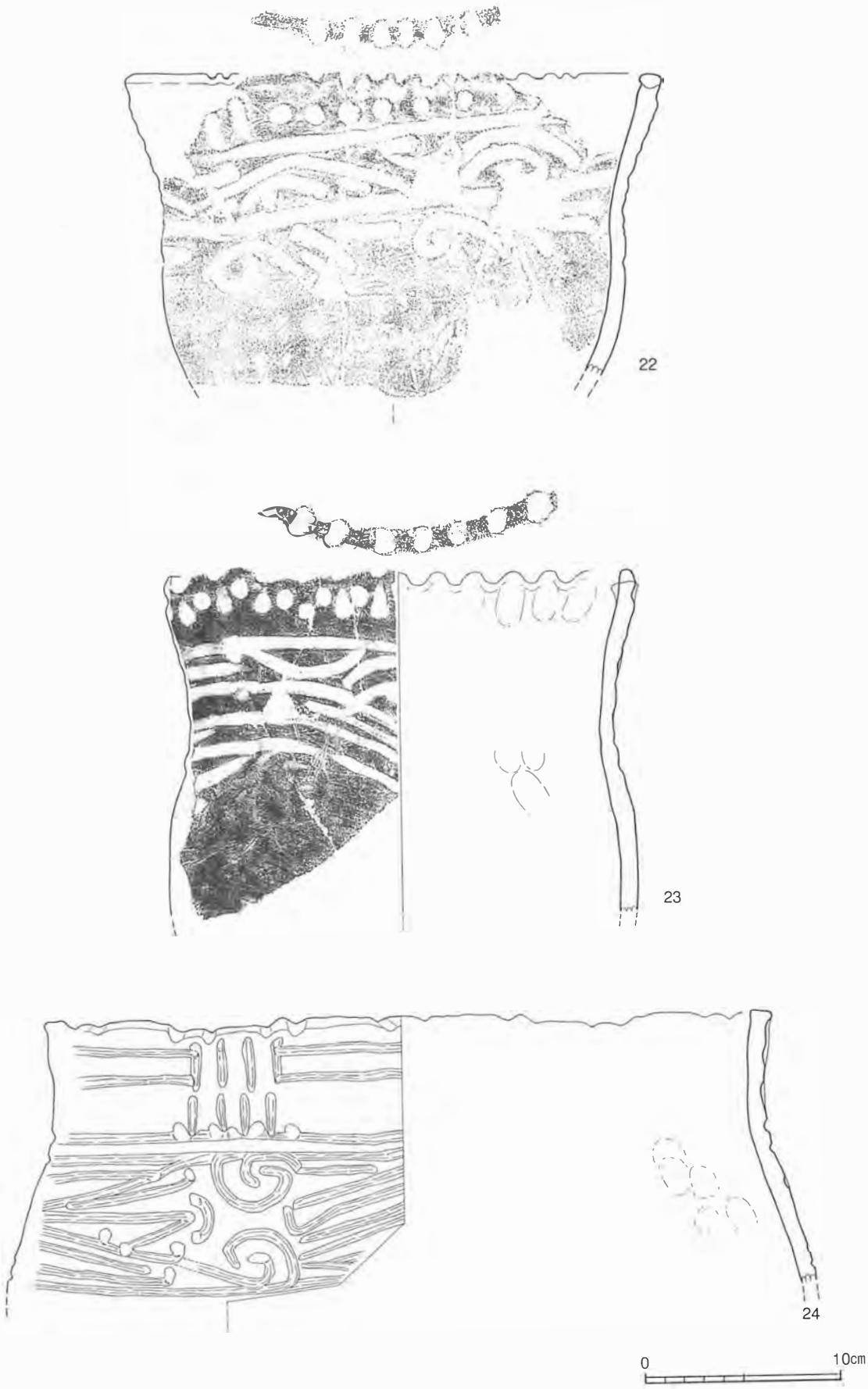
沈線文と磨消縄文を併用した土器で、

（65～67、

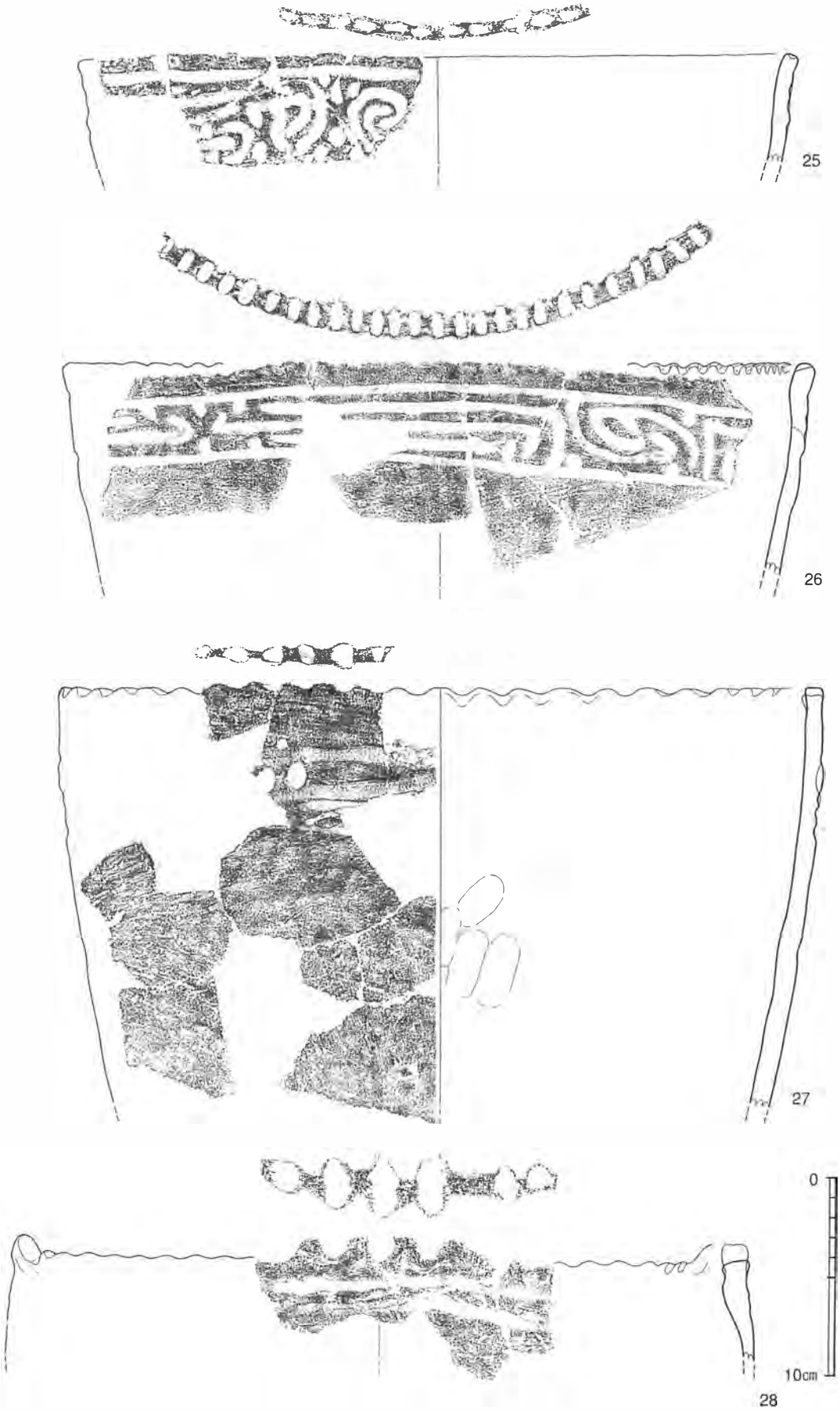
（65、



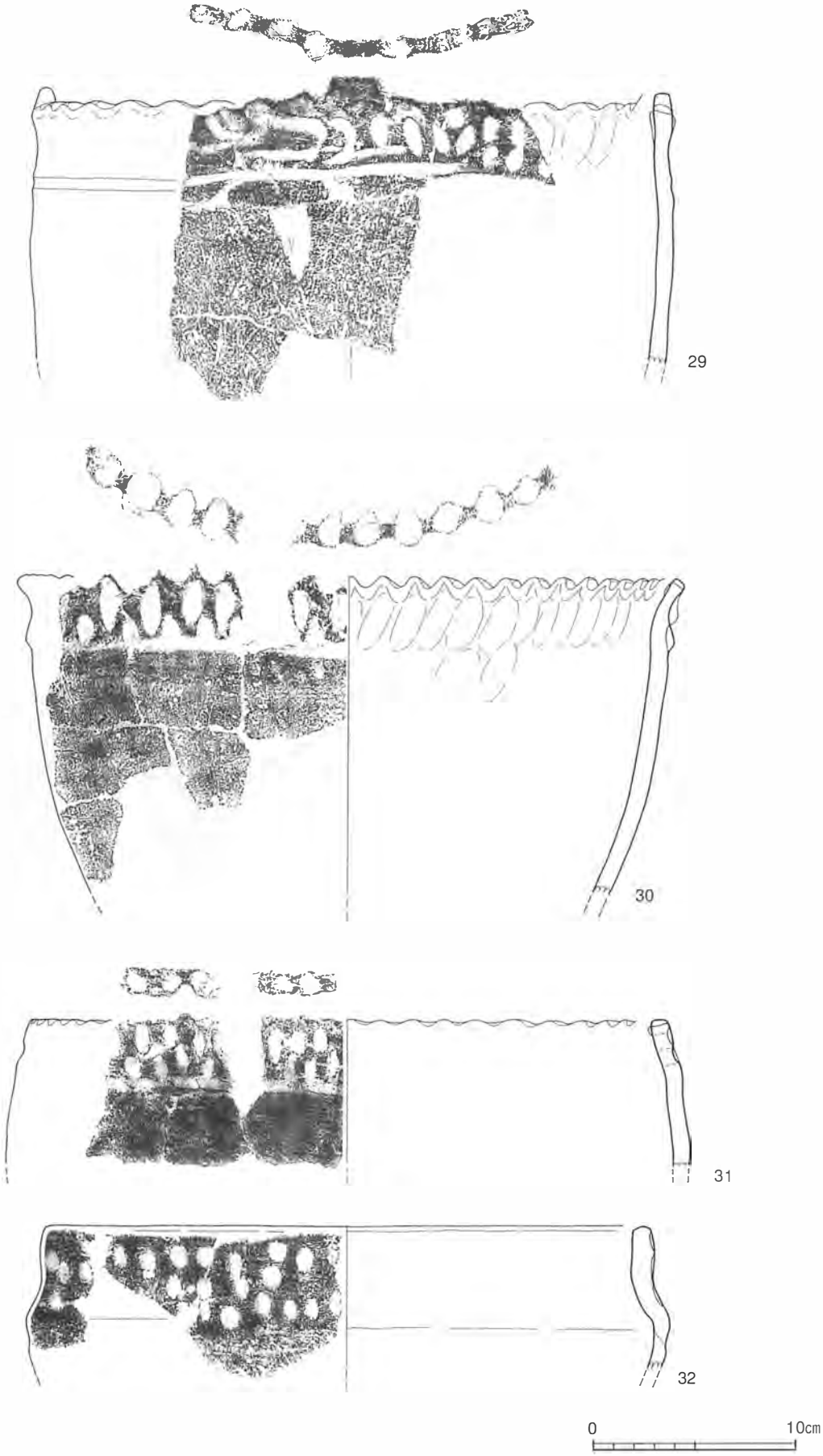
第22図　梨木遺跡出土縄文土器（4）



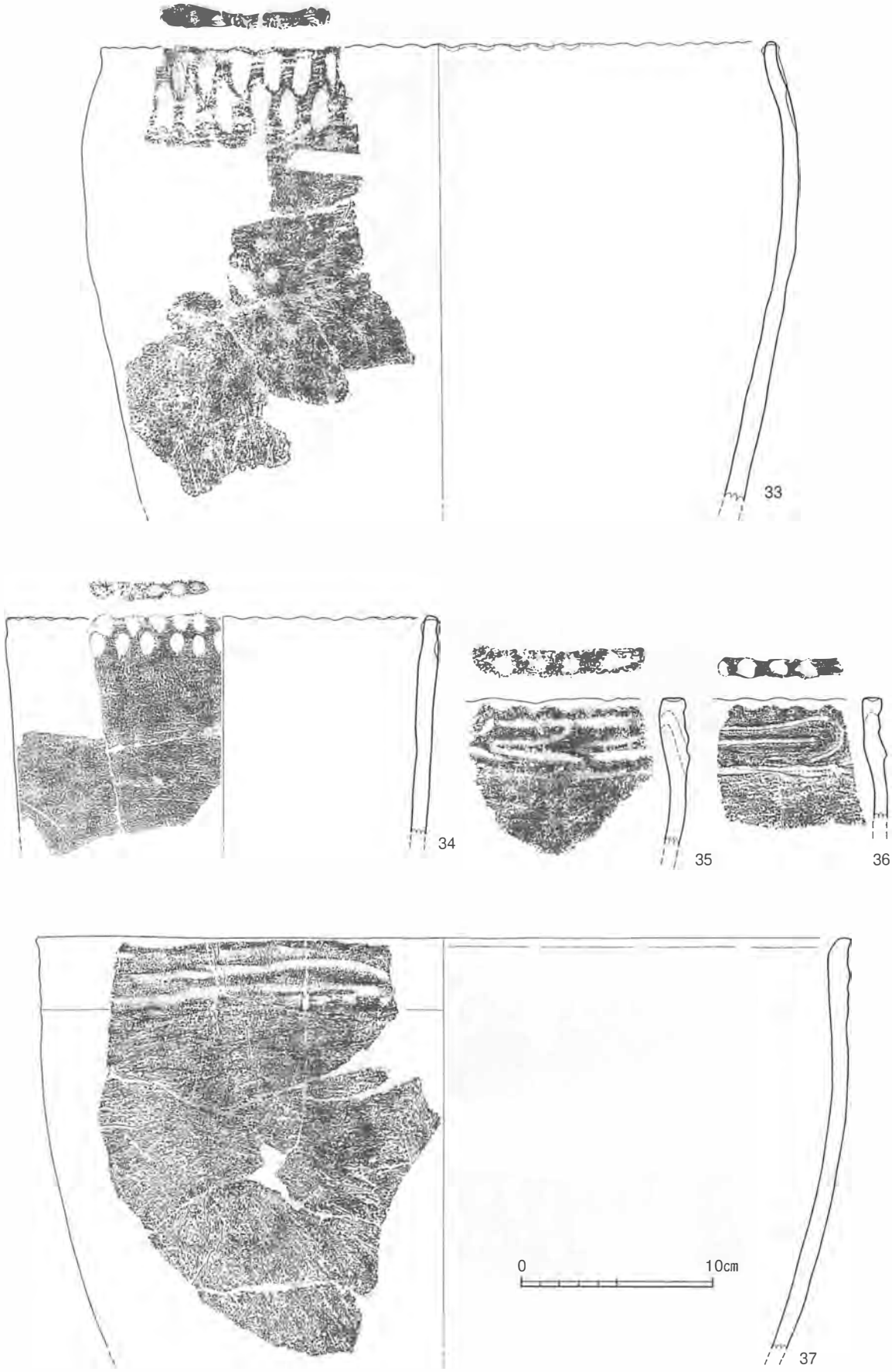
第23図　梨木遺跡出土縄文土器（5）



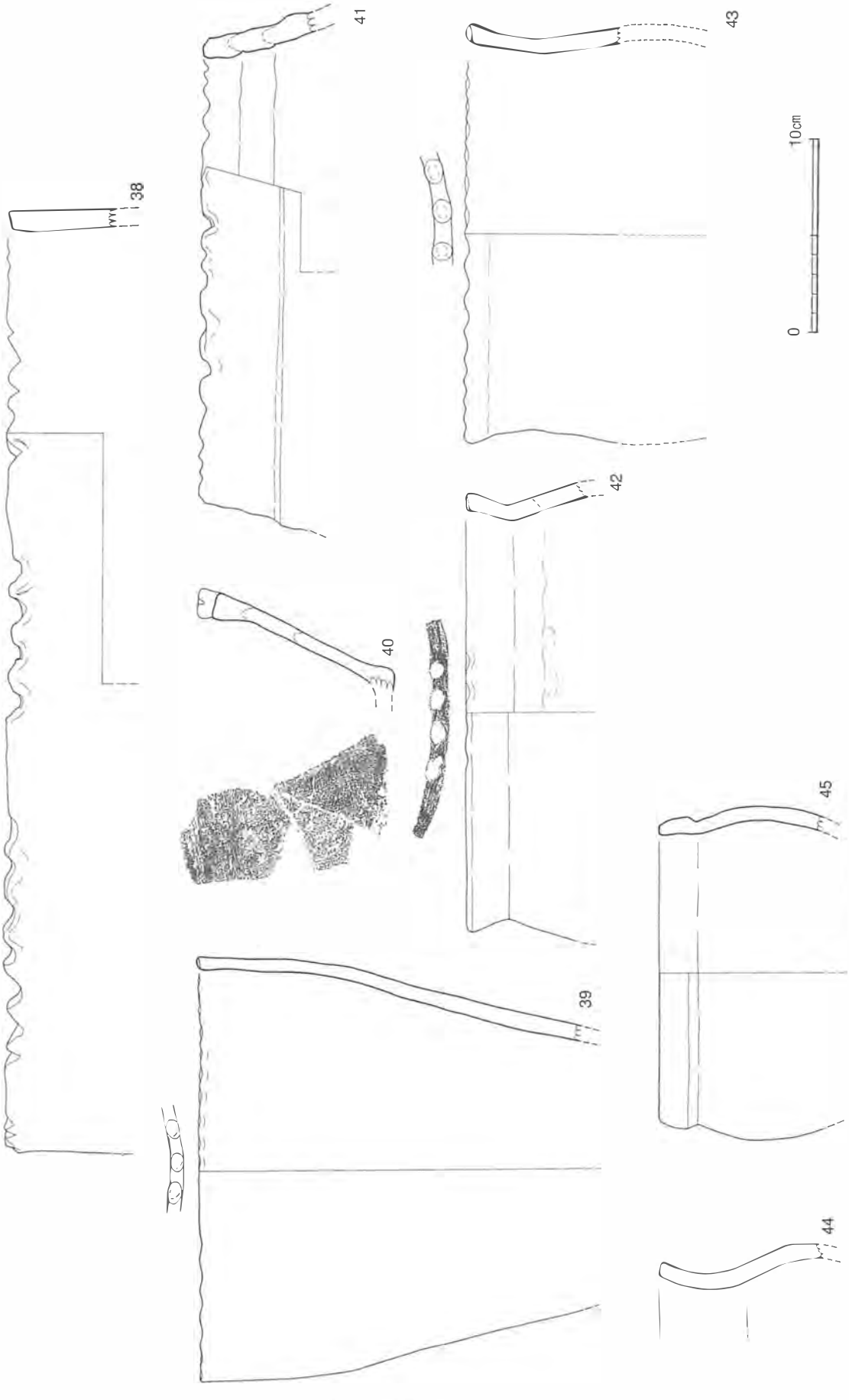
第24図　梨木遺跡出土縄文土器（6）



第25図　梨木遺跡出土縄文土器（7）



第26図　梨木遺跡出土縄文土器（8）



第27図　梨木遺跡出土縄文土器（9）

底部（74～81）

８点を掲載した。平底のものと脚状のもの（81）がある。74は底部端が外に張り出し、底面には鯨の脊椎骨と思われる圧痕を残す。79は薄手で上げ底気味の底部で、外面に赤色顔料が塗布されている。80も上げ底気味の底部をもつ。

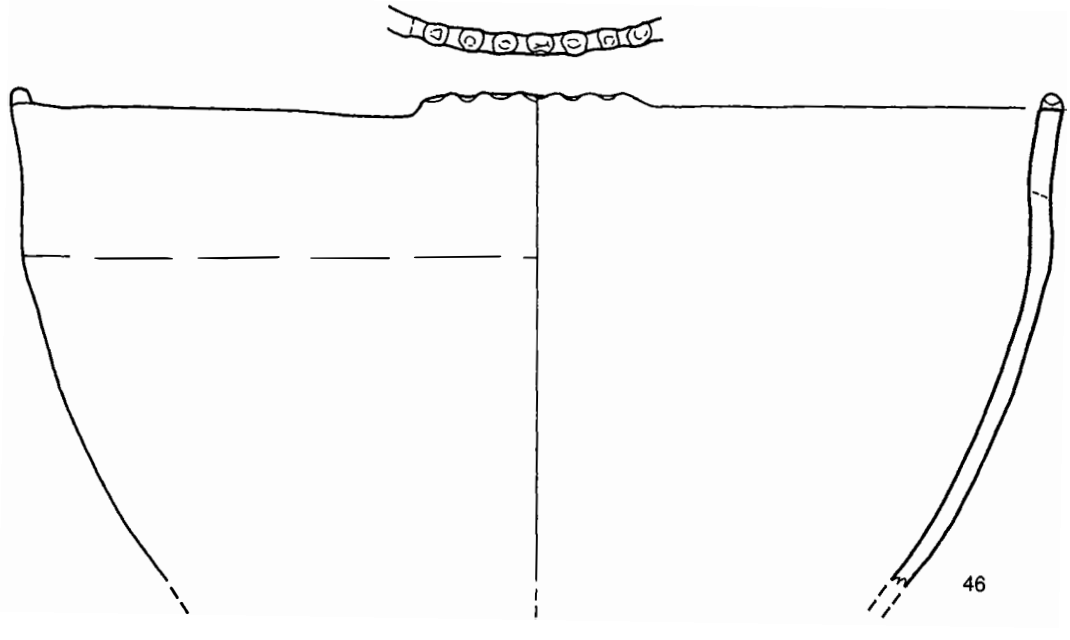
（４）縄文後期後半、晩期土器

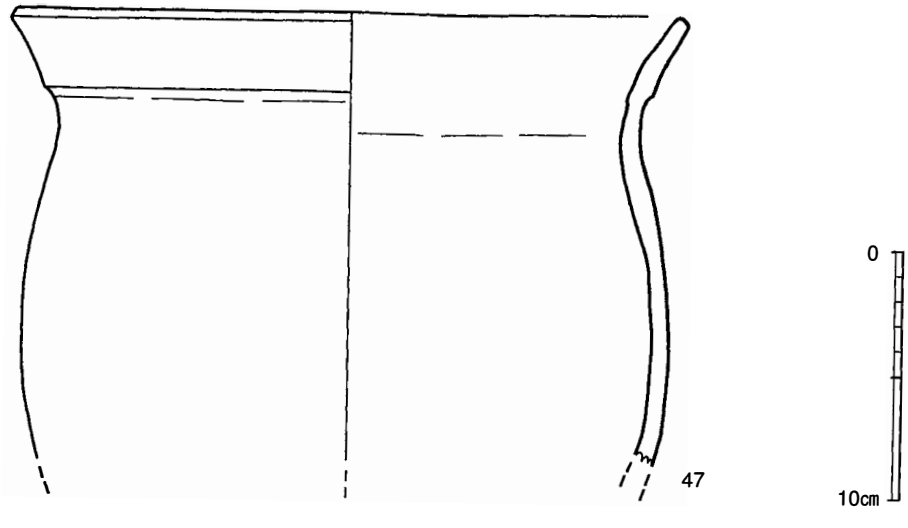
器形から深鉢形土器と浅鉢形土器に分け、さらに残存部、形態の特徴をもとに細分を行った。

口縁部

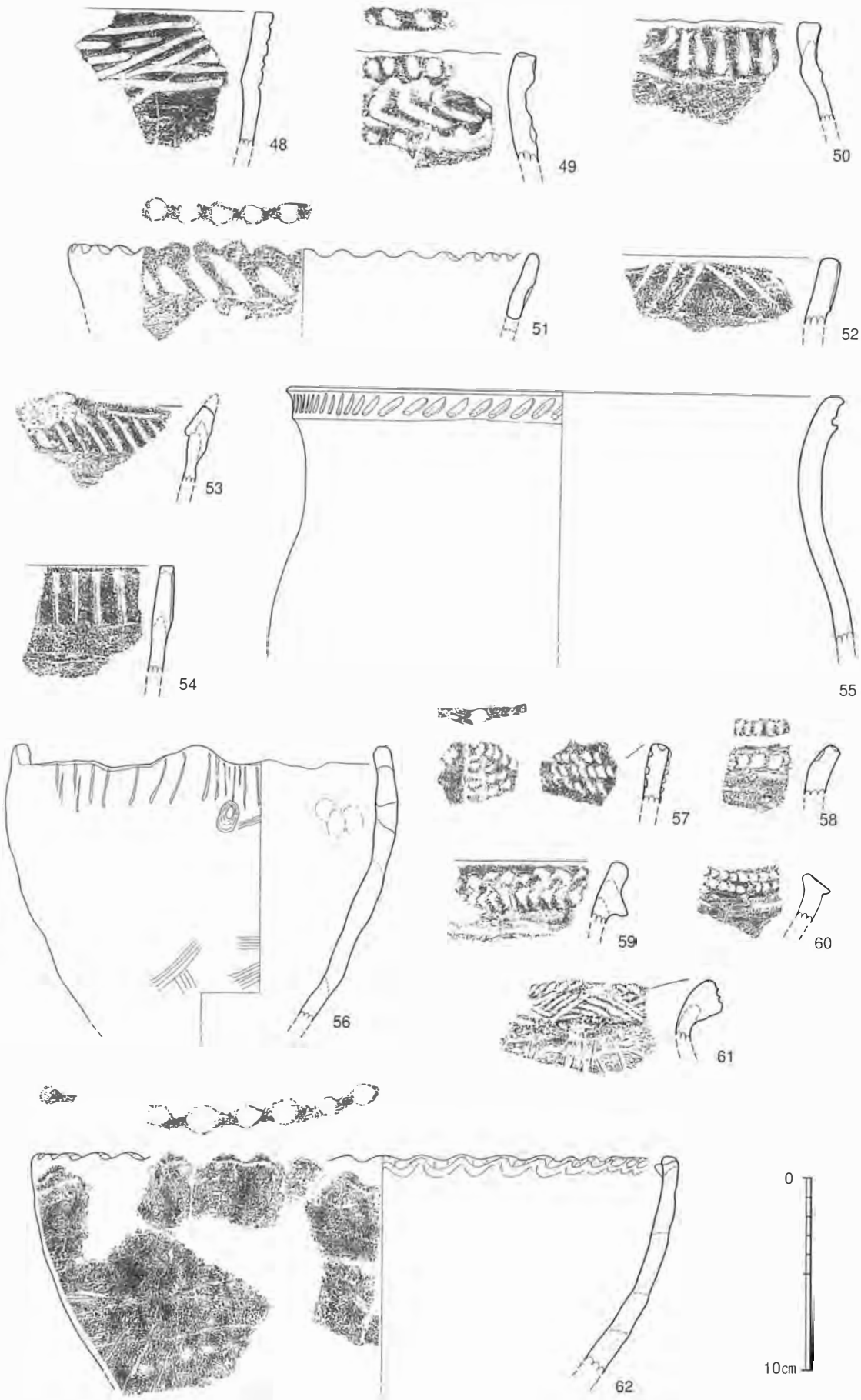
深鉢形土器（82～109）

形態によってＡ～Ｄ類に分類した。





第28図　梨木遺跡出土縄文土器（10）



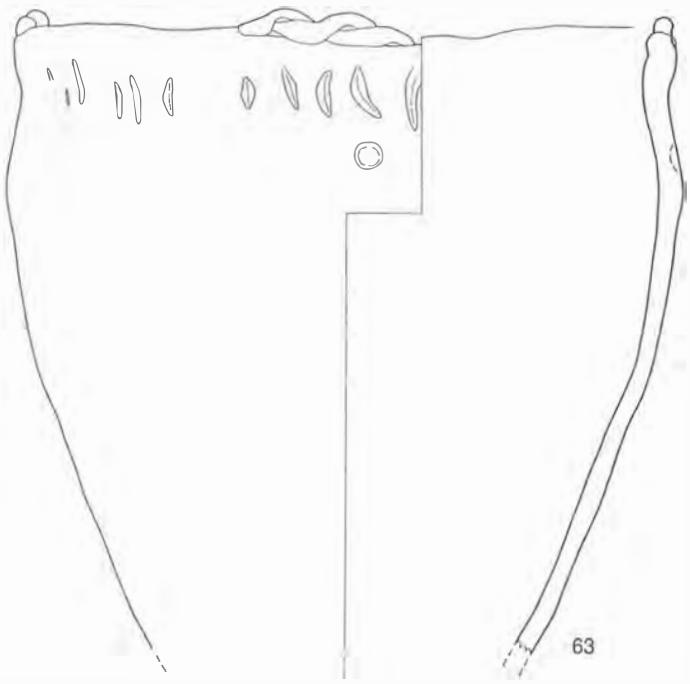
第29図　梨木遺跡出土縄文土器（11）

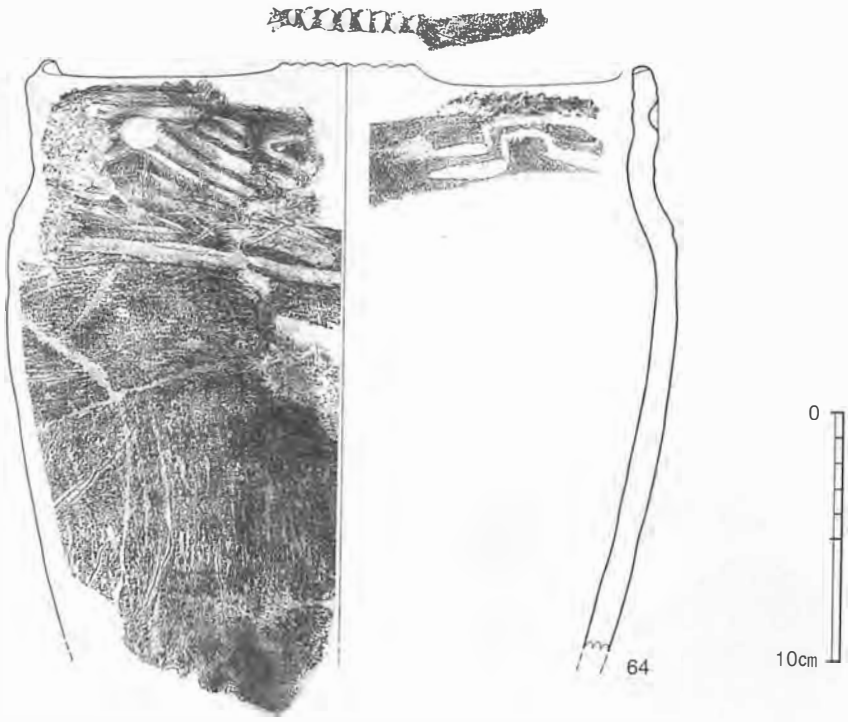
Ａ類（82～93）

胴部で屈曲し、

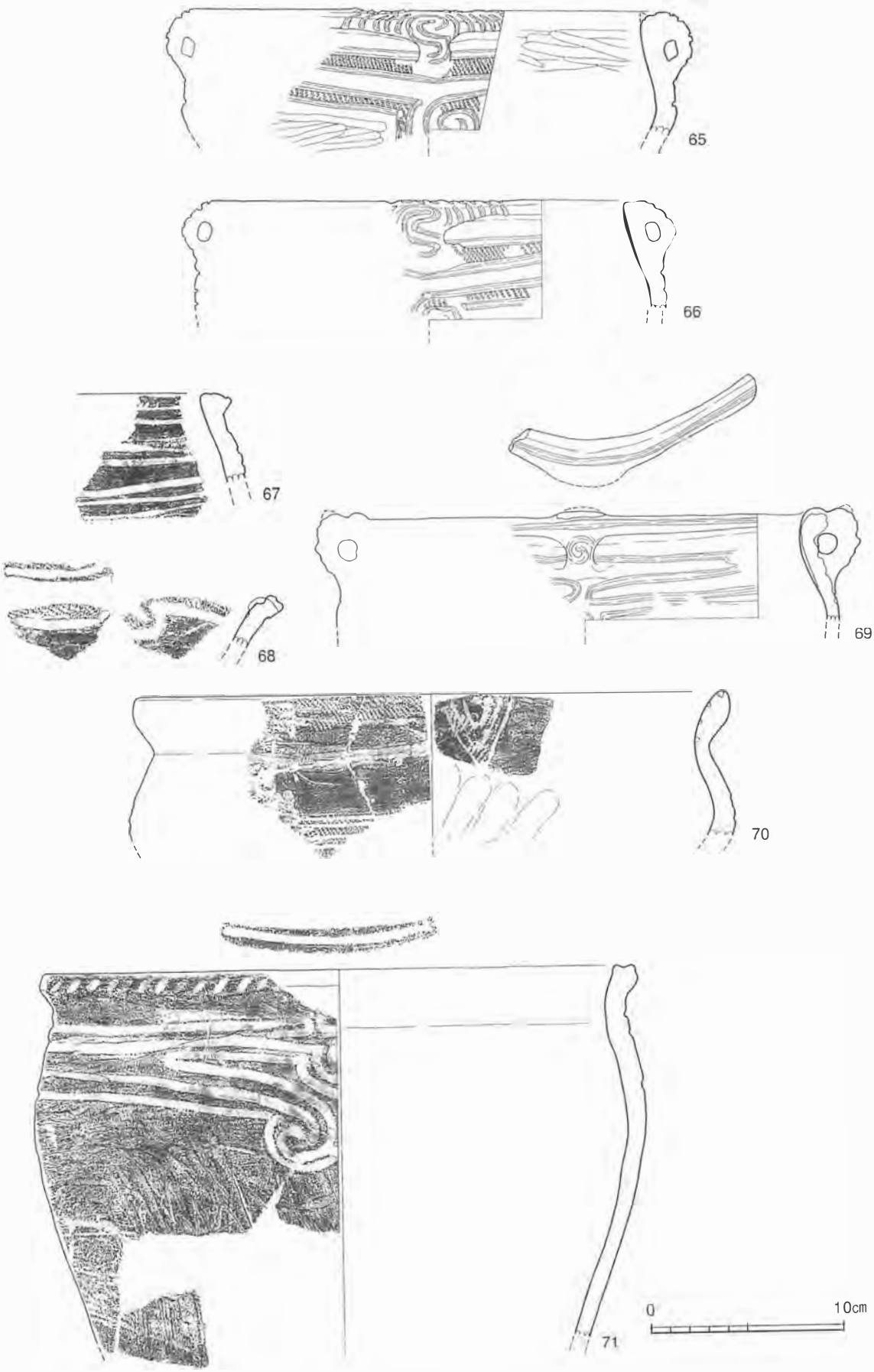
Ａ１類（82～86）

口縁が稜をなして屈曲し、内縁下端に押点文をもつ。また、

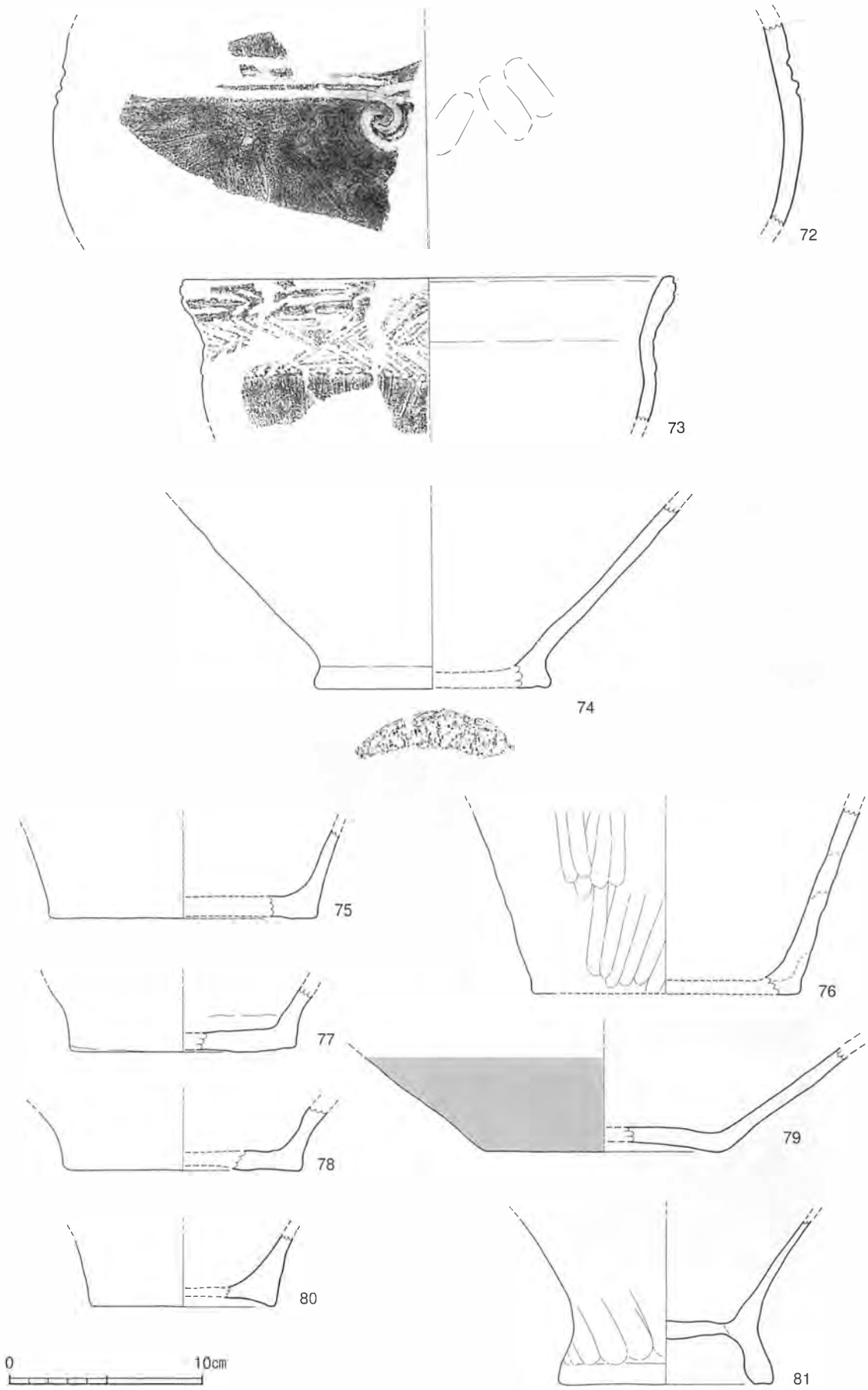




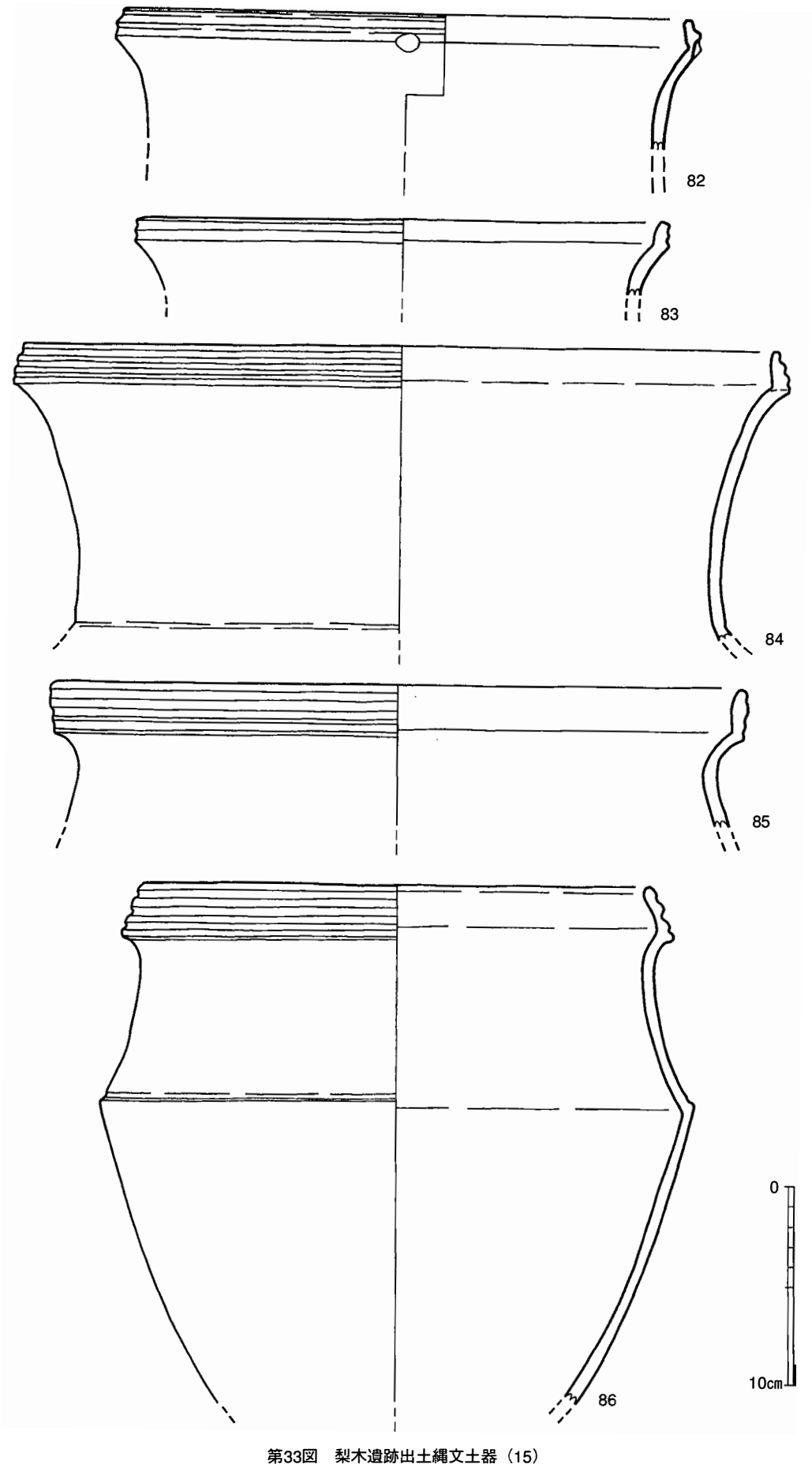
第30図　梨木遺跡出土縄文土器（12）



第31図　梨木遺跡出土縄文土器（13）



第32図　梨木遺跡出土縄文土器（14）



第33図　梨木遺跡出土縄文土器（15）

Ａ２類（87、89）

内傾する口縁帯に５～６条の平行沈線をもつ。無文のもの（89）もある。

Ａ３類（88、90、91）

肥厚した口縁帯をもち、口縁内面の屈曲が明瞭でないもの。88は口縁帯に７～８条の粗雑な平行沈線文、90は山形の沈線文を施す。91は無文である。

Ａ４類（92、93）

薄手で長めの口縁帯をもつ。２点とも無文である。

Ｂ類（94、95）

胴部で屈曲し、いったん内弯して外反する口縁で、口縁帯をもたない。

Ｃ類（96～106）

胴部と頸部でくの字形に屈曲し、外傾する口縁をもつもの。

Ｃ１類（96、97）

口縁部外面に４～５条の平行沈線をもつもの。頸部は稜をなして屈曲し、口縁部はやや肥厚している。97は波状口縁である。

Ｃ２類（98～100）

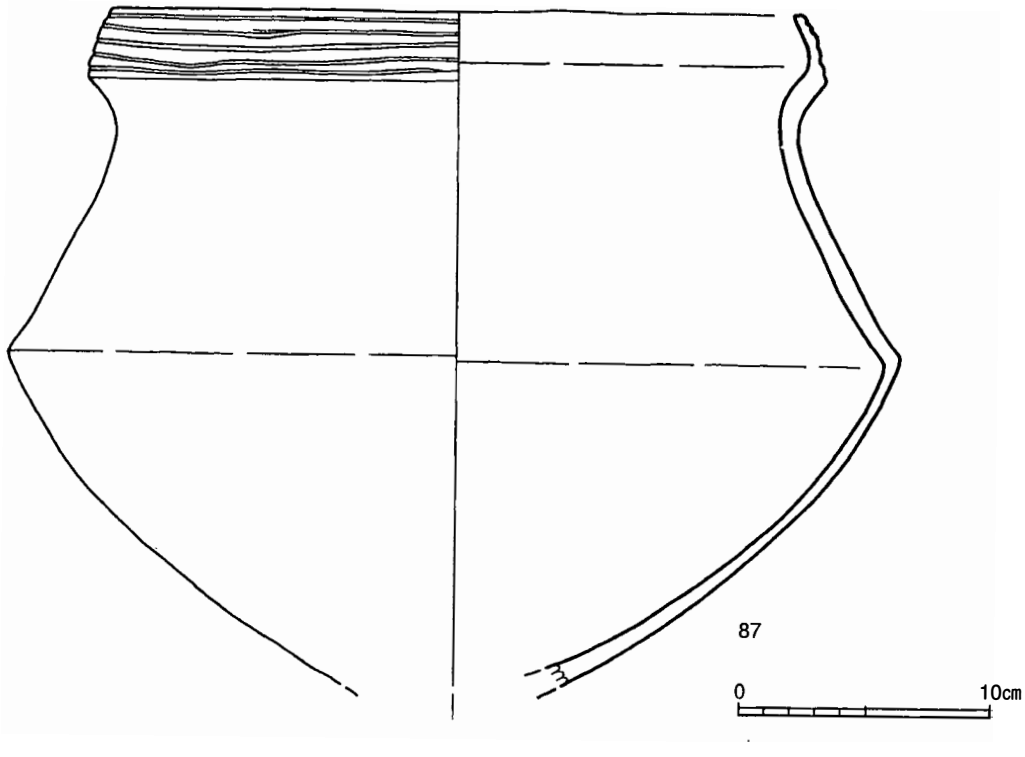
口縁部外面に貝殻条痕が施されているもの。口縁部はやや肥厚しているが、頸部の屈曲はやや緩い。100は条痕の上からヘラミガキを行っている。

Ｃ３類（101～106）

無文のもの。口縁部が肥厚したもの（103、106）と、薄手のものがある。

Ｄ類（107～109）

直口口縁をもつもの。内外面とも条痕調整がされた粗製土器である。107は胴部上半がわずかに内弯する。



第34図　梨木遺跡出土縄文土器（16）

また、109は円筒状の小型土器である。

浅鉢形土器（110～125）

形態によってＥ～Ｊ類に分類した。

Ｅ類（110～114、116、117）

胴部から頸部にかけて内側に屈曲し、頸部から立ち上がる口縁部をもつもの。いずれも内外面は研磨されている。2類に細分した。

Ｅ１類（110～114）

口縁はほぼ直立し、外面に2条の凹線文をもつもの。110と111は波状口縁で、波頂部下の屈曲部に押点文を持つ。

Ｅ２類（116、117）

口縁部が低く立ち上がり、外面に沈線文を１条もつもの。

Ｆ類（115、118～120）

肩部と頸部が屈曲し、外反する頸部から低く立ち上がる口縁部をもつもの。いずれも内外面は研磨されている。口縁外面に１条の凹線または沈線をもつもの（115、119）と無文のもの（118、120）がある。

Ｇ類（121、122）

大きく外に開く体部から立ち上がる口縁部をもつもの。いずれも内外面は研磨されている。口縁はほぼ直立し、外面に２条の凹線文をもつ。

Ｈ類（123）

椀状の器形で、口縁外側に１条の凹線があり、内側はくの字形に小さく屈曲している。口縁内面には段をもつ。

Ｉ類（124）

胴部のふくらむ器形で、口縁は屈曲して直立する。口縁内面に沈線１条をもつ。内外面とも丁寧に研磨されている。

Ｊ類（125）

丸底の土器である。肩部で小さく屈曲し、外反する頸部から直口する口縁である。波状口縁で、口縁内面に沈線１条をもつ。内外面とも丁寧に研磨されている。

底部（125～144）

形態によりＫ～Ｎ類に分類した。

Ｋ類（125）

丸底のもの。

Ｌ類（126～131）

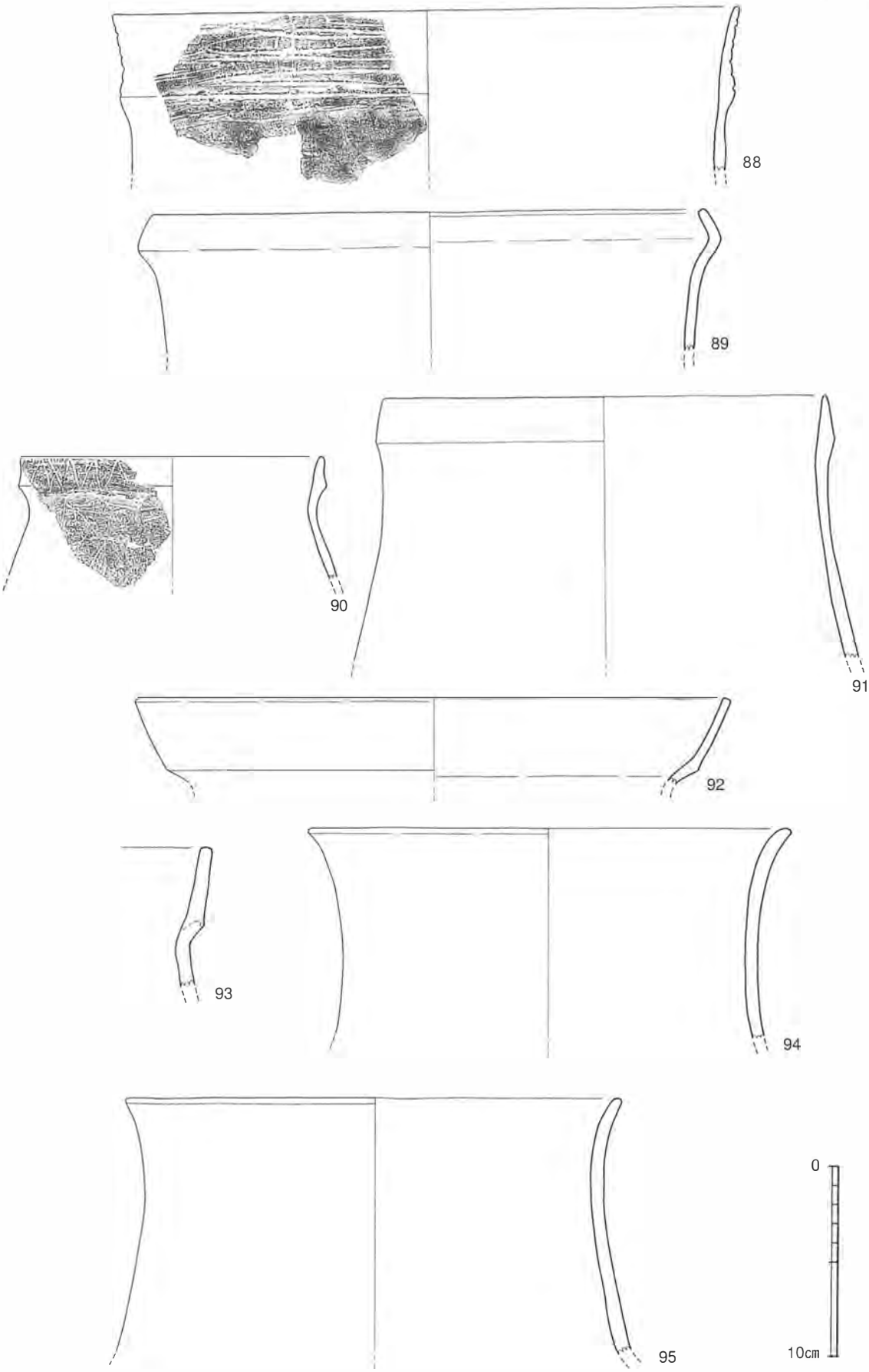
胴部から底部端にかけてほぼ直線的に連なるもの。底面の形状により、上げ底のＬ１類（126～130）と、平底のＬ２類（131）の２つに細分できる。

Ｍ類（132～139）

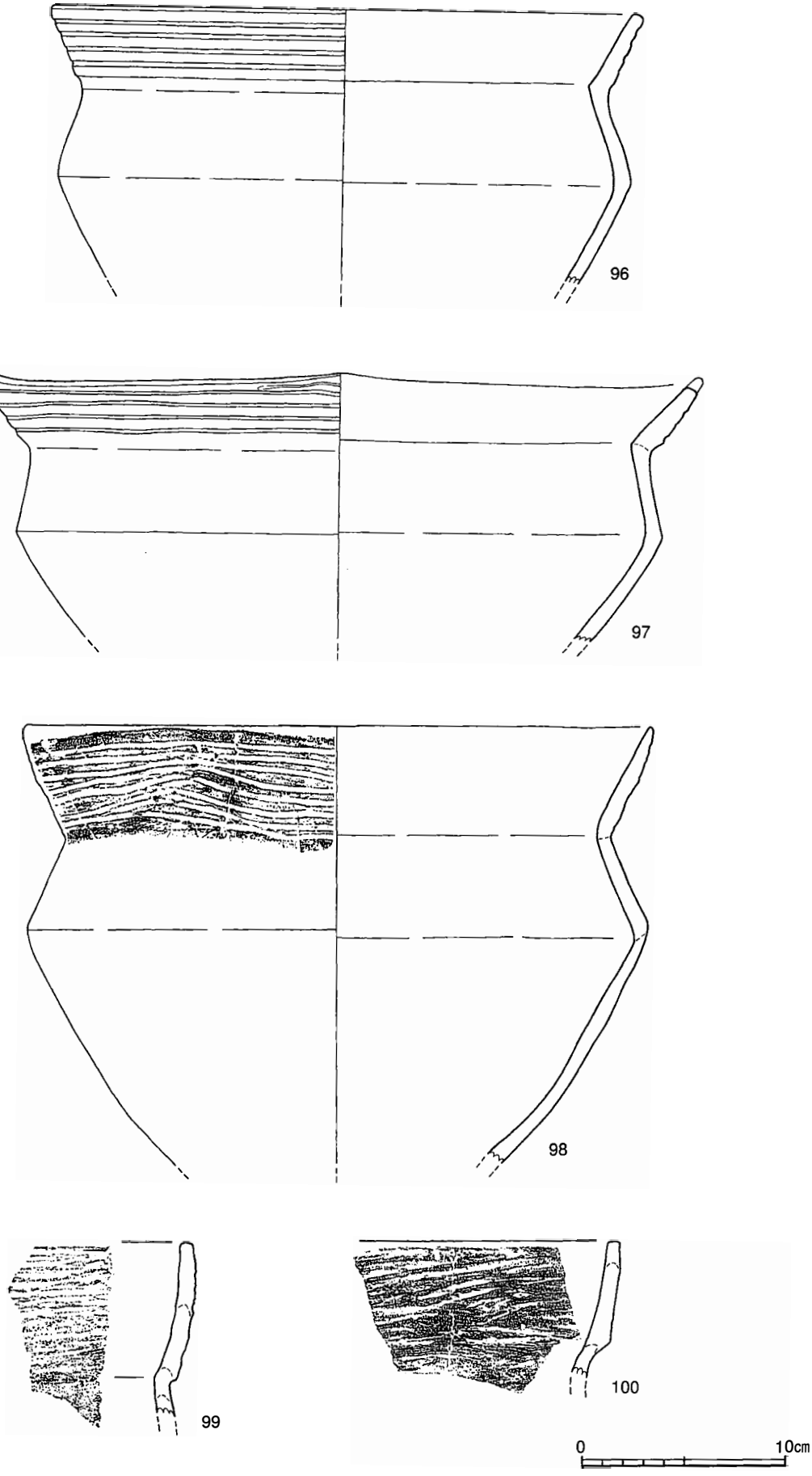
胴部が外反し、ほぼ垂直に底部端に連なるもの。底面の形状により、上げ底のＭ１類（132、133）と、平底のＭ２類（134～139）の２つに細分できる。

Ｎ類（140～144）

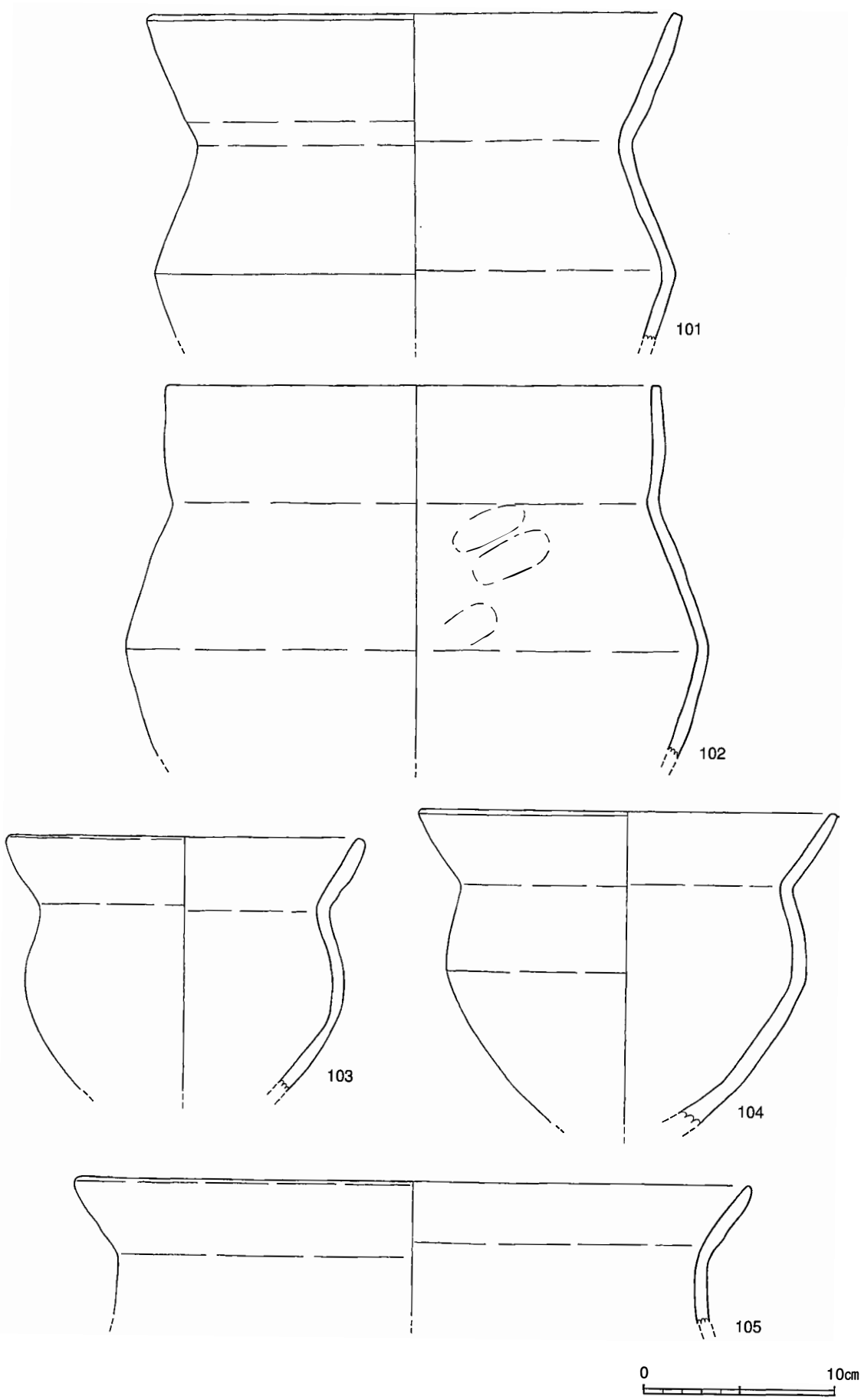
底部端が張り出すもの。



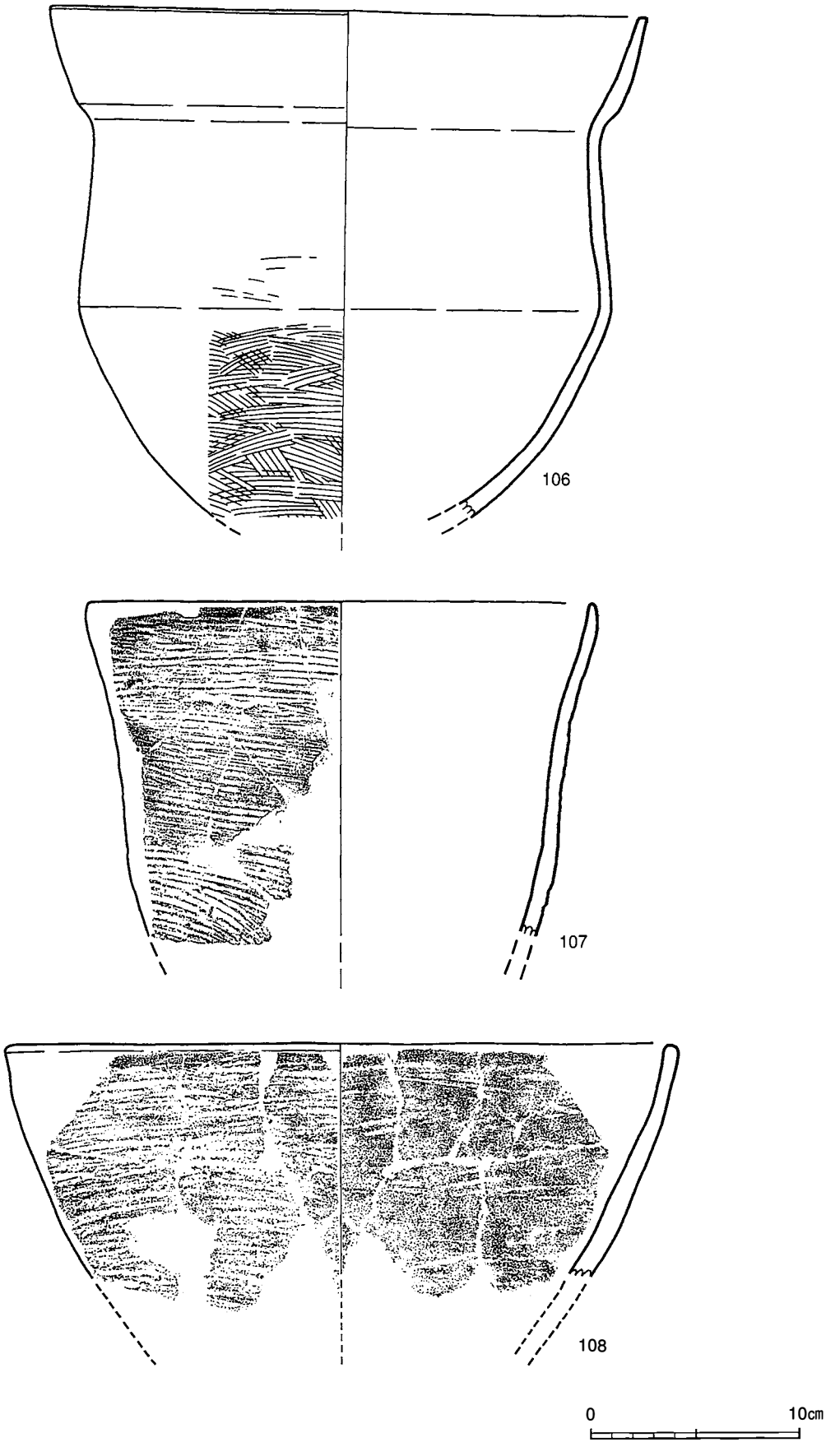
第35図　梨木遺跡出土縄文土器（17）



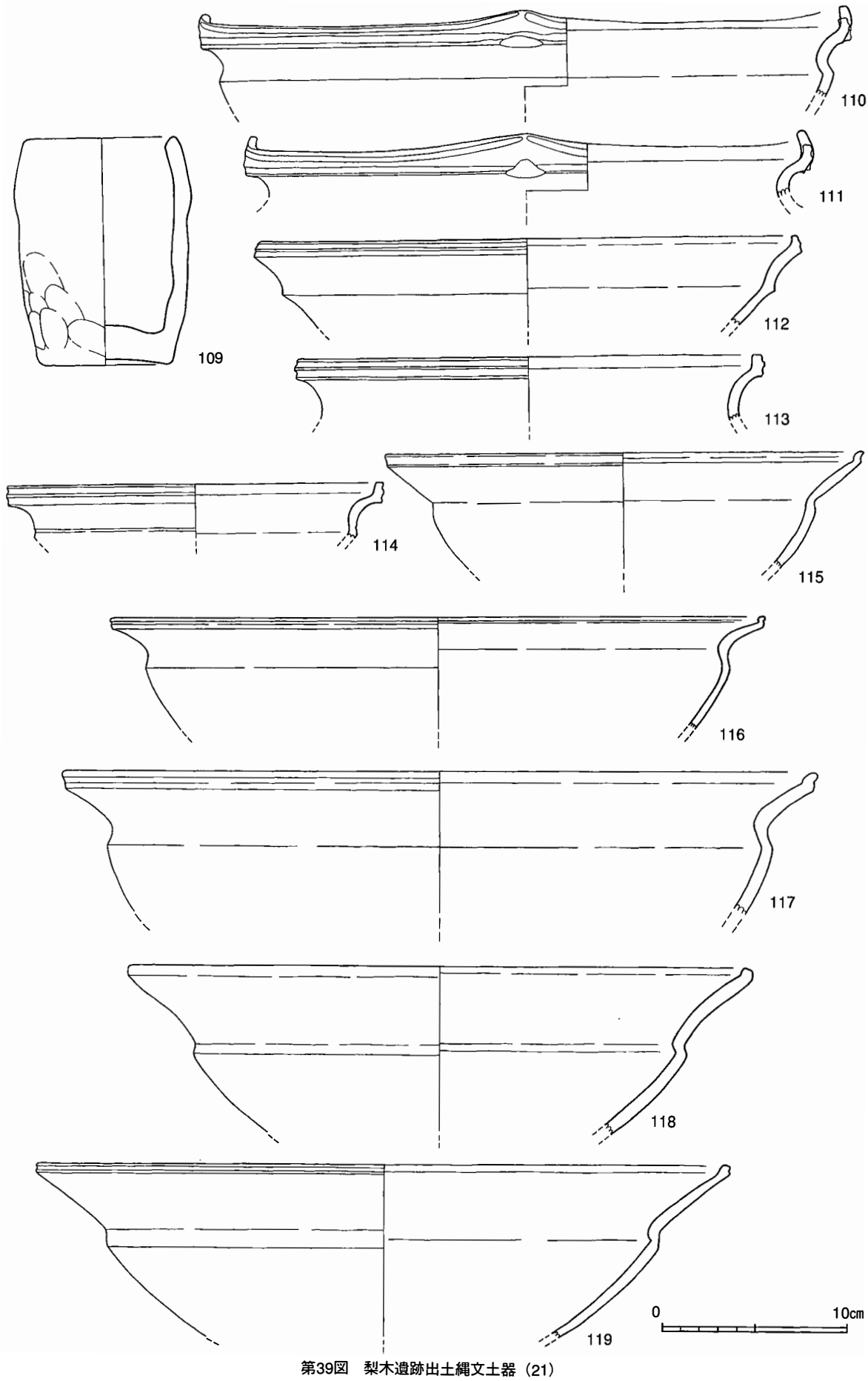
第36図　梨木遺跡出土縄文土器（18）



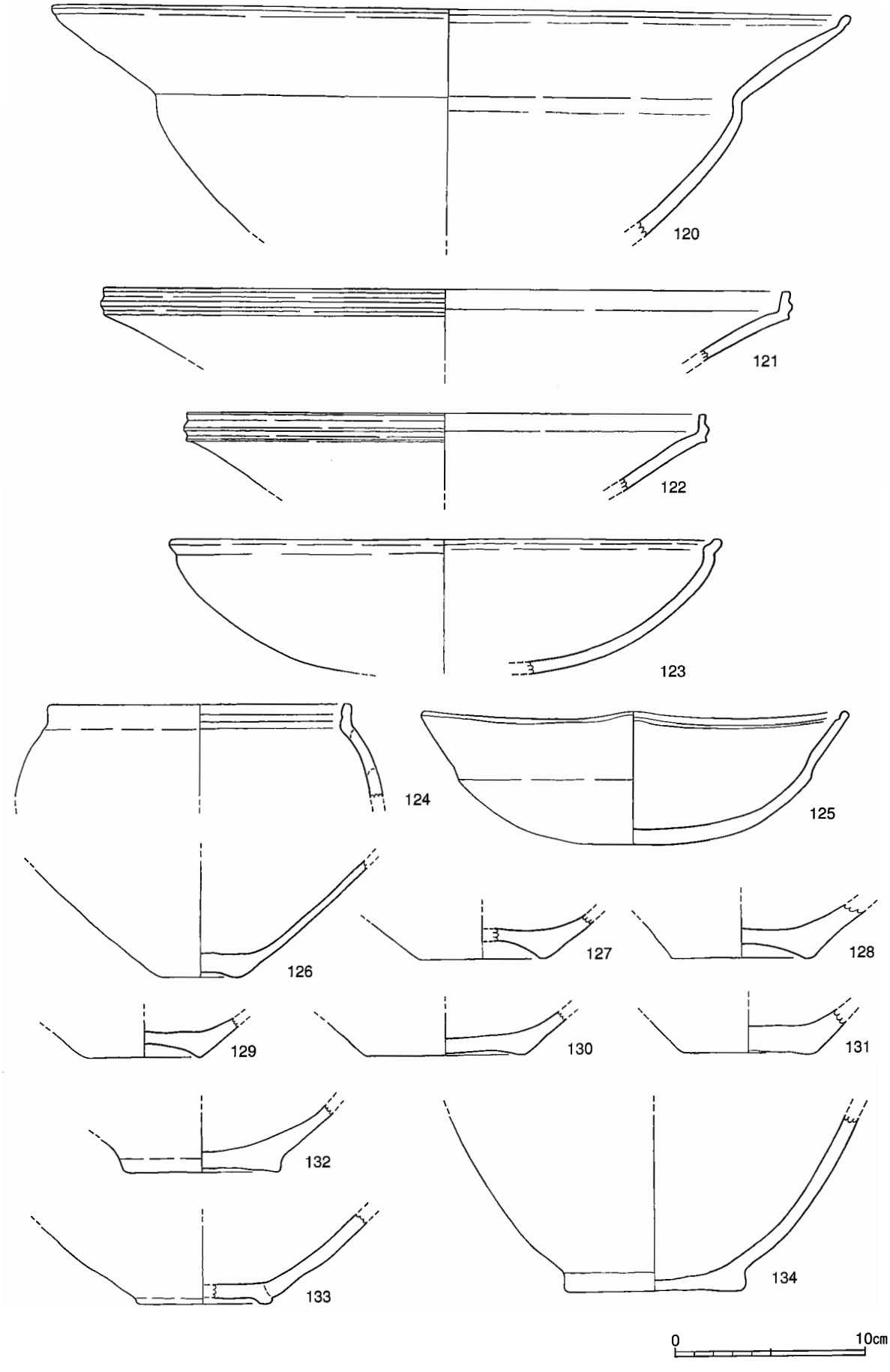
第37図　梨木遺跡出土縄文土器（19）



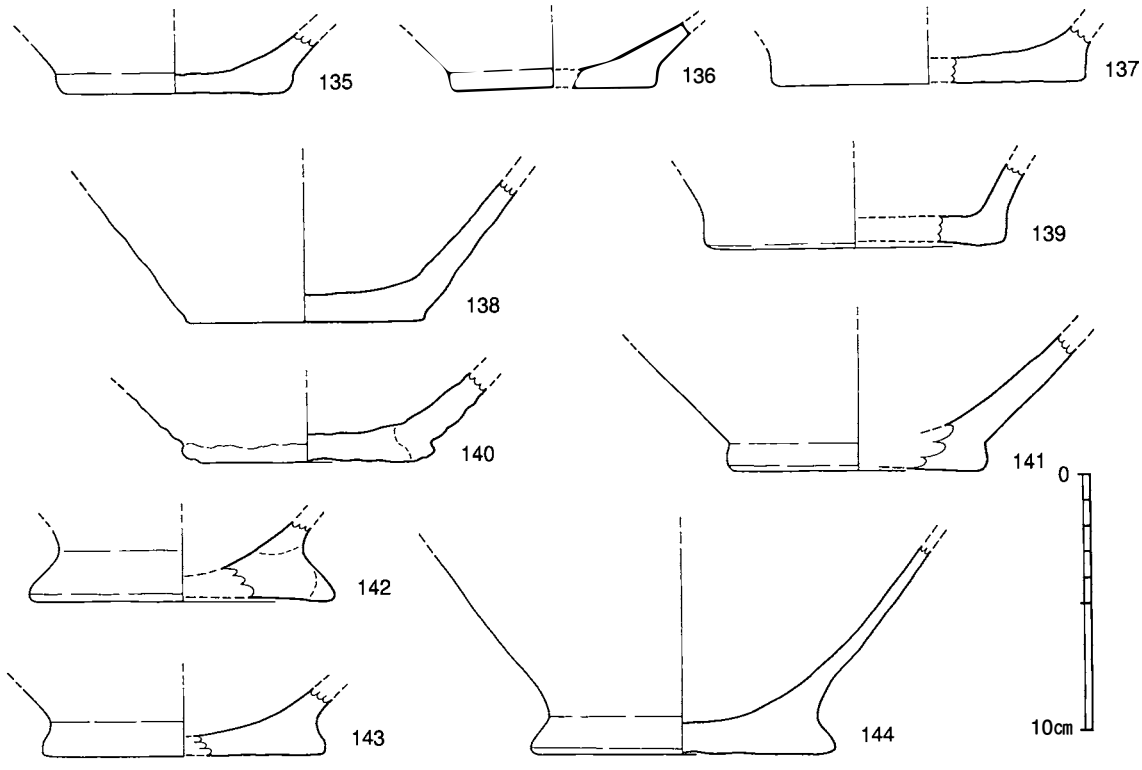
第38図　梨木遺跡出土縄文土器（20）



第39図　梨木遺跡出土縄文土器（21）



第40図　梨木遺跡出土縄文土器（22）



第41図　梨木遺跡出土縄文土器（23）

3　石器（第42～54図）

梨木遺跡１～６区から出土した縄文時代の石器の主要な遺物136点を掲載した。その内訳は、石鏃100点、異形石器１点、石匙８点、削器４点、打製石斧４点、円盤状石器１点、磨製石斧６点、石錘１点、磨石・敲石11点であり、石鏃と磨石・敲石が多くを占めている。以下、器種ごとに、特徴について見ていきたい。

なお、それぞれの遺物の計測値については、「梨木遺跡出土石器観察表」（第６、７表）にまとめている。

石鏃（１～100）

石鏃は、総数100点出土した。石材としては安山岩製が44点、黒耀石製が39点、チャート製が17点となっている。出土した石鏃は、すべて無茎鏃にあたるが、その形状によって、正三角形を呈するもの（１類）、二等辺三角形を呈するもの（２類）に２分類できる。さらに、基部の形状の特徴から、平基のもの（ａ）、浅い抉りが入るもの（ｂ）、Ｖ字状に抉りが入るもの（ｃ）、Ｕ字状に抉りが入るもの（ｄ）に細かく分類することができる。この２つを組み合わせた８類のうち、全ての類が出土し、２ｂ類が33点で一番多く、次いで２ｃ類が23点、２ｄ類が22点出土しており、一番少ないのが１ａ類と１ｃ類の２点であった。

１ａ類（１、２）

平基の正三角形石鏃である。２点出土した。１、２とも表裏面に細かな調整が行われている。

１ｂ類（３～５）

正三角形で、基部に浅い抉りの入る石鏃である。３点出土した。３点とも小型の石鏃であり、４は先端部を欠損している。

１ｃ類（６、７）

正三角形で、基部がＶ字状に抉られた凹基の石鏃である。２点出土した。６はチャート製の小型の石鏃で、側縁に鋸歯状の調整が見られ、先端部は欠損している。７は黒耀石製の小型の石鏃であり、表裏面に丁寧な調整が施されている。

第４表　梨木遺跡出土縄文土器観察表（1）

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	深鉢口縁	24.0		9.5	原体条痕、山形文、ナデ	山形文	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、黒鉱石、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-11	5432他	
2	鉢底部		7.4	3.5	ナデ	山形文	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-11	4794	
3	深鉢口縁	27.3		5.1	ナデ	刺突文、撚糸文	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-2	2011	
4	深鉢口縁	15.8		7.3	条痕	条痕	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄褐(10YR4/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-18	5720	
5	深鉢口縁	18.3		7.0	条痕	条痕	黒褐(10YR3/2)	灰黄褐(10YR4/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-17	5979	
6	深鉢口縁	23.8		14.4	条痕後ナデ	連点文、ミミズ腫状隆線文、条痕	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄橙(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-18	5900他	
7	深鉢底部		8.6	29.1	条痕	条痕	にぶ褐(7.5YR5/3)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	6	ク-11	5401他	
8	鉢底部		13.6	7.6	原体条痕、山形文	山形文	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ赤褐(5YR4/4)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	4	コ-5	4376	
9	深鉢口縁	21.4		3.6	ミガキ	条痕の上沈線文	灰褐(7.5YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒多量、長石を含む	良好	6	コ-15	6236他	
10	鉢底部			3.9	ミガキ	ナデ	にぶ赤褐(5YR5/4)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒多量、滑石、長石、雲母を含む	良好	6	サ-18	1号溝	
11	深鉢	33.5	11.6	38.7	条痕後ナデ、条痕	貝殻連続刺突文、縦方向沈線、条痕後ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、小石、角閃石、長石を含む	良好	6	シ-10	5118他	
12	深鉢口縁	31.6		15.1	条痕	貝殻刺突文、条痕文	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、長石、角閃石、雲母を含む	良好	6	コ-16	5882他	内面スス付着
13	深鉢口縁	26.2		13.8	ナデ	貝殻押引文、凹線文	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、長石、角閃石、雲母を含む	良好	6	サ-19	5749他	
14	深鉢口縁	18.4		4.2	ナデ	貝殻押引文、凹線後沈線	にぶ赤褐(5YR5/3)	にぶ赤褐(5YR5/4)	粗砂粒多量、滑石、長石、角閃石、雲母を含む	良好	3	ソ-13	3069	
15	深鉢口縁			6.7	ナデ	刻み口縁、ナデ、凹線文	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、滑石、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ケ-3	3709	内面スス付着
16	深鉢口縁	30.6		8.0	ナデ	凹線文	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、長石、雲母を含む	良好	6	コ-9	4623他	
17	深鉢口縁			10.4	ナデ	刻み口縁、凹線文、ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ褐(7.5YR5/3)	粗砂粒多量、滑石、長石、雲母を含む	良好	3	タ-15	2887	
18	深鉢口縁			7.9	ナデ	指頭による刻み口縁、凹線文	にぶ赤褐(5YR5/4)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒少量、滑石、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	5	c-13	4560	内面スス付着
19	深鉢口縁	35.3		15.1	ナデ	指頭による刻み口縁、凹線文、連点文、ナデ	赤褐(5YR4/6)	にぶ赤褐(5YR4/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	3	タ-15	2787他	
20	深鉢胴部			15.5	ナデ	凹線文、ナデ	にぶ赤褐(5YR5/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、滑石、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	2422他	
21	深鉢胴部			9.7	ナデ、指頭痕	凹線文	灰褐(7.5YR4/2)	黒(10YR1.7/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-15	2821他	外面黒く着色
22	深鉢口縁	27.2		15.1	ナデ	刻み口縁、連点文、凹線文、ナデ	にぶ赤褐(5YR5/3)	にぶ赤褐(5YR5/3)	砂粒多量、滑石、石英、長石を含む	良好	6	コ-18	5879他	
23	深鉢口縁	23.5		17.0	ナデ、指頭痕	刻み口縁、連点文、凹線文、ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒多量、滑石、石英、長石、雲母を含む	良好	6	コ-8	4647	外面スス付着
24	深鉢口縁	36.8		13.6	ナデ、指頭痕	刻み口縁、凹線文	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ褐(5YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	3	タ-13	2480	外面スス付着
25	深鉢口縁	36.3		5.2	ナデ、指頭痕	刻み口縁、凹線文	褐(7.5YR4/3)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	キ-6	3185他	
26	深鉢口縁	37.9		10.4	ナデ	刻み口縁、凹線文、ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	褐(7.5YR4/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ケ-7	4511他	
27	深鉢口縁	34.8		20.7	ナデ、指頭痕	指頭による刻み口縁、凹線文、連点文、ナデ	黒褐(10YR3/2)	褐(7.5YR4/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	2589他	
28	深鉢口縁	36.7		6.0	ナデ	刻み口縁、凹線文	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	3053	
29	深鉢口縁	30.9		13.0	ナデ、指頭痕	刻み口縁、連点文、凹線文、ナデ	にぶ赤褐(5YR4/3)	にぶ赤褐(5YR4/4)	砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	2547他	
30	深鉢口縁	32.6		15.3	ナデ、指頭痕	刻み口縁、貝殻・指による連続押圧文、凹線文	にぶ褐(7.5YR5/4)	明褐(7.5YR5/6)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	4	ケ-3	3605他	
31	深鉢口縁	31.0		7.0	ナデ	刻み口縁、指による連続押圧文、凹線文、ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	黒褐(7.5YR3/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-6	3767他	
32	深鉢口縁	24.1		6.9	ナデ	連点文、ナデ	褐(7.5YR4/3)	灰黄褐(10YR4/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	コ-6	426他	
33	深鉢口縁	34.8		23.2	ナデ	刻み口縁、棒状工具による押圧文、ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒多量、石英、長石を含む	やや良	4	ク-8	3487他	
34	深鉢口縁	22.2		10.8	ナデ	刻み口縁、指による連続押圧文、ナデ	にぶ褐(7.5YR5/3)	灰褐(7.5YR4/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-7	3349他	
35	深鉢口縁			7.8	ナデ	指頭による刻み口縁、凹線文、ナデ	にぶ黄褐(10YR5/4)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒多量、石英、長石を含む	やや良	6	サ-10	4750	
36	深鉢口縁			6.7	ナデ	指頭による刻み口縁、凹線文、ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、長石、石英、角閃石を含む	良好			Ⅲ層	内・外面スス付着
37	深鉢口縁	42.0		20.9	ナデ	凹線文、ナデ	灰褐(7.5YR4/2)	黒褐(10YR3/2)	砂粒少量、長石、石英、角閃石を含む	良好	4	コ-6	4301他	
38	深鉢口縁	47.8		5.5	ナデ	刻み口縁、ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ赤褐(5YR5/3)	砂粒少量、滑石、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-15	2853	
39	深鉢口縁	21.8		20.0	ナデ	指頭による刻み口縁、ヘラミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-5	754他	
40	鉢口縁			10.3	ナデ	刺突文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ赤褐(2.5YR4/4)	砂粒少量、滑石、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	コ-6	4300他	外面朱塗
41	深鉢口縁	23.6		5.6	ナデ	刻み口縁、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	3	タ-13	2659他	
42	深鉢口縁	22.1		5.8	ナデ	刻み口縁、ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	褐(7.5YR4/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	6	シ-9	4680	
43	深鉢口縁	21.4		8.0	ナデ	指頭による刻み口縁、ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、長石を含む	良好	6	コ-11	4796他	
44	深鉢口縁			8.5	ナデ	ナデ	にぶ褐(7.5YR5/3)	にぶ褐(7.5YR5/3)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	4	コ-6	4305	
45	深鉢口縁	15.4		8.5	ナデ	ナデ	褐(7.5YR4/3)	黒褐(10YR3/1)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	4	コ-5	4383他	
46	深鉢口縁	41.8		19.2	ナデ	刻み口縁、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	サ-16	6254他	
47	深鉢口縁	27.0		17.8	条痕後ナデ	条痕後ナデ	褐灰(7.5YR4/1)	褐灰(7.5YR4/1)	砂粒少量、長石を含む	良好	4	ケ-7	4343	
48	深鉢口縁			7.0	ナデ	沈線文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-15	2715他	
49	深鉢口縁			5.6	ナデ	刻み口縁、棒状工具による押圧文	橙(7.5YR6/6)	暗灰黄(2.5Y5/2)	砂粒多量、角閃石、長石、雲母を含む	良好	6	コ-12	8号溝	
50	鉢口縁			5.4	ナデ	凹線文、ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	やや良	4	キ-6	4121	
51	鉢口縁	24.1		4.0	ナデ	刻み口縁、凹線文	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	4	ケ-6	4433他	
52	深鉢口縁			3.7	ナデ	沈線文	にぶ黄橙(10YR6/3)	黄灰(2.5YR4/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	6	ク-19	14・15号溝	
53	深鉢口縁			4.8	ナデ	沈線文、ナデ	にぶ黄褐(10YR5/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-13	2671	
54	深鉢口縁			5.8	ナデ	沈線文、ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	やや良	4	コ-5	4463	内・外面スス付着
55	深鉢口縁	28.8		12.7	ナデ	刺突文、ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	ソ-2	2280	
56	深鉢口縁	19.6		14.0	ナデ、指頭痕	沈線文、条痕の上ナデ	橙(7.5YR6/6)	灰褐(7.5YR4/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	3	タ-14	2564他	外面スス付着
57	深鉢口縁			3.5	刺突文、ナデ	刻み口縁、刺突文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄褐(10YR5/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	3	タ-14	3051	
58	深鉢口縁			3.5	刺突文、ナデ	刻み口縁、ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	2750	内面スス付着
59	深鉢口縁			3.9	ナデ	刺突文、ナデ	にぶ黄褐(10YR5/4)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-16	2971	
60	深鉢口縁			2.9	ナデ	連続刺突文、ナデ	にぶ赤褐(5YR5/4)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒少量、長石、角閃石を含む	良好	3	タ-12	2360	
61	深鉢口縁			3.6	ヘラミガキ	沈線文、ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶ赤褐(5YR5/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	4	キ-6	3208	
62	深鉢口縁	33.0		11.2	ナデ	指頭による刻み口縁、ナデ、指頭痕	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ橙(75YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-15	2842他	
63	深鉢口縁	26.2		25.1	ナデ	ねじり紐状突起、連続刺突文、ナデ、ケズリ	にぶ橙(5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	キ-16	6150他	
64	深鉢口縁	25.2		23.0	沈線文、ナデ	刻み口縁、沈線文、ナデ、ケズリ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ褐(7.5YR5/3)	砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	4	ケ-3	3602他	
65	深鉢口縁	25.8		12.6	ミガキ	沈線文、磨消縄文	灰褐(7.5YR4/2)	黒褐(10YR3/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	3111	
66	深鉢口縁	24.4		5.5	ミガキ	沈線文、磨消縄文	灰黄褐(10YR4/2)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-13	3080	
67	深鉢口縁			5.1	ミガキ	沈線文	褐灰(10YR4/1)	褐灰(10YR4/1)	粗砂粒多量、石英、長石を含む	良好	3	タ-16	2962	
68	浅鉢口縁			3.0	沈線文、ミガキ	沈線文、磨消縄文、ミガキ	にぶ褐(7.5YR5/4)	黒褐(2.5YR3/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	やや良	3	タ-14	2573	内面スス付着
69	深鉢口縁	24.7		5.5	ナデ	沈線文	灰褐(7.5YR4/2)	褐(7.5YR4/3)	粗砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-15	2802他	
70	深鉢口縁	30.6		7.4	沈線文、刺突文、ミガキ	沈線文、磨消縄文、ミガキ	黄灰(2.5YR4/1)	黒褐(2.5YR3/1)	粗砂粒多量、角閃石、長石を含む	やや良	2	ソ-2	2299他	
71	深鉢口縁	30.5		19.2	ナデ	刻み口縁、沈線文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-12	3063他	
72	深鉢胴部			10.3	ナデ	沈線文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-16	2946	

第５表　梨木遺跡出土縄文土器観察表（2）

遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調整（内面）	調整（外面）	色調（内面）	色調（外面）	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
73	深鉢口縁	25.3		7.2	ナデ	刻み口縁、沈線文、ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ褐(7.5YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	2561他	
74	鉢底部		11.8	9.0	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ褐(7.5YR5/4)	粗砂粒多量、角閃石、長石を含む	やや良	4	ケ-6	4434他	底部に鯨骨圧痕
75	鉢底部		13.4	4.5	ナデ	ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ褐(7.5YR5/4)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	コ-6	4289	内・外面スス付着
76	鉢底部		13.6	9.2	ナデ	ケズリ	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ褐(7.5YR5/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	コ-6	4411他	内・外面スス付着
77	鉢底部		11.6	3.4	ナデ	ナデ	にぶ黄褐(10YR5/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	粗砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-13	2651	
78	鉢底部		11.9	4.3	ナデ	ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ褐(7.5YR5/4)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-16	3141	
79	鉢底部		12.0	5.3	ナデ	ナデ	にぶ橙(5YR6/4)	にぶ橙(5YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	タ-1	2318他	外面赤色顔料塗布
80	鉢底部		9.4	3.7	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	イ-3	1944	
81	鉢底部		10.4	8.4	ナデ	ナデ、指頭痕	にぶ褐(7.5YR5/3)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-14	3045	
82	深鉢口縁	28.6		6.5	ナデ	凹線2条、ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ橙(7.5YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-4	3529	
83	深鉢口縁	26.8		3.6	ミガキ	凹線2条、ミガキ	褐灰(10YR4/1)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	6	カ-16	6135他	
84	深鉢口縁	37.9		14.0	条痕後ナデ	凹線3条、ミガキ、胴部凹線1条	褐灰(7.5YR4/1)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	エ-7	1271	
85	深鉢口縁	35.0		7.0	ミガキ、ナデ	凹線3条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	カ-17	5257他	
86	深鉢口縁	25.8		25.7	ミガキ、ナデ	凹線3条、ミガキ、胴部凹線1条	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-5	722他	
87	深鉢口縁	27.4		26.5	ミガキ、ナデ	沈線5条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1	ウ-5	702他	
88	深鉢口縁	32.6		8.2	ナデ	沈線文、ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄褐(10YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	キ-4	3423他	外面スス付着
89	深鉢口縁	28.6		7.1	ミガキ	ミガキ	灰黄褐(10YR6/2)	褐灰(10YR4/1)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1	ウ-3	1956	
90	深鉢口縁	15.6		6.2	ナデ	沈線文、ミガキ	にぶ黄褐(10YR5/3)	灰黄褐(10YR6/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-4	2114	
91	深鉢口縁	22.8		13.4	ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-9	1319	
92	深鉢口縁	30.9		4.4	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	オリーブ黒(5Y3/1)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	6	キ-10	4993	外面スス付着
93	深鉢口縁			7.5	ナデ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、長石を含む	良好	6	シ-14	5216	
94	深鉢口縁	25.1		10.7	ナデ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	オ-6	870	
95	深鉢口縁	25.7		13.1	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	灰褐(7.5YR4/2)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	4	ケ-16	6200他	外面スス付着
96	深鉢口縁	29.0		13.0	ナデ	沈線4条、ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	褐(7.5YR4/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-2	226他	
97	深鉢口縁	30.8		13.2	ナデ	沈線4条、ナデ	褐(7.5YR4/6)	にぶ黄褐(10YR4/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1	イ-4	1586	
98	深鉢口縁	30.9		21.2	ナデ	条痕文、条痕後ナデ	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	キ-4	3410他	
99	深鉢口縁			8.8	ナデ	条痕文、ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、蛍母を含む	良好	6	ク-10	4903	
100	深鉢口縁			7.0	ナデ	条痕文、ミガキ、ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	ケ-18	5713他	
101	深鉢口縁	27.8		16.5	条痕後ナデ	ミガキ、条痕後ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	サ-15	6175他	
102	深鉢口縁	25.6		19.1	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-2	205他	
103	深鉢口縁	18.5		13.0	ナデ	条痕、ミガキ、ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-7	3832他	
104	深鉢口縁	21.6		15.9	ミガキ、ナデ	条痕後ミガキ	灰褐(7.5YR6/2)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	キ-18	5660他	
105	深鉢口縁	34.8		7.1	ナデ	条痕後ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-9	5045	
106	深鉢口縁	28.8		23.8	ミガキ、ナデ	条痕後ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶ黄橙(10YR7/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-5	3805他	
107	深鉢口縁	24.6		15.8	条痕後ナデ	条痕文	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	オ-8	1165他	外面スス付着
108	深鉢口縁	32.6		11.0	条痕後ナデ	条痕後ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-4	321他	
109	深鉢口縁	7.6	7.1	13.0	ナデ	ナデ、指頭痕	黒褐(7.5YR3/2)	にぶ橙(2.5YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、蛍母を含む	良好	6	コ-15	6170他	手づくねで整形
110	浅鉢口縁	34.5		4.7	ミガキ	波状口縁、凹線2条、押点文、ミガキ	橙(7.5YR6/6)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-6	1018他	
111	浅鉢口縁	30.5		3.2	ミガキ	波状口縁、凹線2条、押点文、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	2	チ-3	2162他	
112	浅鉢口縁	28.7		4.6	ミガキ	凹線2条、ミガキ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-3	960	
113	浅鉢口縁	25.0		3.5	ミガキ	凹線2条、ミガキ	褐灰(10YR6/1)	にぶ黄橙(10YR7/2)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	2	タ-4	2227	
114	浅鉢口縁	20.1		2.9	ミガキ	凹線2条、ミガキ	にぶ橙(7.5YR6/4)	褐(7.5YR4/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-3	1912	
115	浅鉢口縁	25.6		6.1	ミガキ	沈線1条、ミガキ	灰オリーブ(5Y6/2)	にぶ黄(2.5YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	カ-18	5306他	
116	浅鉢口縁	35.0		5.9	ミガキ	沈線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄(2.5YR6/3)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1	オ-6	840	
117	浅鉢口縁	40.4		7.5	ミガキ	沈線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-17	6002他	
118	浅鉢口縁	33.5		8.8	ミガキ	ミガキ	浅黄(2.5YR7/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	カ-16	5254他	
119	浅鉢口縁	37.0		9.3	ミガキ	沈線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	4	コ-4	4540	内・外面スス付着
120	浅鉢口縁	41.8		11.6	ミガキ	沈線1条、ミガキ	黒褐(10YR3/1)	黒褐(10YR3/2)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	3	チ-14	2682	内・外面スス付着
121	浅鉢口縁	36.3		3.6	ミガキ	凹線2条、ミガキ	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	2	タ-4	2115他	内面スス付着
122	浅鉢口縁	27.5		4.0	ミガキ	凹線2条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	2	タ-3	2212	内・外面スス付着
123	浅鉢口縁	29.2		7.0	ミガキ	凹線1条、ミガキ	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR6/2)	砂粒多量、石英、長石を含む	良好	4	キ-5	3941他	
124	浅鉢口縁	16.0		4.8	凹線1条、ミガキ	ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/2)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	カ-6	3166	
125	浅鉢口縁	22.5		7.0	沈線1条、ミガキ	波状口縁、ミガキ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石、黒曜石を含む	良好	4	キ-5	3319他	
126	鉢底部		4.4	6.1	ナデ	ナデ	黄灰(2.5YR5/1)	褐灰(10YR4/1)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-2	177	内・外面スス付着
127	鉢底部		7.0	2.3	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ケ-4	3968	内面スス付着
128	鉢底部		7.4	2.9	ナデ	ナデ	褐灰(10YR5/1)	明黄褐(10YR6/6)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-5	3802	
129	鉢底部		6.0	2.0	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-3	1475	内面スス付着
130	鉢底部		8.2	2.3	ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-4	1713	内面スス付着
131	鉢底部		7.0	1.7	ナデ	ナデ	褐灰(10YR4/1)	橙(7.5YR6/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	ク-17	5710	内面スス付着
132	鉢底部		7.9	3.5	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄褐(10YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	キ-5	3359	内面スス付着
133	鉢底部		7.0	4.2	ミガキ	ミガキ、ナデ	褐灰(10YR5/1)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、長石を含む	良好	4	ケ-5	4229他	内面スス付着
134	鉢底部		9.3	9.1	ナデ	条痕後ナデ	にぶ褐(7.5YR5/4)	にぶ褐(7.5YR5/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	キ-5	3325他	
135	鉢底部		8.8	2.0	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	カ-18	5287他	
136	鉢底部		8.2	2.5	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ褐(7.5YR5/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-3	464	
137	鉢底部		12.0	2.2	ナデ	ナデ	黄灰(2.5YR5/1)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	ク-5	3815	
138	鉢底部		9.4	5.5	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-2	185	
139	鉢底部		12.0	3.2	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	粗砂粒多量、角閃石、長石を含む	良好	3	タ-13	2655	
140	鉢底部		9.7	2.8	ナデ	ナデ	橙(2.5YR6/6)	にぶ褐(7.5YR5/4)	粗砂粒多量、石英、長石を含む	不良	4	ク-5	5834	
141	鉢底部		9.9	4.7	ナデ	ナデ	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄褐(10YR5/3)	粗砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	コ-17	5995	内面スス付着
142	鉢底部		11.9	2.9	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	サ-18	6009他	
143	鉢底部		11.2	2.7	ナデ	ナデ	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	オ-7	Ⅱ層	
144	鉢底部		12.0	8.0	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	4	カ-4	3252他	

１ｄ類（８～12）

正三角形を呈し、基部がＵ字状に抉られた凹基の石鏃である。５点出土した。いずれも細かい調整がなされている。８は抉りが深く長脚鏃に近い形態で側縁が下半部で弯曲している。９～12はいずれも小型の石鏃で、10は石材に赤チャートを使用している。

２ａ類（13～22）

平基で、二等辺三角形を呈する石鏃である。10点出土した。15は側縁が途中で屈曲して五角形に近い形態になっている。19は側縁が長い細身の石鏃である。20は先端と右基部の一部を欠損している。22は安山岩製であるが風化が激しい。

２ｂ類（23～55）

二等辺三角形で、基部に浅い抉りの入る石鏃である。33点出土した。形態は側縁部が直線状のものが大部分であるが、外弯した側縁を持つもの（26、50）と内弯した側縁を持つもの（40）もある。また、大きさは中型が大部分を占めるが、大型は26、43、50、52の４点、小型は23、28、40、44、47、49、51の７点ある。

24は安山岩製であり、風化が激しく左基部の一部を欠損している。46は風化したチャートを使用し、両側縁中央部に浅い抉りがある。47は表面に原石面、裏面に素材剥離面を残している。49は小型の石鏃で、両側縁の下半部に鋸歯状の調整が施してある。

２ｃ類（56～78）

二等辺三角形で、基部がＶ字状に抉られた凹基の石鏃である。23点出土した。側縁が直線状のものが大部分であるが、側縁が途中で屈曲して五角形に近い形態になっているもの（57）、側縁が途中で段をなしているもの（71）、側縁が外弯しているもの（58、78）もある。また、大きさは大型のもの（58、59、63、66、67、71、75、78）、中型のもの（56、57、61、65、68～70、73、74、76）、小型のもの（60、62、64、72、77）に分けられる。

59、67、68、74は両側縁に鋸歯状の調整が施してある。また、61にも下半部に鋸歯状の調整が施してある。69は表裏面とも素材剥離面を残している。71は側縁が途中で段をなしており、使用中に折損した部分を再生したものと思われる。76は石材に赤チャートが使用されている。

２ｄ類（79～100）

二等辺三角形で、基部がＵ字状に抉られた凹基の石鏃である。22点出土した。側縁が直線状のものが大部分であるが、外弯した側縁を持つもの（84、98、100）と内弯した側縁を持つもの（90）がある。また、大きさは中型が大部分を占めるが、大型のもの（82、85、86、89、92、99）、小型のもの（84、87、97）もある。

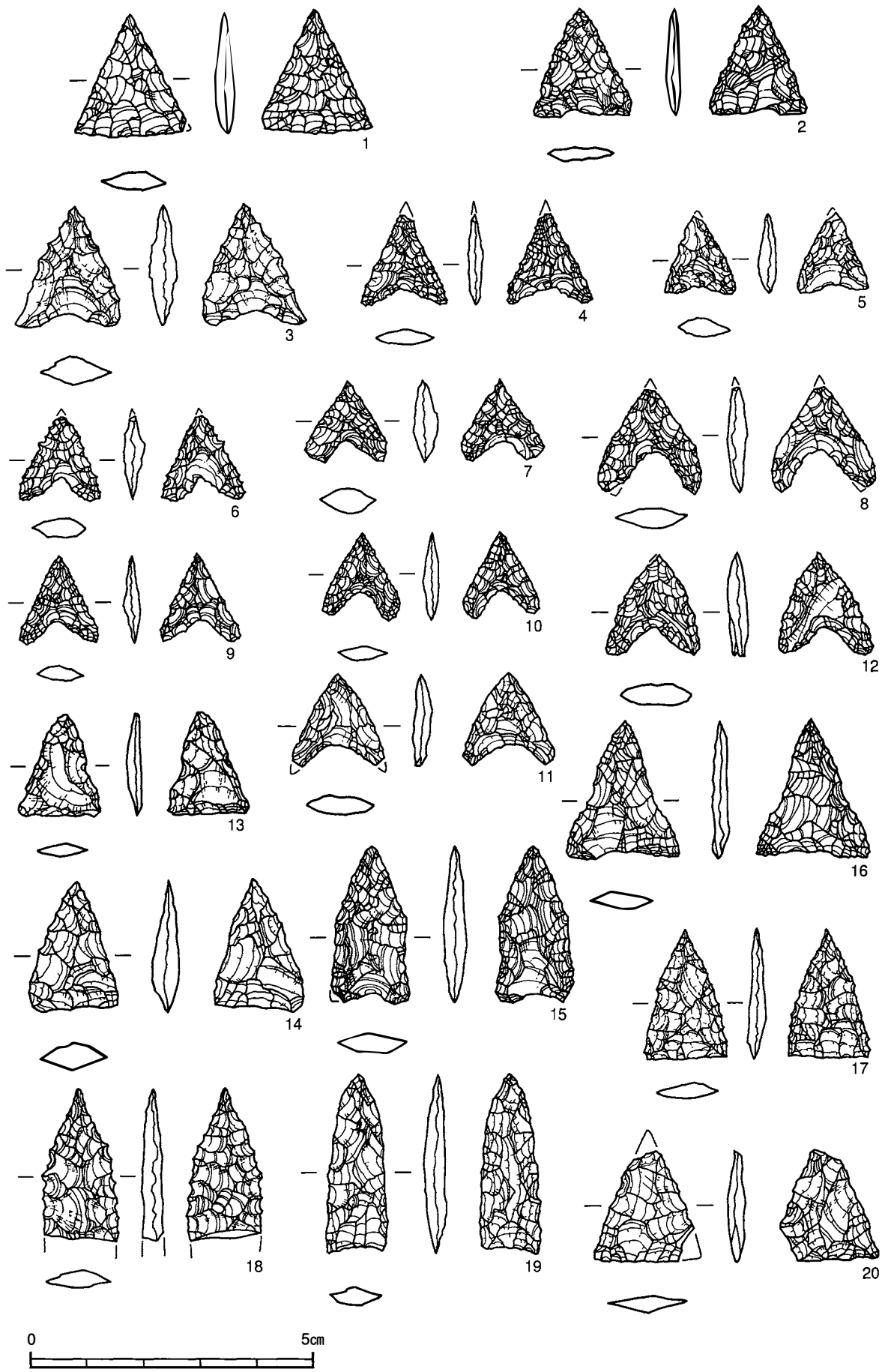
84は黒耀石製で表面には原石面及び転礫面が残り、裏面にも素材剥離面が残っている。85は長さ3.95cmの安山岩製の大型の石鏃で風化が激しく調整がわかりにくい。また、先端部を欠損している。86は長さ4.05cmのチャート製の大型の石鏃である。87は黒耀石製で非常に小さな石鏃である。98は黒耀石製で表裏面とも素材剥離面を残し、外弯した側縁を持ち、円脚鏃のようでもある。99は黒耀石製で表裏面とも丁寧な調整が施されている。

異形石器（101）

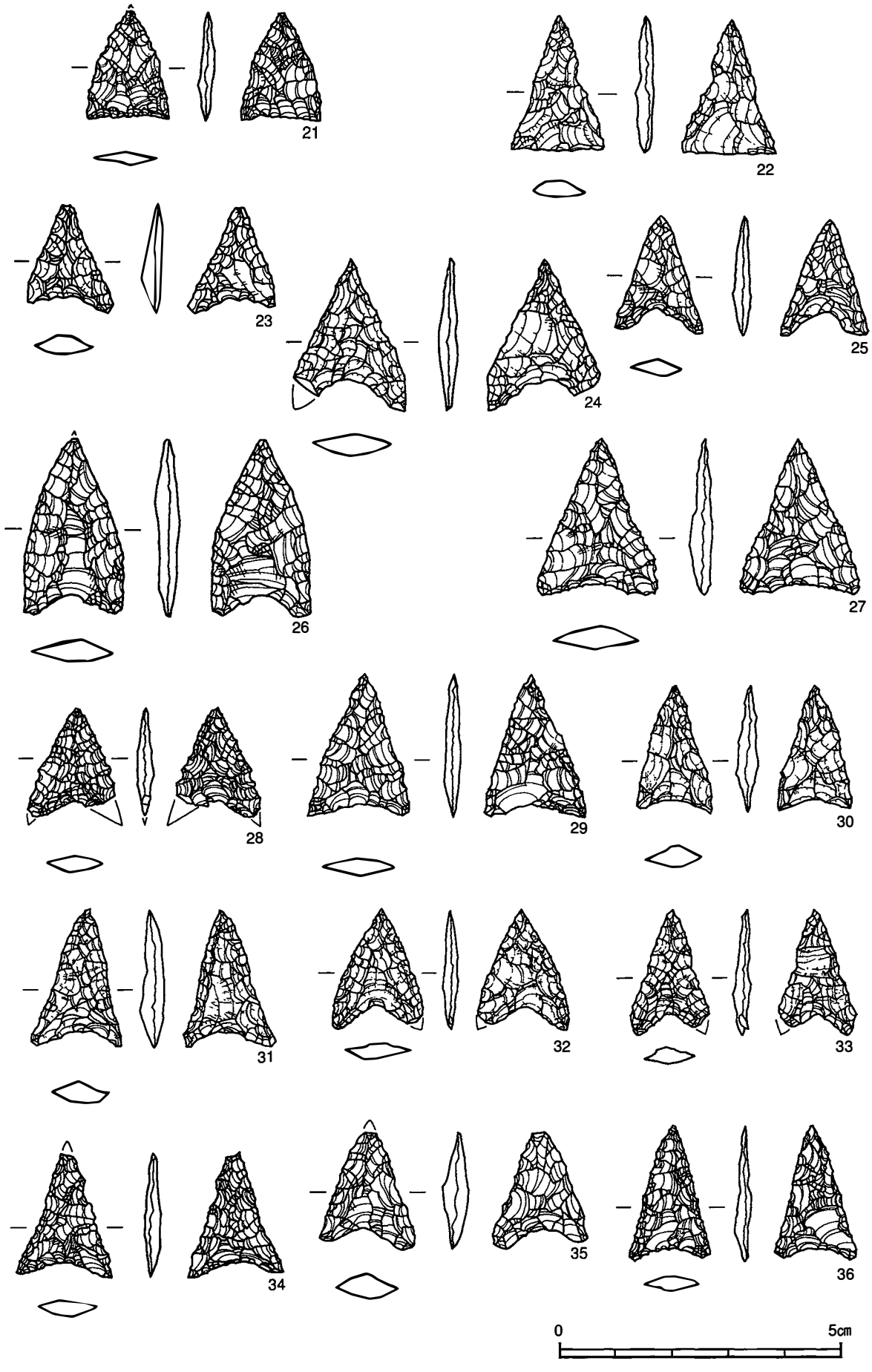
101は俗に「トロトロ石器」と愛称される石器である。チャート製で、先端は丸く、脚部に角状の突起を持つ。

石匙（102～109）

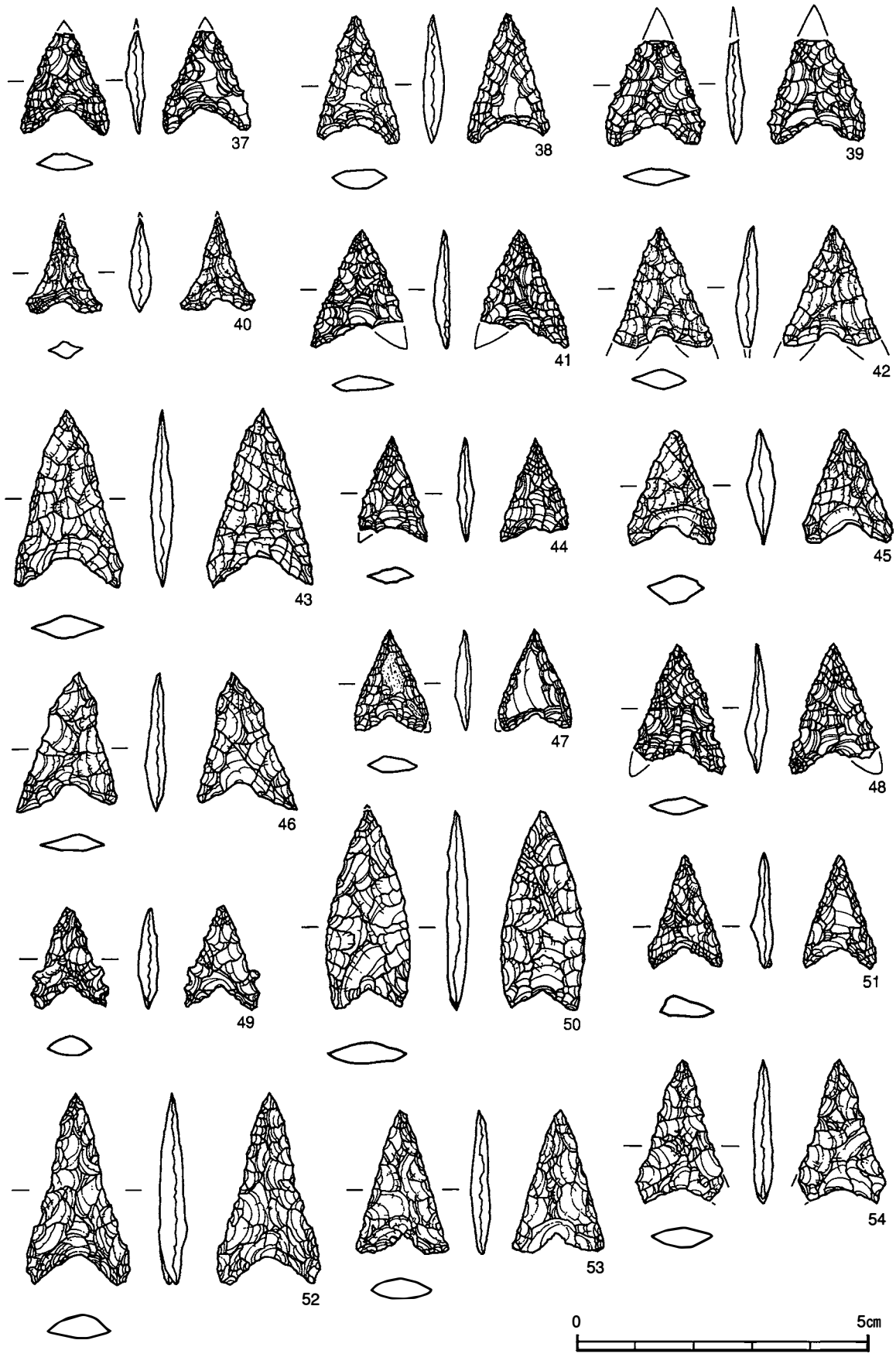
石匙は、全部で８点出土した。内訳は横型が４点（102～104、108）、縦型が４点（105～107、109）である。102はチャート製で調整が丁寧である。103と104は黒耀石製の小型の石匙である。105は黒耀石製で、調整が一部にとどまっており、未加工品の可能性がある。106～109は安山岩製の大型の石匙である。106は縦型の三角形で先端部を欠損している。109は調整が一部にとどまっており、未加工品の可能性がある。



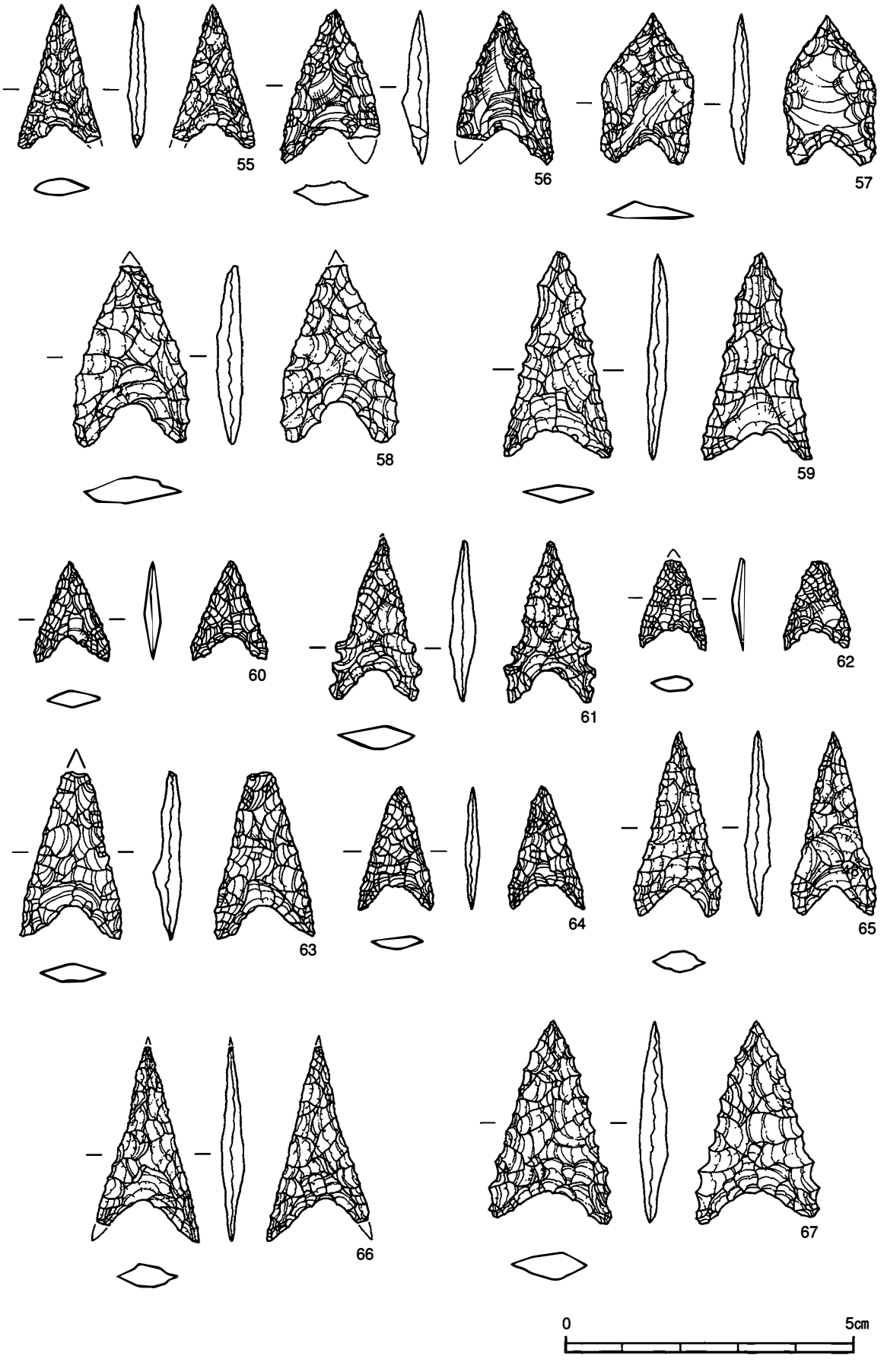
第42図　梨木遺跡出土石器（1）



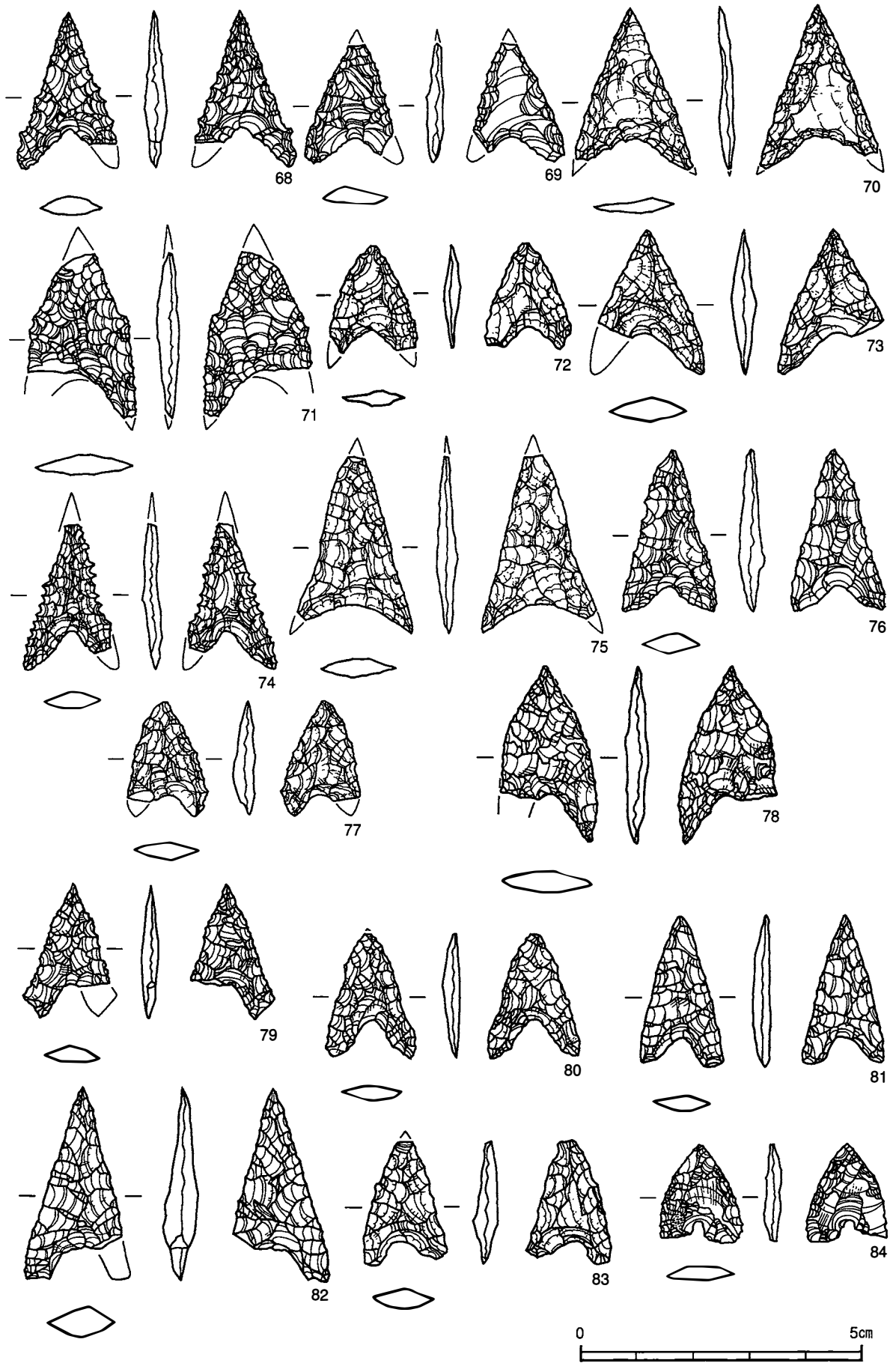
第43図　梨木遺跡出土石器（2）



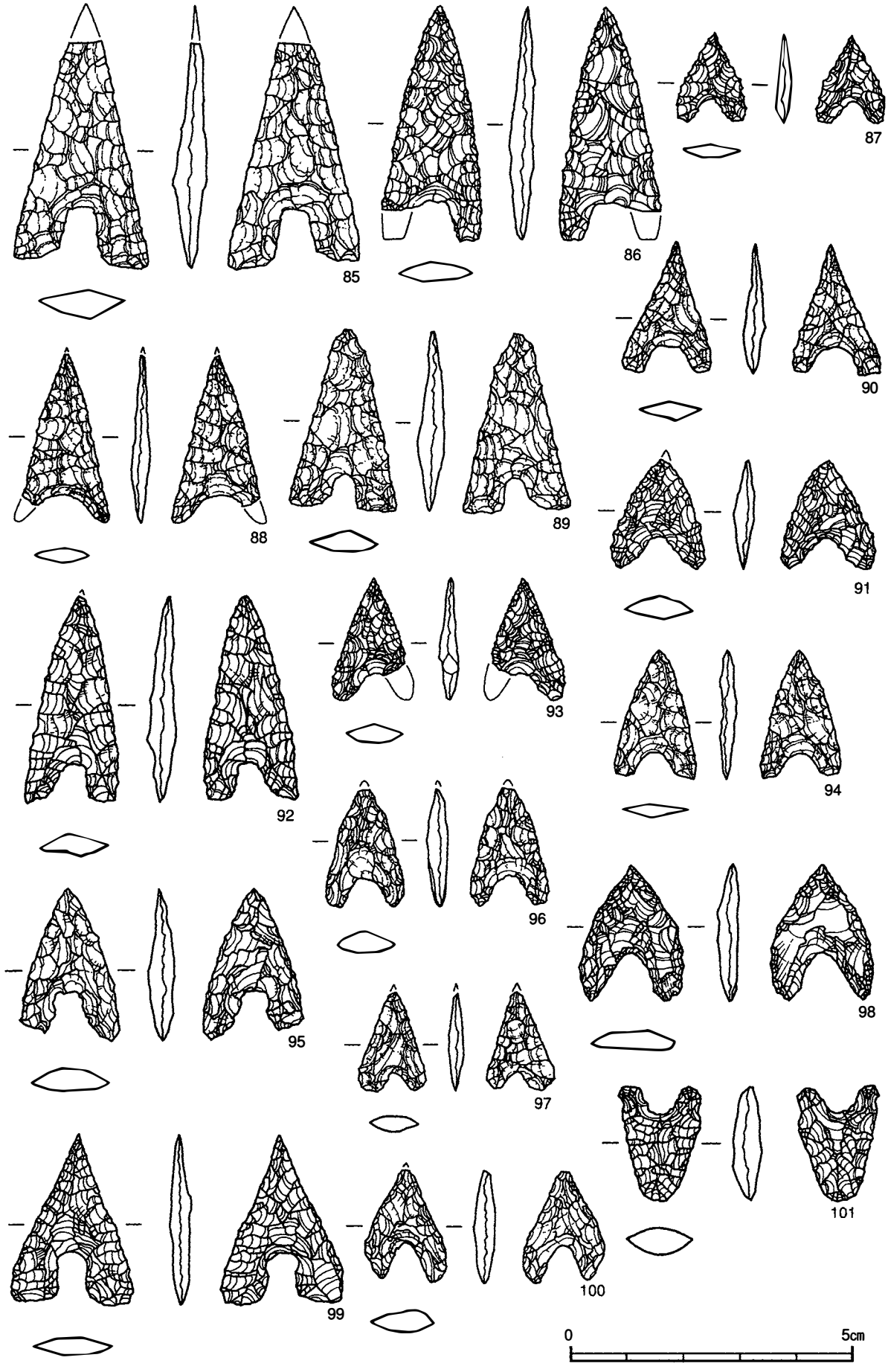
第44図　梨木遺跡出土石器（3）



第45図　梨木遺跡出土石器（4）



第46図　梨木遺跡出土石器（5）



第47図　梨木遺跡出土石器（6）

削器（110～113）

剥片の側縁部に連続的に調整を加えて作られた刃部を持つ石器を削器として扱った。全部で４点出土した。大きさによって、大型のもの（111、113）、小型のもの（110、112）に分けられる。石材は４点ともが安山岩製である。

110はつまみのような部分があり、石匙とも考えられる。111は側縁剥離面が急角度で調整を施してある。112は側縁部に使用痕がある。113は横に長い削器である。

打製石斧（114～117）

打製石斧は、４点出土した。形態によって、両側縁がほぼ平行な短冊形（長方形）のものがほとんどであり、石材は４点とも安山岩製である。

114は刃部の一部を欠損している。115は側縁部にゆるいくびれを持ち、頭部を欠損し、一面に磨りが施してある。116は頭部を欠損し、部分的に稜線に摩滅や敲打痕がある。117は頭部を欠損し、両面に擦れや線状痕があり、側縁には使用痕がある。

円盤状石器（118）

砂岩製で、全周に刃部がまわり、刃部は両刃である。裏面に磨りが施してある。

石錘（119）

119は絹雲母片岩製の石錘で、１点のみの出土である。両側縁部のほぼ中央部に抉れがある切目石錘である。

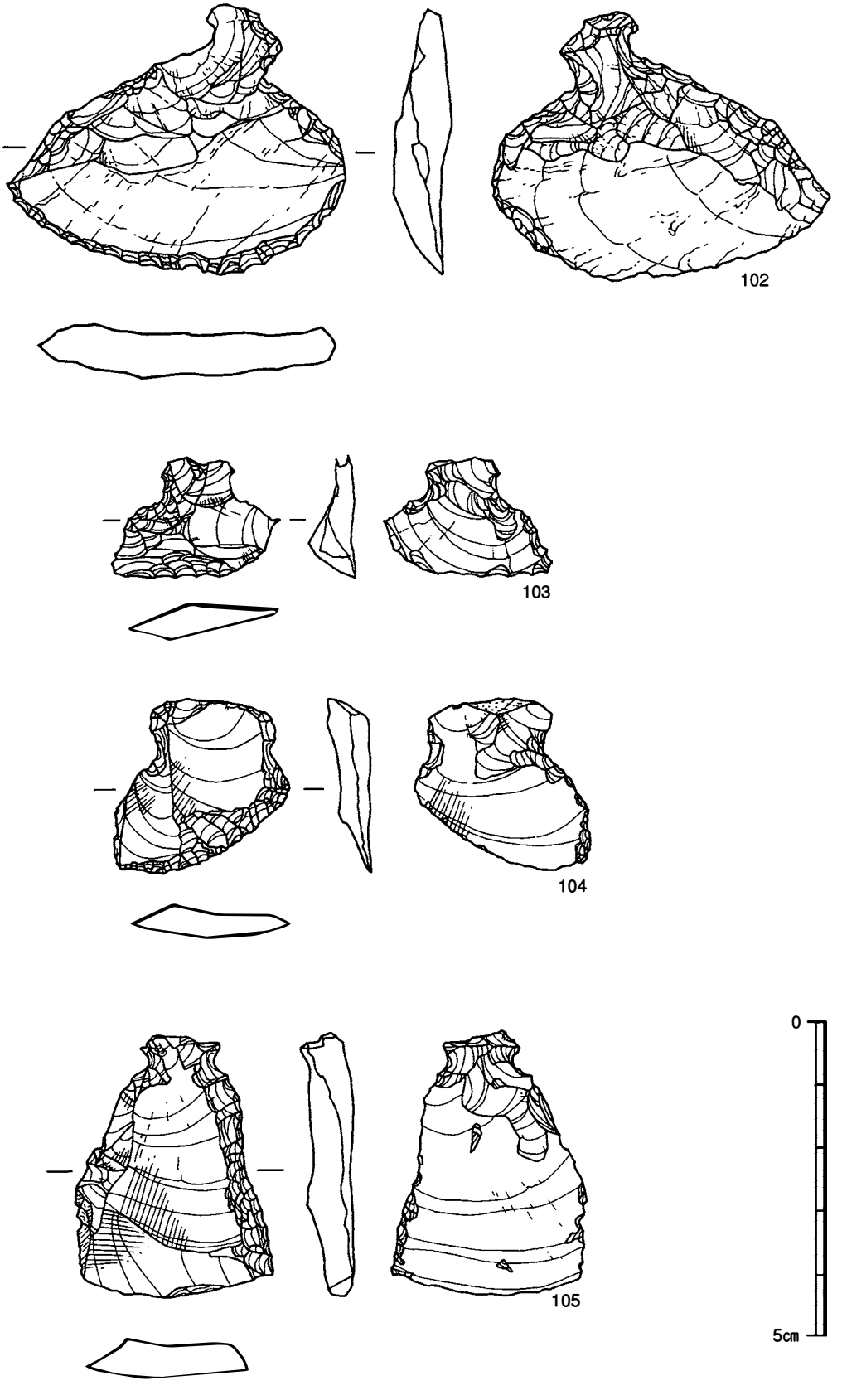
磨製石斧（120～125）

磨製石斧は、６点出土した。石材は粘板岩製が120、125で、蛇紋岩製が121、122、124であり、砂岩製が123である。

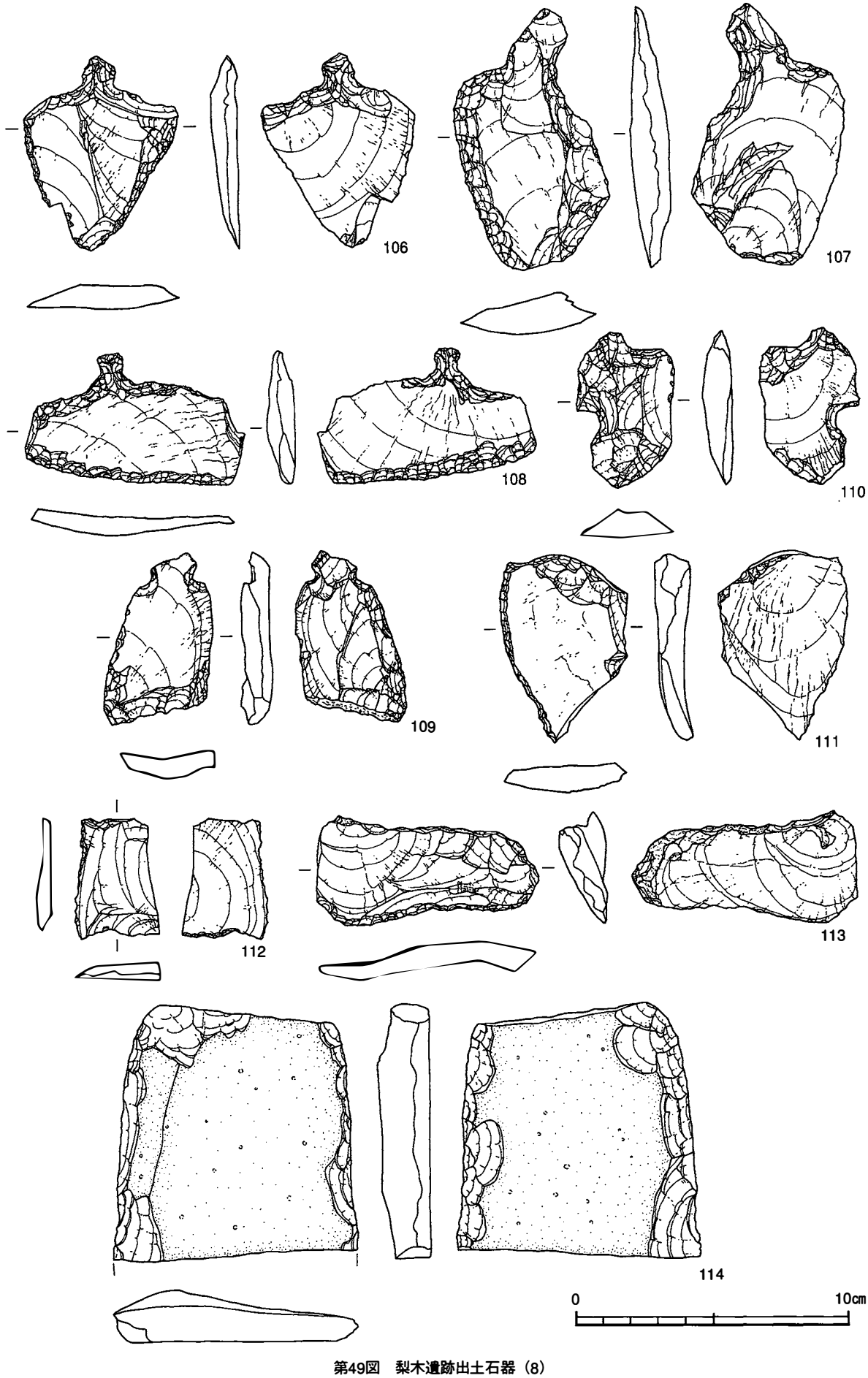
120は石ノミとして使用されたようで、表面及び刃部は丁寧に磨いてあり、基部は欠損している。121は基部側から石器中位面にかけて大きく欠損している。122は接合することができたが､石器中位部から基部にかけて欠損し、石器中位部の左右両側縁に潰れ痕が認められ装着痕の可能性が考えられる。123は完形品で、刃部は両刃で丁寧にみがいてあり、基部には敲打痕がある。また、石器中位部に凹みがあり、装着痕の可能性が考えられる。124は刃部は両刃であり、石器中位部から基部にかけて大きく欠損しており、側縁に敲打痕があり、石器中位部の左右両側縁に潰れ痕が認められ装着痕の可能性が考えられる。125は完形品で、刃部は両刃で丁寧に磨いてある。石器中位部に凹みがあり、装着痕の可能性が考えられる。

磨石・敲石（126～136）

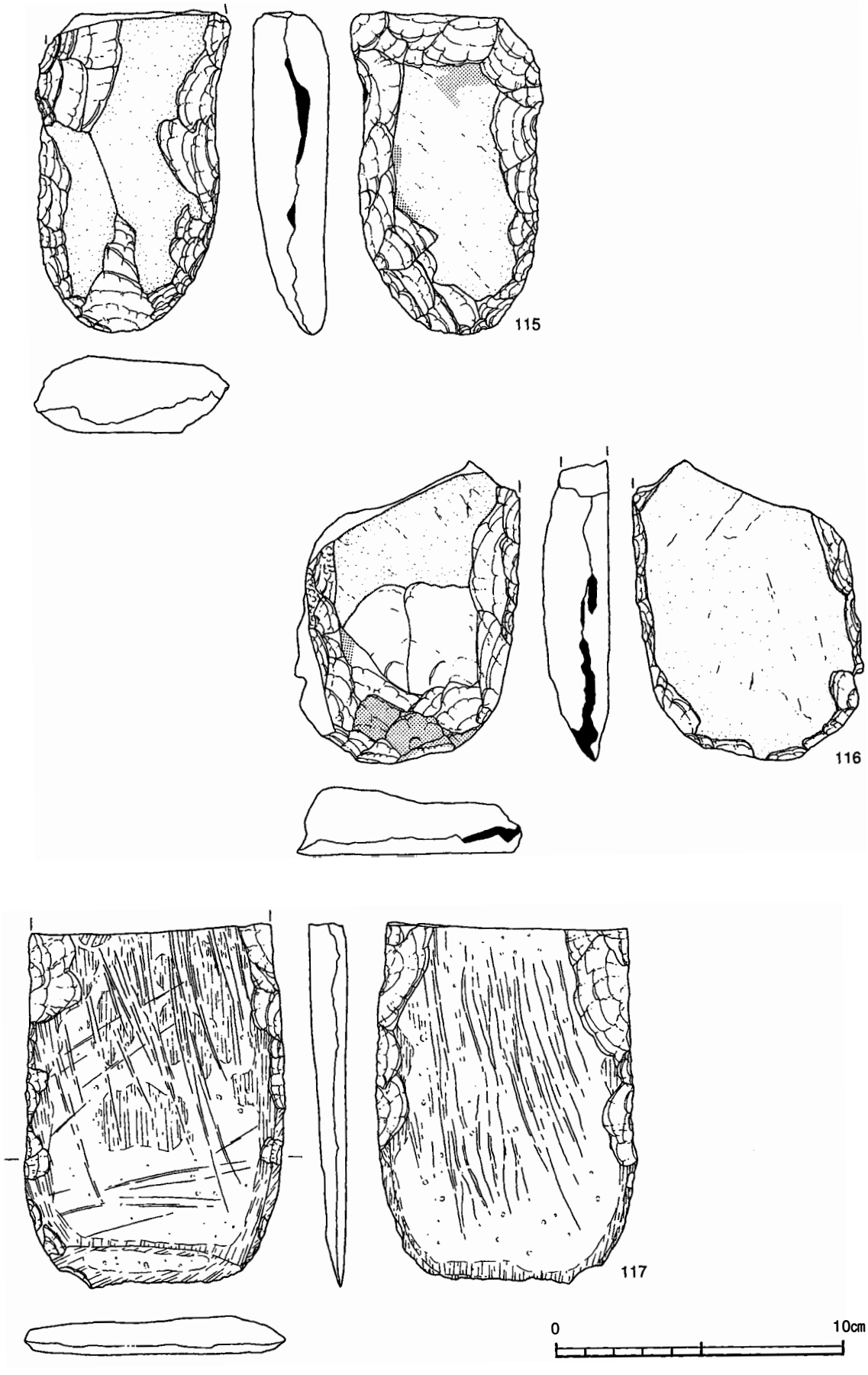
磨石･敲石は、合わせて11点出土した。石材は砂岩製が127、128、130、133、136で、凝灰岩製が126、129、131、132、134、135である。多くが円盤状の礫を使用し、一部に磨痕、あるいは敲打痕を残している。また、一部を欠損しているもの（126、129、130、132）もある。128は木の実を磨り潰したのか部分的に紫色に変化している。130は石皿として使用した可能性がある。



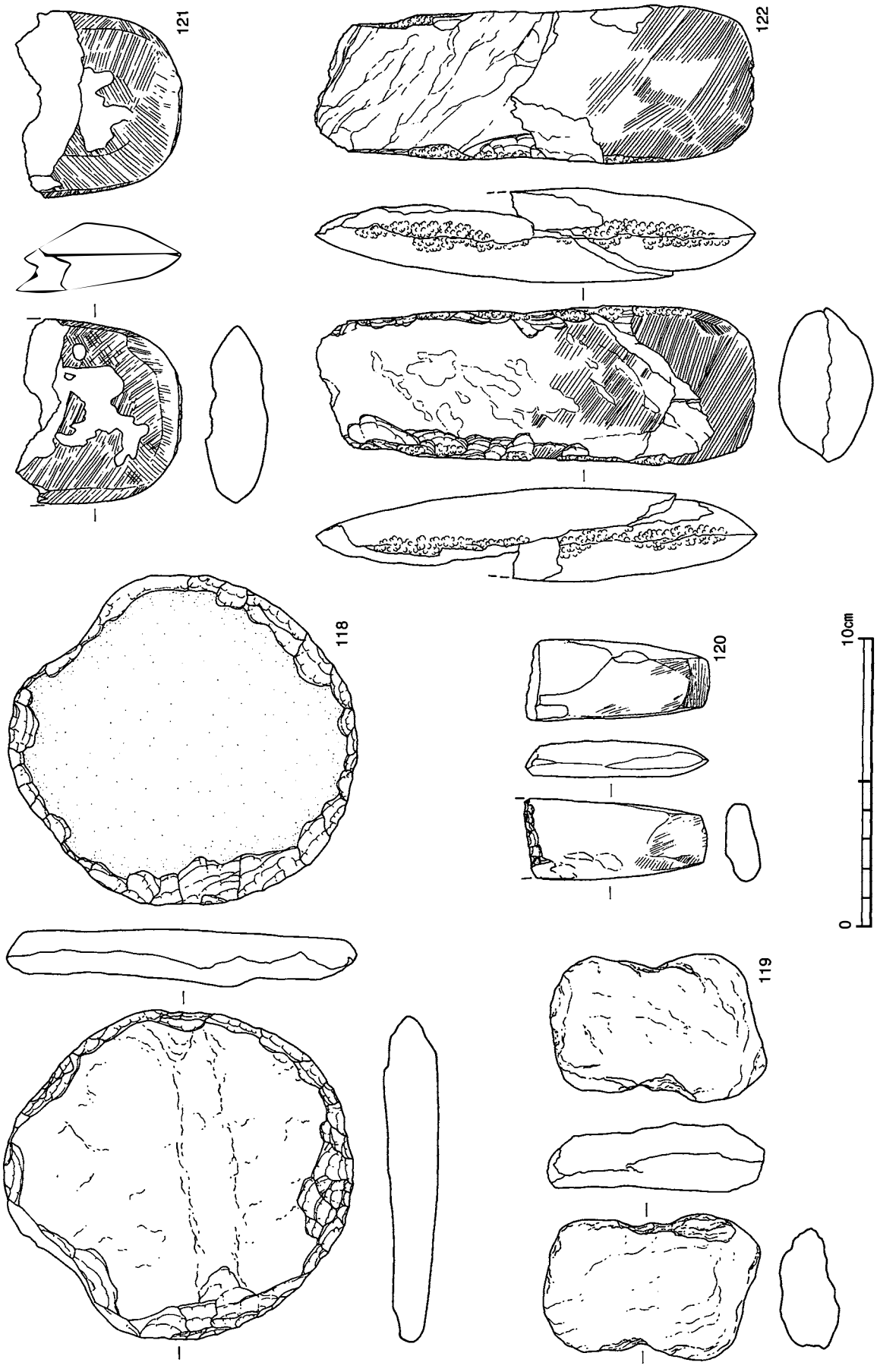
第48図　梨木遺跡出土石器（7）



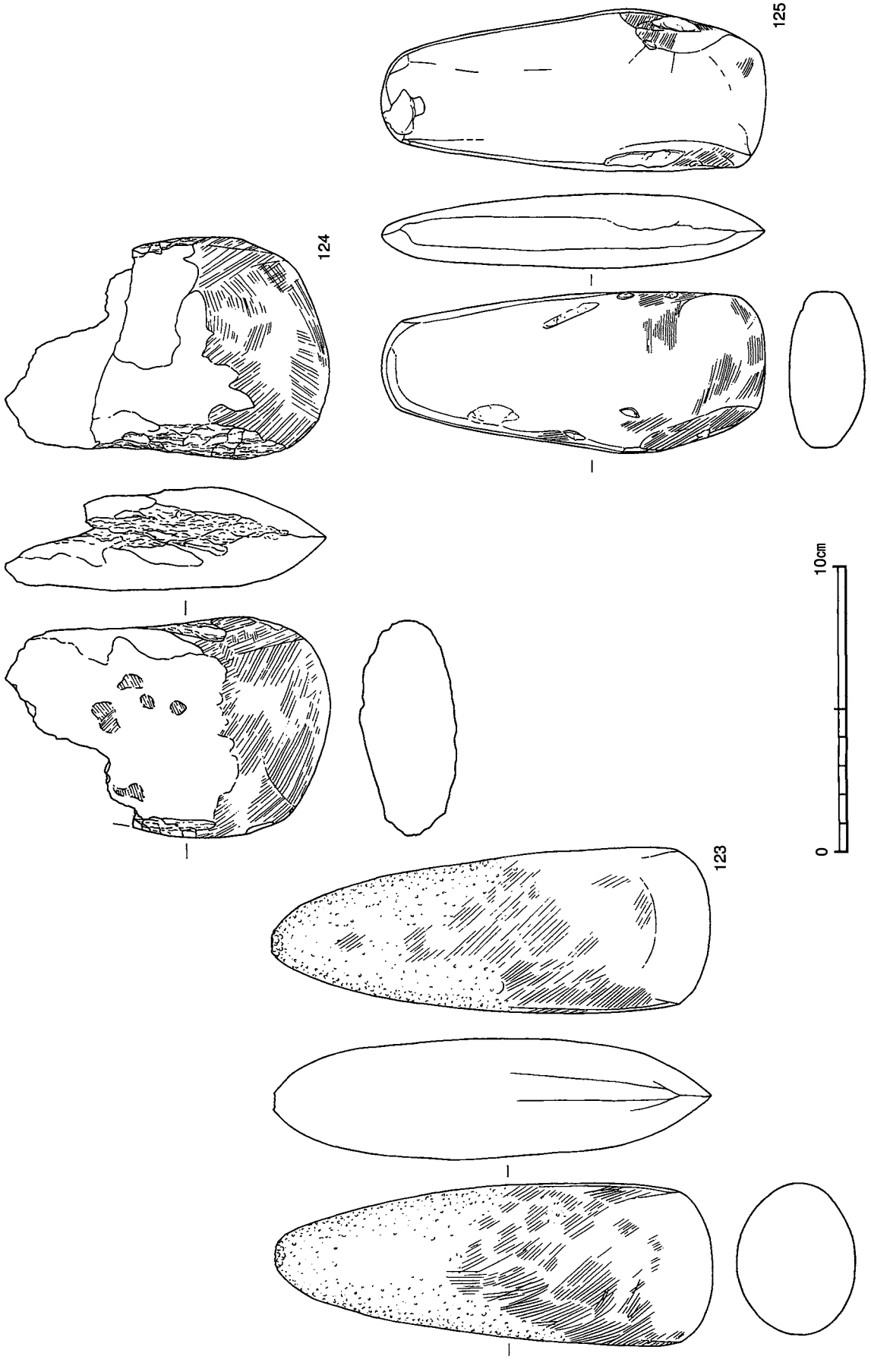
第49図　梨木遺跡出土石器（8）



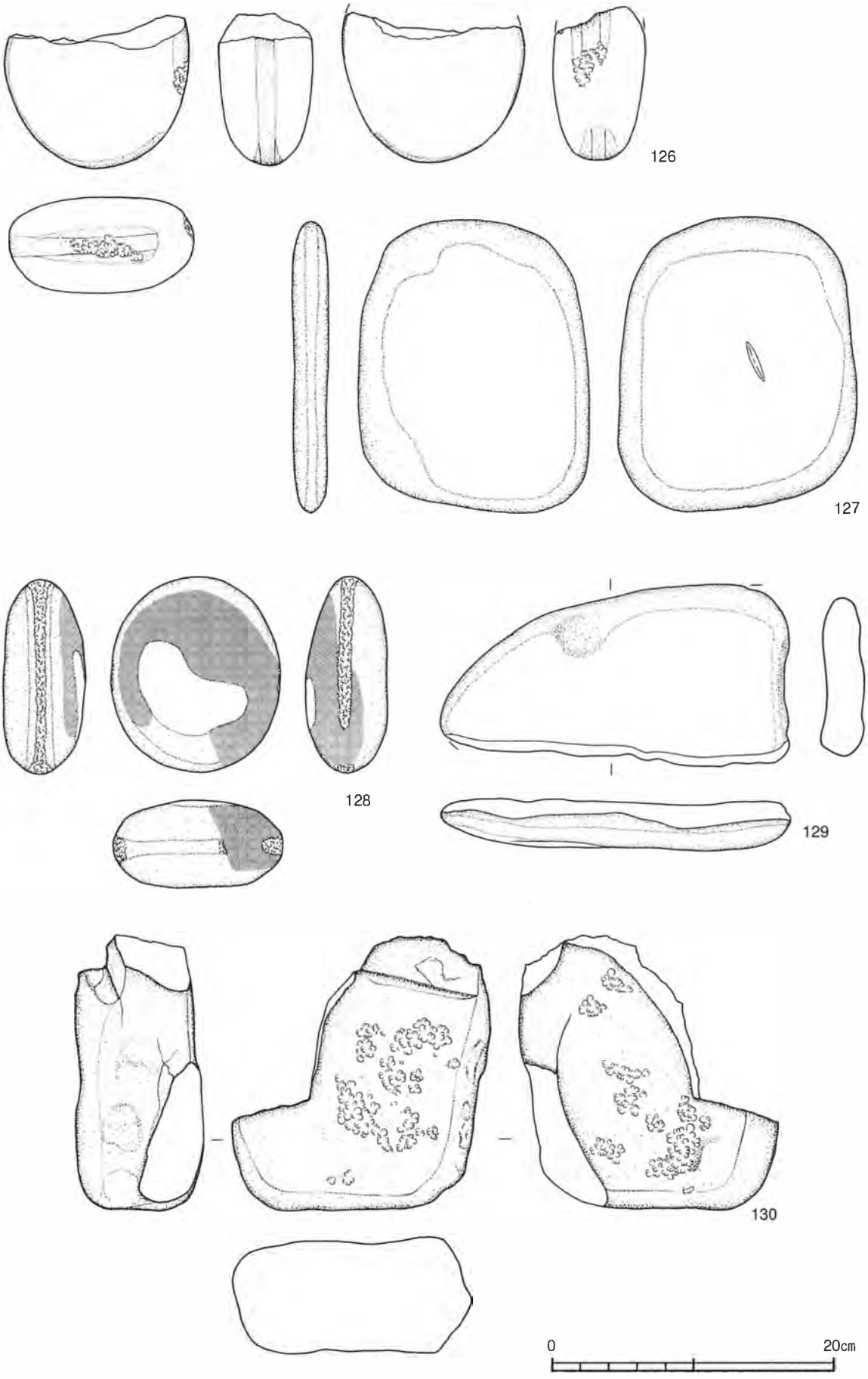
第50図　梨木遺跡出土石器（9）



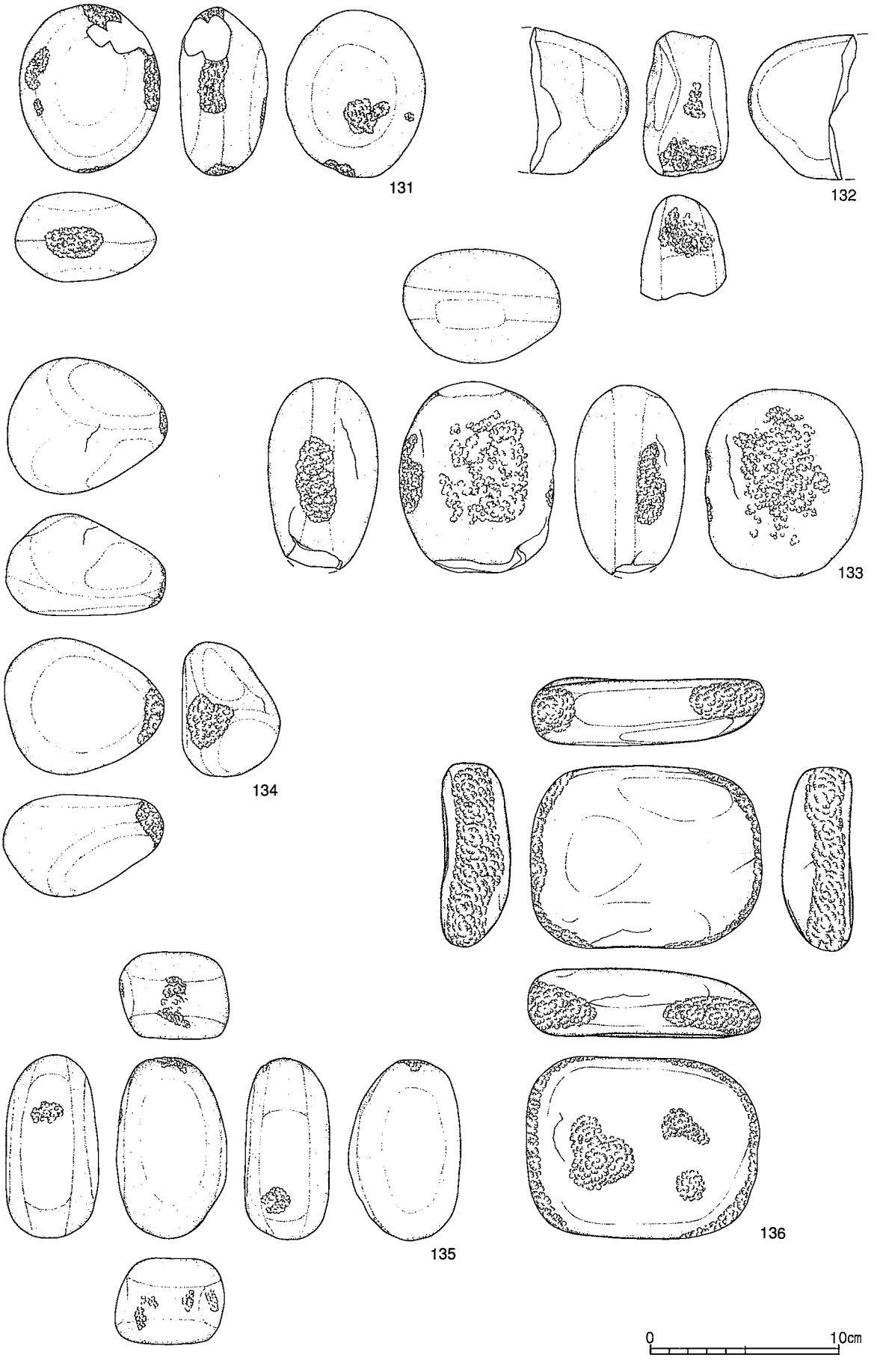
第51図　梨木遺跡出土石器（10）



第52図　梨木遺跡出土石器（11）



第53図　梨木遺跡出土石器（12）



第54図　梨木遺跡出土石器（13）

第６表　梨木遺跡出土石器観察表（1）

遺物番号	器種	石材	計測値（残存部） 長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	石鏃	チャート	2.15	1.95	0.35	1.2	1	ウ-3	1915	
2	石鏃	黒耀石	1.85	1.70	0.30	0.6	4	カ-8	3672	
3	石鏃	安山岩	2.10	1.80	0.50	1.2	4	キ-7	3289	
4	石鏃	黒耀石	1.55	1.50	0.30	0.4	6	ク-10	4901	
5	石鏃	安山岩	1.35	1.25	0.30	0.4	1	ウ-2	一括	
6	石鏃	チャート	1.45	1.40	0.40	0.4	4	キ-7	3288	鋸歯鏃
7	石鏃	黒耀石	1.40	1.45	0.45	0.6	6	キ-11	5373	
8	石鏃	黒耀石	1.80	1.80	0.35	0.8	6	ク-11	4917	
9	石鏃	黒耀石	1.50	1.40	0.30	0.4	6	コ-12	5475	
10	石鏃	赤チャート	1.50	1.40	0.30	0.4	6	ケ-18	5721	
11	石鏃	安山岩	1.60	1.15	0.35	0.6	6	ケ-18	5922	
12	石鏃	黒耀石	1.75	1.65	0.35	0.6	6	コ-18	5872	
13	石鏃	安山岩	1.80	1.45	0.25	0.6	1	エ-3	1934	
14	石鏃	安山岩	2.30	1.55	0.50	1.2	4	キ-4	3452	
15	石鏃	黒耀石	2.70	1.40	0.40	1.4	4	カ-8	3492	不純物あり
16	石鏃	チャート	2.40	2.00	0.30	1.2	4	キ-5	3995	
17	石鏃	安山岩	2.25	1.40	0.35	1.0	5	ア-14	4176	
18	石鏃	チャート	2.65	1.35	0.40	1.2	5	a-14	4593	
19	石鏃	安山岩	3.10	1.10	0.45	1.4	6	キ-11	5030	
20	石鏃	チャート	1.95	1.75	0.30	1.0	6	コ-13	5131	
21	石鏃	黒耀石	1.90	1.45	0.30	0.6	6	ケ-11	5147	
22	石鏃	安山岩	2.35	1.65	0.30	0.6	6	キ-19	2号円形一括	風化
23	石鏃	安山岩	1.85	1.50	0.40	0.8	1	エ-2	373	
24	石鏃	安山岩	2.65	2.00	0.35	1.4	1	エ-7	1281	風化が進んでいる
25	石鏃	安山岩	2.10	1.55	0.25	0.6	1	エ-7	1298	
26	石鏃	チャート	3.10	1.75	0.45	2.0	1	エ-7	1783	
27	石鏃	チャート	2.70	2.10	0.45	1.8	2	チ-2	2034	
28	石鏃	黒耀石	1.90	1.55	0.30	0.6	1	ウ-3	1991	
29	石鏃	チャート	2.50	1.80	0.30	0.8	2	ソ-2	2093	
30	石鏃	安山岩	2.20	1.30	0.40	0.8	2	ソ-2	2101	
31	石鏃	安山岩	2.40	1.65	0.40	1.2	3	タ-13	2627	
32	石鏃	安山岩	2.10	1.60	0.30	0.6	3	タ-15	3149	
33	石鏃	黒耀石	2.20	1.35	0.35	0.6	4	カ-6	3170	
34	石鏃	黒耀石	2.20	1.70	0.30	0.6	4	キ-8	3500	
35	石鏃	黒耀石	2.05	1.70	0.45	1.0	4	カ-7	3932	
36	石鏃	黒耀石	2.35	1.45	0.30	0.6	5	a-13	4116	不純物あり
37	石鏃	黒耀石	1.70	1.50	0.30	0.4	4	ケ-5	4425	
38	石鏃	安山岩	2.15	1.40	0.35	0.8	5	ア-13	4559	風化
39	石鏃	黒耀石	1.70	1.65	0.30	0.8	6	コ-9	4613	
40	石鏃	安山岩	1.55	1.25	0.40	0.4	6	サ-10	4718	
41	石鏃	黒耀石	2.00	1.60	0.30	0.6	6	シ-12	4834	
42	石鏃	安山岩	2.00	1.70	0.40	1.0	6	ク-11	4931	
43	石鏃	安山岩	3.00	1.85	0.40	1.4	6	ケ-9	5041	
44	石鏃	黒耀石	1.75	1.15	0.30	0.4	6	サ-9	5100	
45	石鏃	安山岩	1.90	1.50	0.50	0.8	6	サ-14	5223	
46	石鏃	頁岩	2.35	1.70	0.40	1.0	6	カ-18	5300	
47	石鏃	黒耀石	1.70	1.25	0.30	0.4	6	カ-18	5457	原石面を残す
48	石鏃	黒耀石	2.15	1.55	0.40	0.8	6	キ-18	5684	
49	石鏃	黒耀石	1.70	1.30	0.35	0.4	6	ケ-17	6003	鋸歯鏃
50	石鏃	安山岩	3.40	1.45	0.40	1.6	6	サ-17	6088	
51	石鏃	黒耀石	1.90	1.25	0.35	0.4	6	ケ-16	6203	
52	石鏃	安山岩	3.20	1.75	0.50	1.8	6	コ-16	6222	
53	石鏃	安山岩	2.45	1.55	0.35	0.8	5	ア-13	一括	
54	石鏃	安山岩	2.50	1.45	0.35	0.8	2		3号溝 一括	
55	石鏃	安山岩	2.45	1.40	0.30	0.6	4	コ-6	6220	
56	石鏃	黒耀石	2.60	1.70	0.50	1.2	4	ク-3	4131	
57	石鏃	チャート	2.55	1.60	0.35	1.2	2	タ-2	2182	
58	石鏃	安山岩	3.05	2.05	0.45	2.4	2	ソ-1	2080	
59	石鏃	安山岩	3.50	1.90	0.35	1.4	4	ク-5	3785	鋸歯鏃
60	石鏃	黒耀石	1.65	1.30	0.30	0.4	4	ク-7	3867	
61	石鏃	安山岩	2.75	1.60	0.45	1.0	1	エ-7	1784	鋸歯鏃
62	石鏃	黒耀石	1.50	1.15	0.25	0.4	1	オ-7	1127	
63	石鏃	チャート	2.85	1.75	0.50	1.8	4	ク-7	3347	
64	石鏃	チャート	2.10	1.30	0.25	0.4	4	ク-6	3746	
65	石鏃	安山岩	3.15	1.50	0.45	1.0	3	タ-15	2771	
66	石鏃	安山岩	3.30	1.75	0.40	1.2	4	ケ-7	4339	
67	石鏃	安山岩	3.45	2.10	0.50	2.6	5	b-13	4588	鋸歯鏃
68	石鏃	黒耀石	2.70	1.75	0.40	1.0	6	サ-9	4676	鋸歯鏃

第７表　梨木遺跡出土石器観察表（2）

遺物番号	器種	石材	計測値（残存部） 長さ（cm）	幅(cm)	厚み(cm)	重量(g)	調査区	出土地点	取上番号	備考
69	石鏃	黒耀石	2.05	1.55	0.30	0.8	5	a-12	4590	剥離面を残す
70	石鏃	安山岩	2.80	2.05	0.25	1.0	6	サ-11	4776	
71	石鏃	黒耀石	2.90	1.90	0.40	1.6	6	キ-11	5029	
72	石鏃	安山岩	1.85	1.55	0.30	0.6	6	コ-9	5059	
73	石鏃	安山岩	2.50	1.85	0.40	1.2	6	ケ-9	5042	
74	石鏃	黒耀石	2.55	1.50	0.35	0.8	6	カ-19	5330	鋸歯鏃
75	石鏃	安山岩	3.10	2.05	0.40	1.4	6	カ-9	5348	
76	石鏃	赤チャート	2.80	1.65	0.45	1.4	6	コ-11	5448	
77	石鏃	安山岩	2.00	1.40	0.40	0.8	6	サ-14	5491	
78	石鏃	黒耀石	3.10	1.70	0.40	1.2	6	ケ-16	6209	
79	石鏃	黒耀石	2.35	1.50	0.30	0.6	1	オ-8	1183	
80	石鏃	黒耀石	2.15	1.60	0.30	0.6	1	エ-3	1466	
81	石鏃	チャート	2.60	1.45	0.35	0.8	1	エ-3	1673	
82	石鏃	黒耀石	3.40	1.75	0.60	1.8	4	ク-4	3507	
83	石鏃	安山岩	2.15	1.50	0.45	1.0	4	キ-5	3364	
84	石鏃	黒耀石	1.70	1.45	0.30	0.6	5	b-14	4157	表面に原石面・転礫面、裏面に剥離面を残す
85	石鏃	安山岩	3.95	2.35	0.60	3.2	5	a-13	4117	
86	石鏃	チャート	4.05	1.80	0.45	2.4	4	コ-5	4455	
87	石鏃	黒耀石	1.55	1.20	0.30	0.4	4	コ-7	4510	
88	石鏃	安山岩	2.90	1.55	0.35	1.0	6	コ-8	4651	
89	石鏃	安山岩	3.15	1.90	0.50	1.8	6	キ-9	4849	
90	石鏃	安山岩	2.30	1.55	0.40	0.8	6	サ-10	5060	
91	石鏃	黒耀石	1.90	1.65	0.40	0.8	6	カ-17	5273	
92	石鏃	チャート	3.60	1.65	0.50	2.4	6	カ-18	5299	
93	石鏃	黒耀石	2.15	1.30	0.35	0.6	6	カ-19	5328	
94	石鏃	安山岩	2.25	1.45	0.30	0.8	6	コ-18	5790	
95	石鏃	安山岩	2.65	1.75	0.50	1.4	6	コ-18	5886	
96	石鏃	安山岩	2.50	1.40	0.40	0.8	1	ウ-1	一括	
97	石鏃	安山岩	1.70	1.20	0.30	0.4	6	キ-20	5817	
98	石鏃	黒耀石	2.35	1.80	0.40	1.2	6	カ-16	6132	剥離面を残す
99	石鏃	黒耀石	3.00	2.20	0.40	1.6	1	ウ-4	1729	
100	石鏃	黒耀石	2.00	1.45	0.40	0.8	6	サ-17	6063	
101	トロトロ石器	チャート	2.00	1.40	0.55	1.4	6	ク-14	5490	
102	石匙	チャート	4.20	5.35	0.90	15.0	6	コ-10	4937	
103	石匙	黒耀石	1.85	2.70	0.75	2.4	6	ケ-15	6190	不純物あり
104	石匙	黒耀石	2.70	2.80	0.70	3.0	6	ケ-12	4831	不純物あり
105	石匙	黒耀石	4.15	3.10	0.85	9.4	6	ケ-12	5418	不純物あり。側縁剥離面は急角度
106	石匙	安山岩	6.90	5.60	0.95	26.0	1	ウ-1	129	
107	石匙	安山岩	9.25	5.60	1.40	57.2	6	ク-17	6161	
108	石匙	安山岩	4.75	7.95	1.00	24.0	6	サ-18	6018	
109	石匙	安山岩	6.10	4.00	1.10	22.0	1	ウ-1	71	未製品か
110	削器	安山岩	5.45	3.55	1.05	17.4	6	ケ-19	14号溝	ノッチあり。石匙の可能性。側縁に使用痕
111	削器	安山岩	6.65	4.65	1.30	37.4	6	コ-13	5488	側縁剥離面は急角度
112	削器	安山岩	3.05	4.30	0.60	8.8	6	ク-11	5413	側縁に使用痕
113	削器	安山岩	3.90	8.15	1.70	32.0	6	ケ-18	5727	
114	打製石斧	安山岩	9.30	8.85	1.90	201.4	4	キ-6	3182	
115	打製石斧	安山岩	11.05	6.75	2.70	250.8	1	エ-8	1788	一面に磨り
116	打製石斧	安山岩	10.30	7.90	2.30	240.0	1	オ-8	1171	部分的に稜線の摩滅、敲打痕
117	打製石斧	安山岩	12.50	9.10	1.30	206.2	4	ケ-5	4235	両面に擦れ。縁辺に使用痕。両面全体に線条痕
118	円盤状石器	砂岩	12.10	11.40	1.95	332.8	1	ウ-3	1895	中央の凸部は自然形成
119	石錘	絹雲母片岩	7.50	5.10	2.35	112.4	6	コ-11	5434	
120	磨製石斧	粘板岩	6.35	2.80	1.25	32.4	6	コ-8	4645	基部欠損
121	磨製石斧	蛇紋岩	5.75	6.40	2.40	71.8	1	ク-3	3642	
122	磨製石斧	蛇紋岩	15.30	5.45	3.20	317.8	6	ケ-11	4809・5148	接合資料。側面に剥離のち敲打
123	磨製石斧	砂岩	15.30	5.70	4.20	515.0	5	b-14	4161	基部に敲打痕。両面に使用痕
124	磨製石斧	蛇紋岩	11.35	7.55	3.50	316.8	1	ウ-2	154	側縁を敲打
125	磨製石斧	粘板岩	13.35	5.60	2.60	278.4	6	カ-14	5317	
126	磨石・敲石	凝灰岩	10.50	12.90	6.60	1180.0	4	ケ-5	4241	一部欠損
127	磨石・敲石	砂岩	18.10	16.30	2.50	1510.0	4	オ-5	3684	
128	磨石・敲石	砂岩	13.50	11.80	6.10	1280.0	1	シ-10	4765	赤変
129	磨石・敲石	凝灰岩	24.50	12.30	3.30	1490.0	6	ケ-12	4940	一部欠損
130	磨石・敲石	砂岩	19.00	16.90	8.90	3640.0	1	イ-3	279	一部欠損、石皿として使用か？
131	磨石・敲石	凝灰岩	8.70	7.50	4.70	381.2	1	オ-8	1162	
132	磨石・敲石	凝灰岩	7.60	5.30	4.40	216.2	6	キ-19	5808	一部欠損
133	磨石・敲石	砂岩	9.90	8.30	5.70	645.0	1	ウ-3	1977	
134	磨石・敲石	凝灰岩	8.50	7.10	5.20	390.7	6	カ-19	5462	
135	磨石・敲石	凝灰岩	9.50	5.80	4.50	427.1	6	サ-8	5074	
136	磨石・敲石	砂岩	12.20	9.60	3.60	680.0	6	カ-19	5325	

第３節　その他の時代の遺構と遺物

１　円形周溝遺構（第55～59図）

円形周溝遺構は今回の調査で１区から２基、５区から１基、６区から４基の合計７基が検出された。７基ともほぼ円形であり、それぞれの調査区の縁辺部近くで検出された。以下、それぞれの特徴を見ていきたい。

１区１号円形周溝遺構（第55図）

イ－２及びウ－２グリッドから検出された。周溝外径は約3.6m、周溝内径は約2.5m、溝の幅は約0.5～0.6m、溝の深さは約0.2mであった。覆土は単層で黒褐色土であった。

１区２号円形周溝遺構（第55図）

ウ－２及びウ－３グリッドから検出された。周溝外径は約3.9～4.1m、周溝内径は約2.4～2.5m、溝の幅は約0.6～0.9m、溝の深さは約0.5～0.9mであった。覆土は４層に分層可能であり、上の方から①は柔かい黒褐色土、②は①より締まりのある黒褐色土、③は黒色土、④は暗褐色土の順であった。

５区円形周溝遺構（第56図）

ｂ－13及びｃ－13・ｂ－14グリッドから、遺構の西端を芋穴による撹乱で切られた状態で検出された。やや楕円形の大型の遺構で、周溝外径は約5.8～6.3m、周溝内径は約4.8～5.3m、溝の幅は約0.5m、溝の深さは約0.2～0.3mであった。覆土は単層で黒褐色土であった。

６区１号円形周溝遺構（第57図）

シ－14グリッドから検出された。周溝外径は約3.1～3.3m、周溝内径は約2.0～2.2m、溝の幅は約0.5m、溝の深さは約0.2mであった。覆土は単層で明褐色土であった。

６区２号円形周溝遺構（第57図）

キ－19及びク－19グリッドから検出された大型の遺構である。周溝外径は約6.9m、周溝内径は約5.6～5.8m、溝の幅は約0.5～0.7m、溝の深さは約0.2mであった。覆土は２層に分層可能であり、①が黒色土で②が暗褐色土の順であった。

また、周構内からは土器片１点と、石鏃が１点出土した（第58図）。土器片は弥生後期の甕の脚の一部である。復原底径は10.2cm、残存高は2.5cmである。端部は外反気味で、外面にハケ目調整がされている。石鏃は安山岩製の大型の石鏃で、長さ4.1cm、幅2.65cm、厚さ0.9cm、重さ7.6ｇを計る。基部に浅い抉りが入り、側縁は内弯し、基部で外反する。形状から弥生時代のものと考えられる。

６区３号円形周溝遺構（第59図）

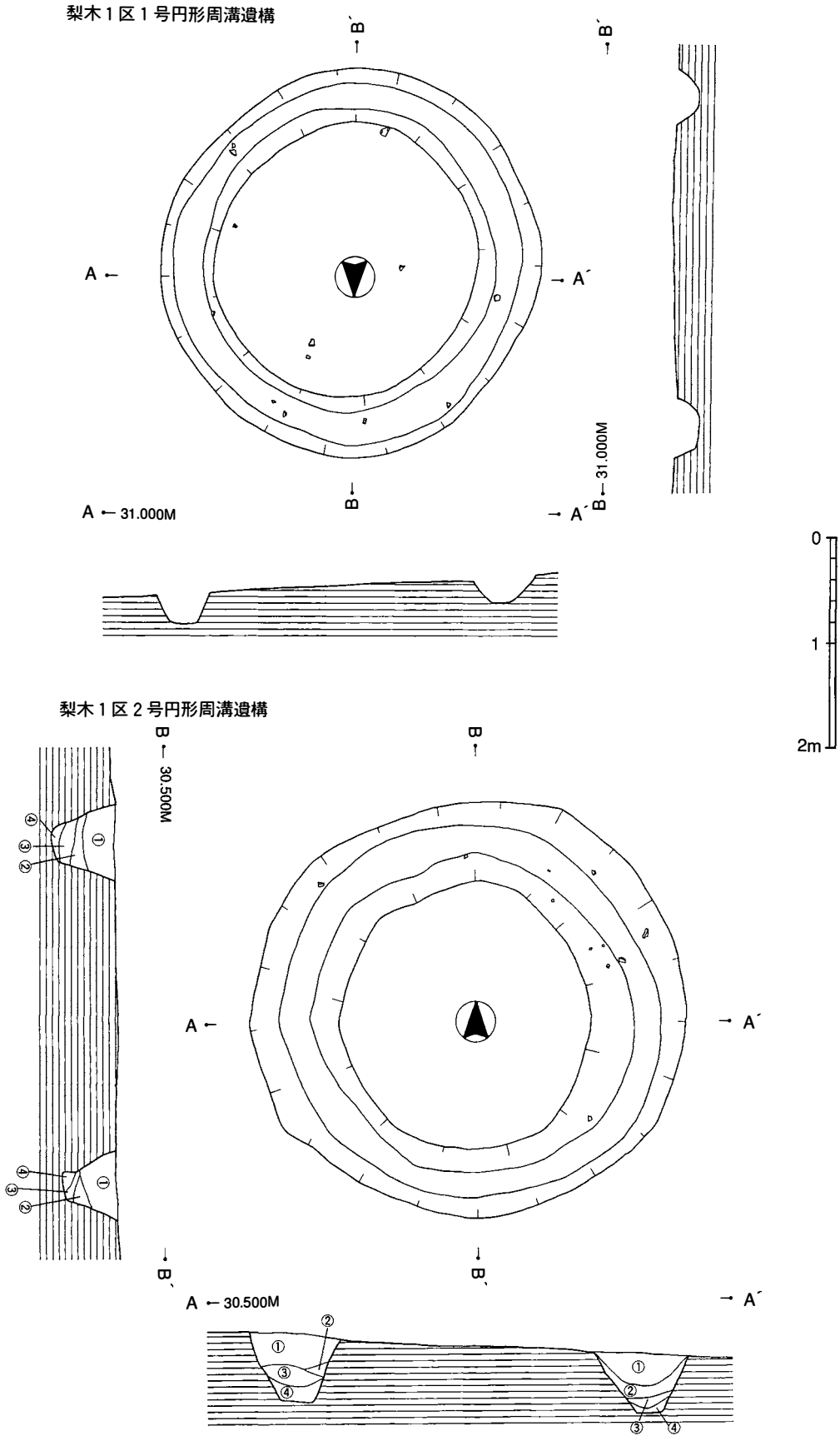
サ－18グリッドから検出された。周溝外径は約3.4～3.5m、周溝内径は約2.2～2.3m、溝の幅は約0.5～0.6m、溝の深さは約0.2～0.3mであった。覆土は２層に分層可能であり、①が暗褐色軟質土で②が暗褐色硬質土であった。

６区４号円形周溝遺構（第59図）

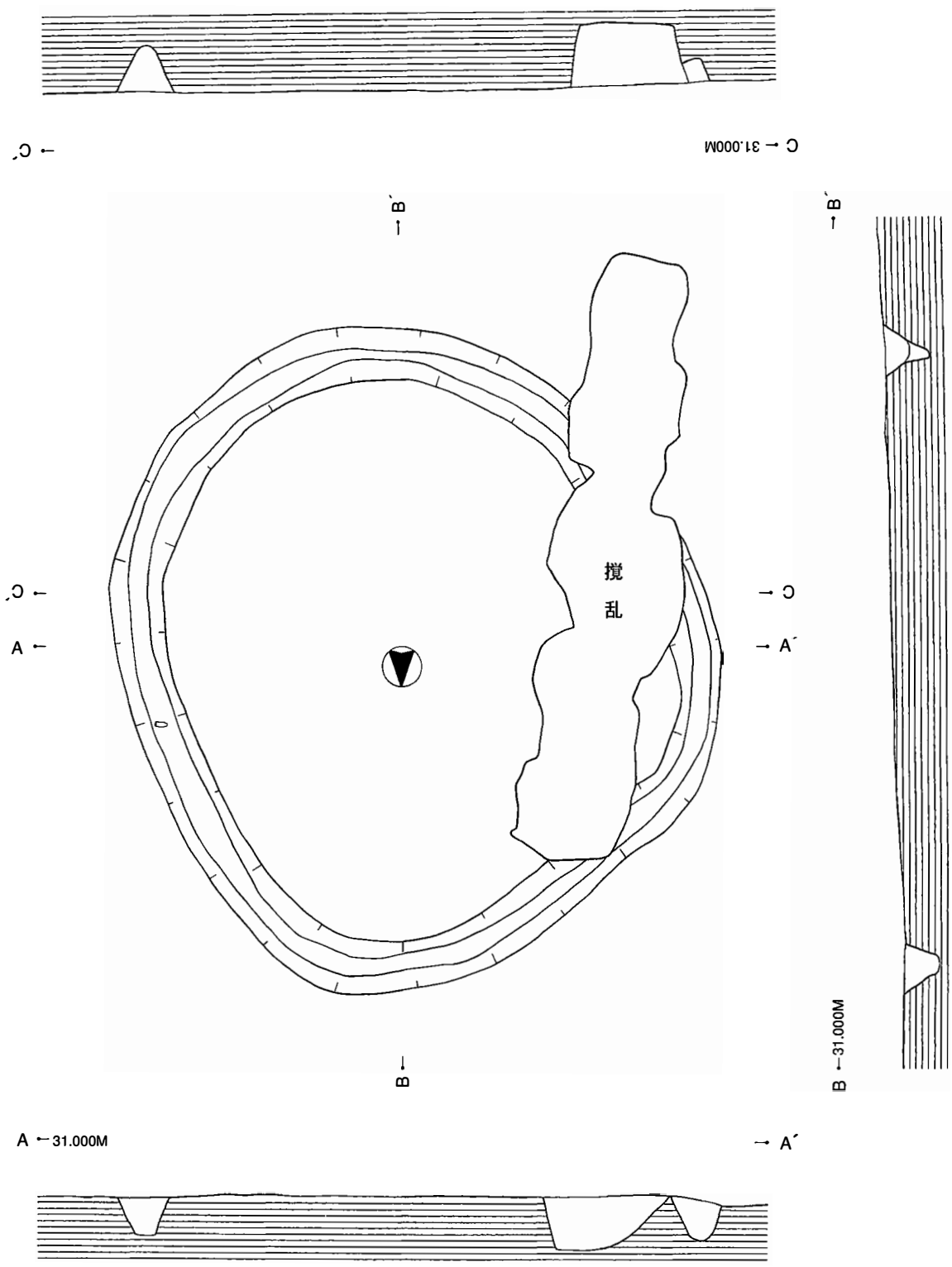
ク－18グリッドから、遺構の東端を16号溝により切られた状態で検出された。周溝外径は約3.9m、周溝内径は約3.1m、溝の幅は約0.4m、溝の深さは約0.15mであった。覆土は単層で、黒褐色土であった。

２　溝

梨木遺跡の１区～６区の調査区から大小約30本の溝状遺構が検出された。時期は不確定であるが、覆土から近世の陶磁器片が出土しているので、近世以降と考えられる。また、６区の16・17号溝の中程に幅約0.30m



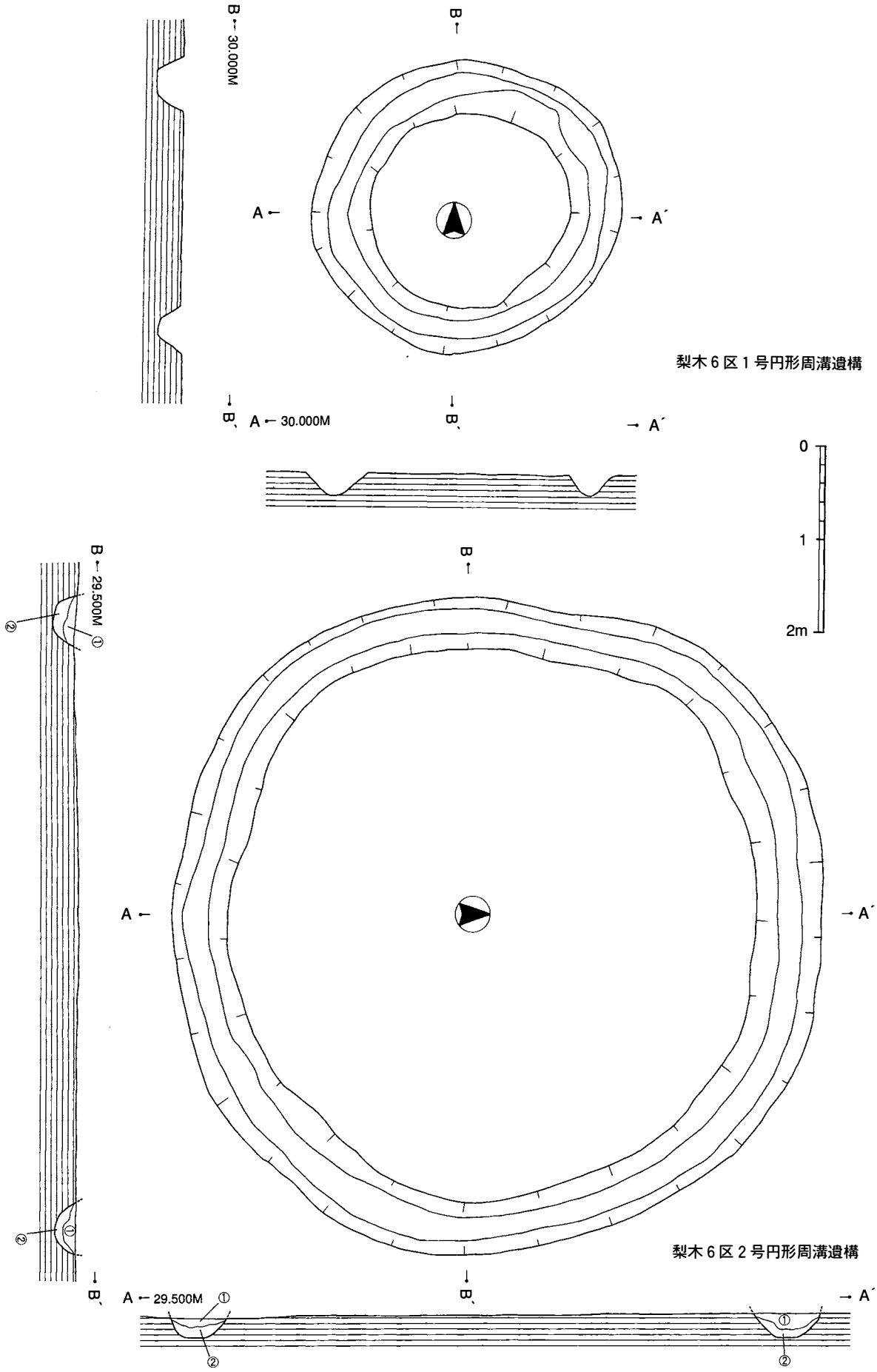
第55図　梨木１区１号・２号円形周溝遺構



梨木５区円形周溝遺構

0　1　2m

第56図　梨木５区円形周溝遺構



第57図　梨木６区１号・２号円形周溝遺構

×厚約0.15mの黒褐色土の硬化面が検出された。これは、人々の往来により踏み固められた道路状遺構と考えられる。なお、これらの溝状遺構は概ね現在の田圃及び畑の畦道に並行しており、土地の所有上の区画であったとも考えられないことはない。

３　土器（第60～62図）

梨木遺跡からは、縄文土器以外に、少量ではあるが、弥生土器、須恵器などの土器が出土している。ここでは、これらの土器について時期別に見ていきたい。なお、個別の土器の計測値および観察結果については「梨木遺跡出土弥生土器観察表」（第８表）にまとめている。

（１）弥生中期土器

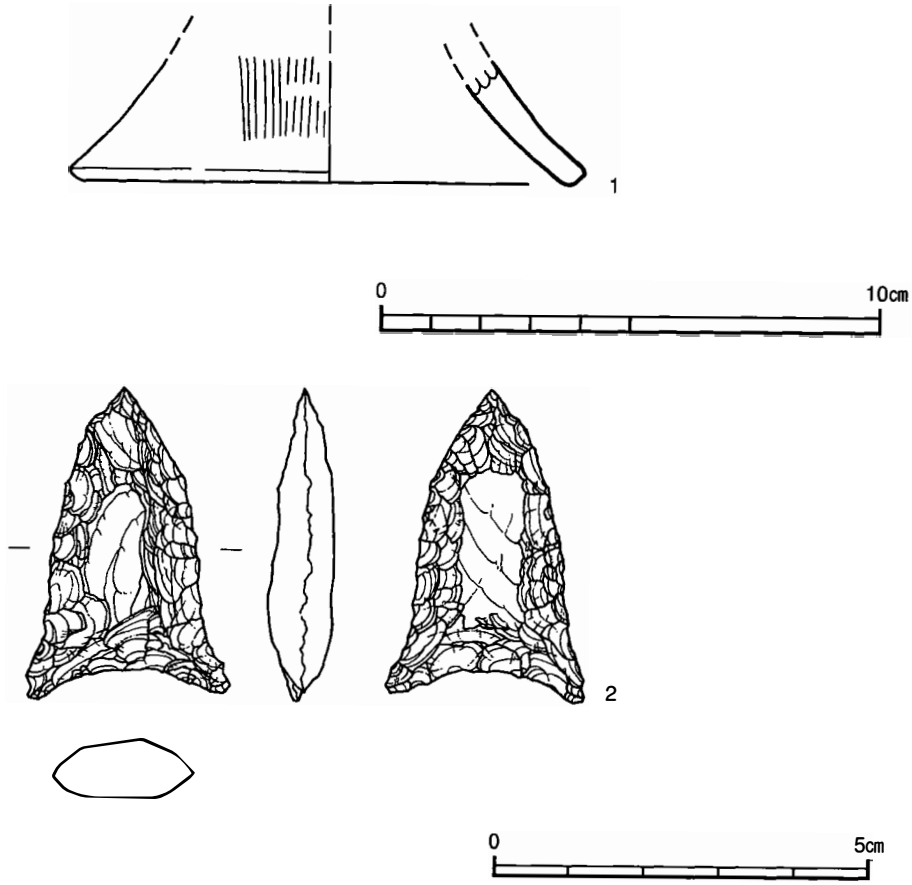
甕（１）

１は弥生中期の甕の口縁部である。口縁の内外面に張り出しをもち、Ｔ字形を呈する。

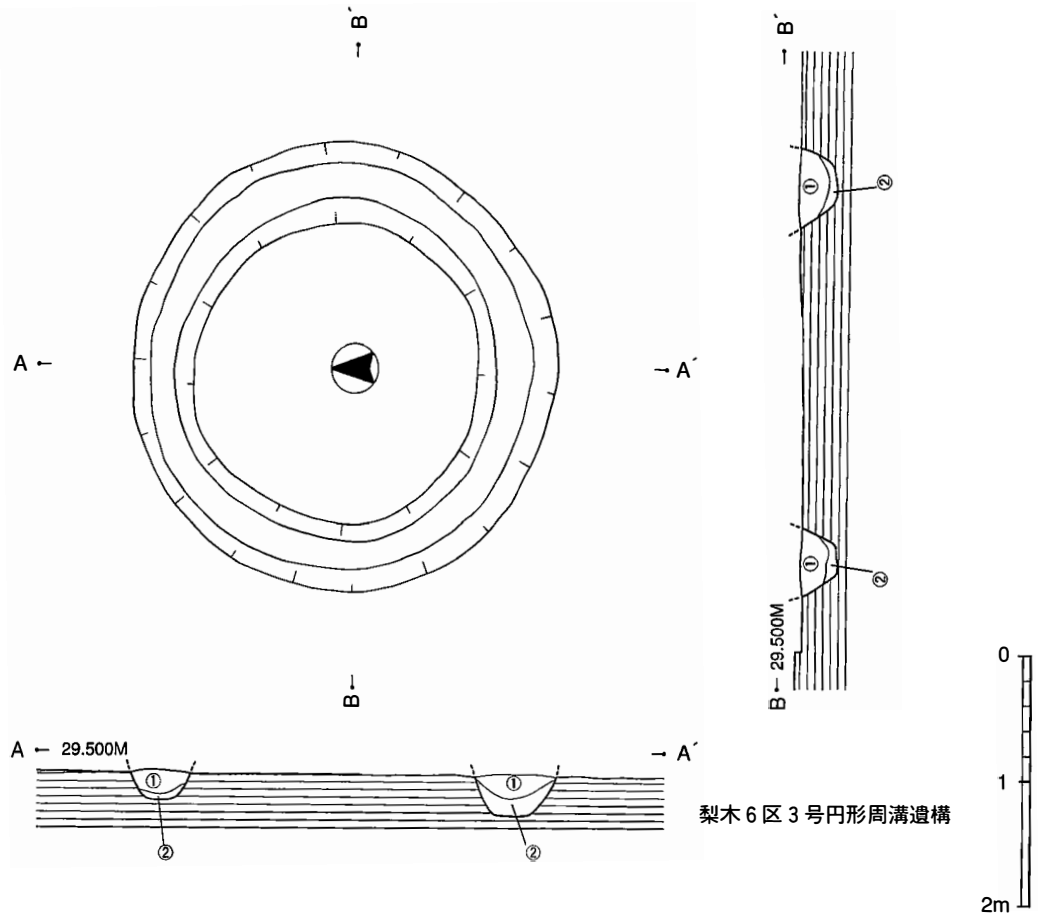
（２）弥生後期土器

甕（２～６、13～15）

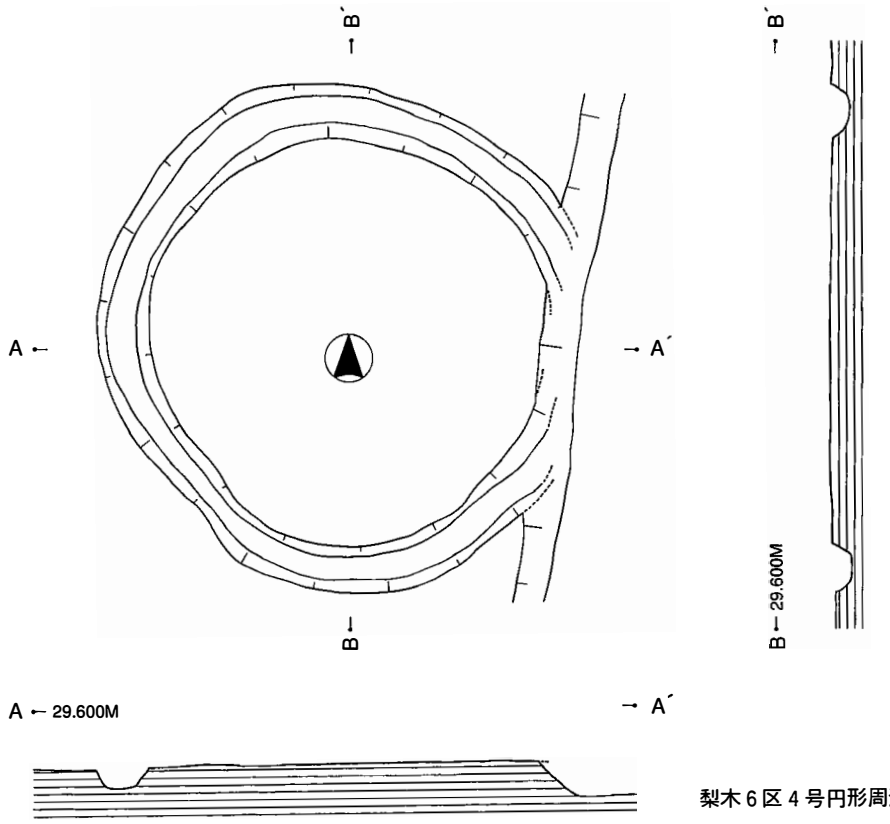
２～４は口縁部である。くの字形に屈曲し、外面はハケ目調整がされている。２、３は口唇が外反気味で丸く、４の口唇は面をなす。５、６は底部で、脚台をなす。13はほぼ全体が復原できた。口縁部はくの字形



第58図　梨木６区２号円形周溝遺構内出土遺物



梨木６区３号円形周溝遺構



梨木６区４号円形周溝遺構

第59図　梨木６区３号・４号円形周溝遺構

に屈曲し、口唇は面をなす。胴部は中位やや上よりに最大径をもつ長胴形で、やや高めの脚台をもつ。内面はハケ目、外面はタタキ調整の後にハケ目を施す。14は丸底の底部で、内面にハケ目調整が行われている。15は底部を失っているが、脚台になるものと思われる。くの字口縁で口唇は面をなし、胴部中位やや上に最大径をもつ長胴形である。

壺（７、８、16）

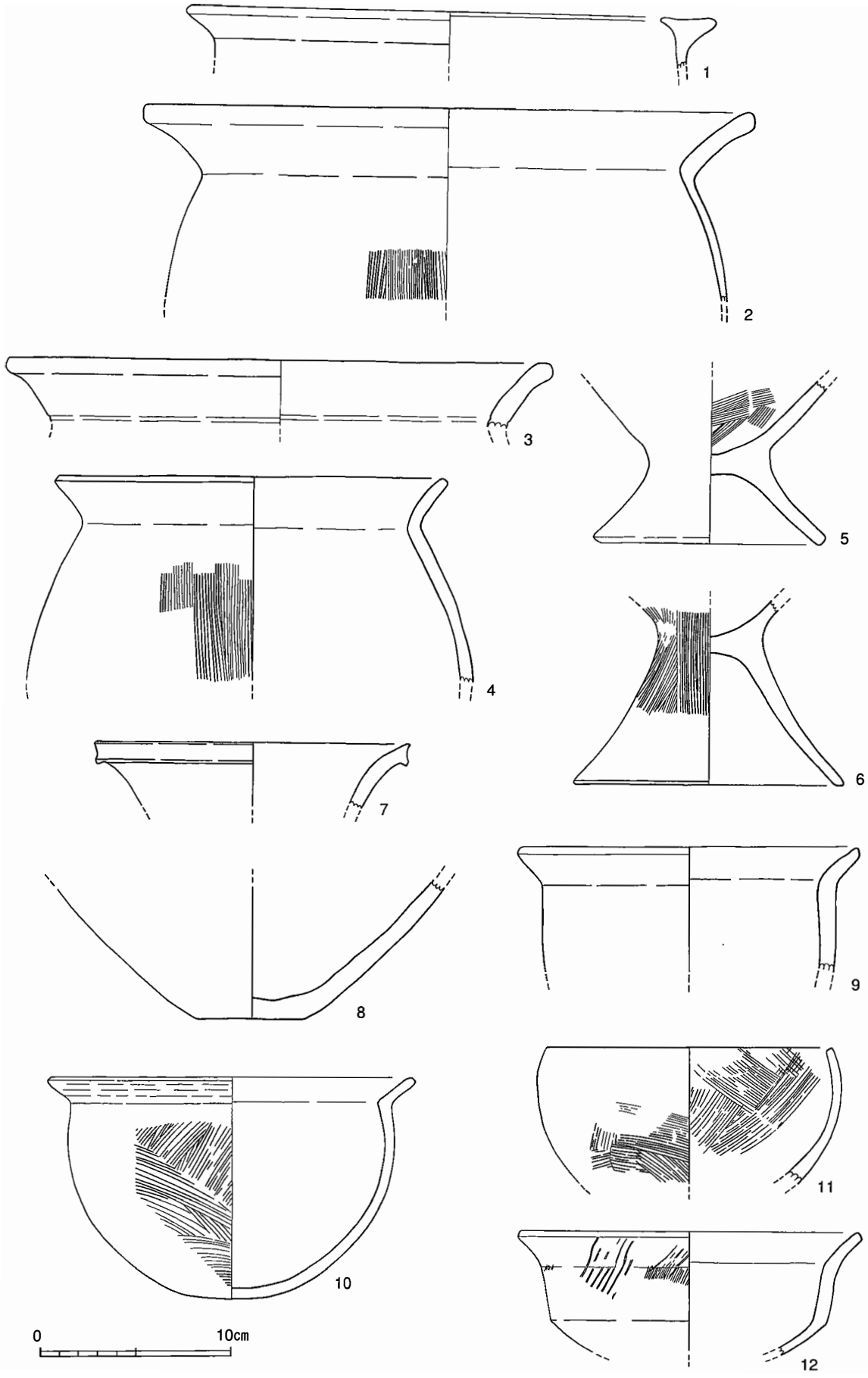
７は口縁部である。大きく外反し、口唇外側に断面三角形の小突帯を貼り付けて複合口縁状にしている。８は底部である。平底で、底部端と直接的につながる胴部をもつ。16は複合口縁で、胴部中位に最大径をもち、内外面にハケ目調整がされている。頸部と口縁の屈曲部に連続刺突文をもつ。

鉢（９～12）

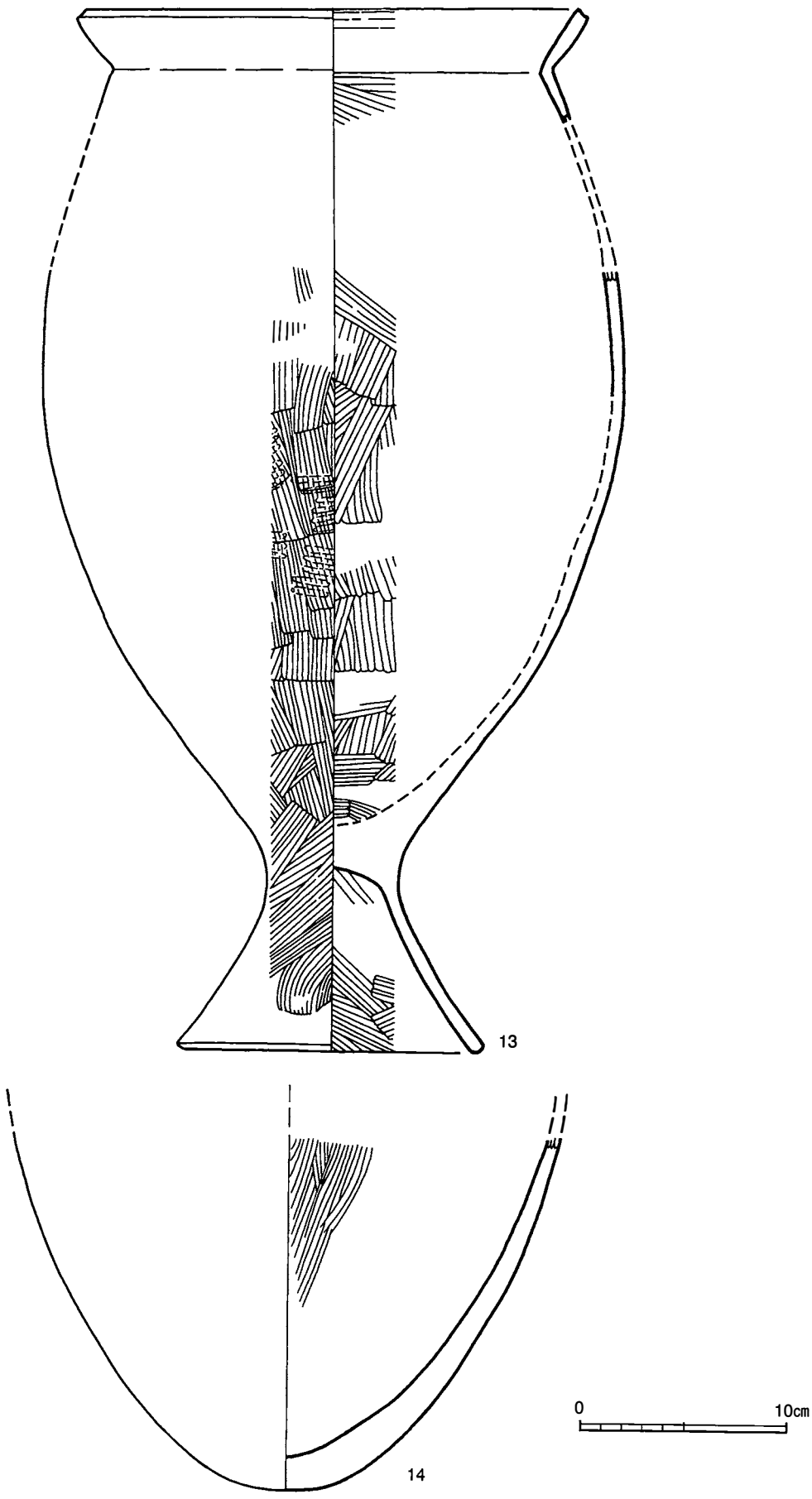
９は鉢形土器の口縁部である。頸部から外反する口縁をもち、口唇は面をなす。器面は内外面とも研磨されている。10は丸底で、頸部で屈曲して外傾する口縁をもち、口唇は面をなす。外面はハケ目調整がされている。11は内弯する直口口縁で、内外面にハケ目調整がされている。12は鉢あるいは高坏の上半部である。胴部で屈曲して立ち上がり、頸部から外反する口縁をもつ。口唇は面をなす。

第８表　梨木遺跡出土弥生土器観察表

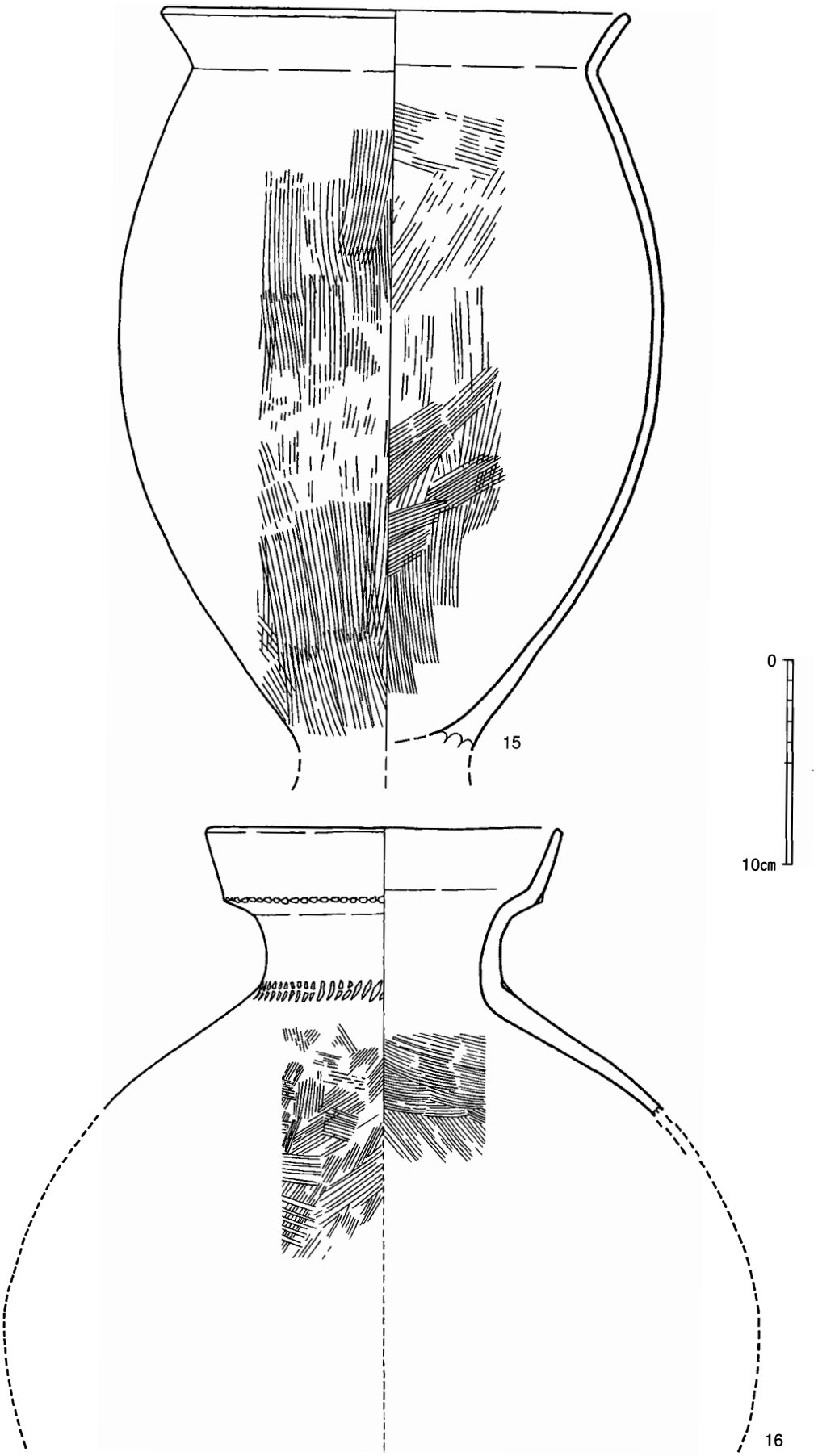
遺物番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	現存高(cm)	調整 (内面)	調整 (外面)	色調 (内面)	色調 (外面)	胎土	焼成	調査区	出土地点	取上番号	備考
1	甕	27.8		2.6	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR7/3)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	4	ク-6	3278	
2	甕	32.0		9.7	ナデ	ナデ、ハケ目	にぶ黄橙(10YR7/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-3	1326他	外面スス付着
3	甕	28.8		3.3	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	2	タ-1	一括	
4	甕	20.3		10.5	ナデ	ナデ、ハケ目	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	6	キ-17	5345他	外面スス付着
5	甕		12.0	8.5	ハケ目	ハケの後ナデ	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	1	オ-6	822	外面の底に砂粒付着
6	甕		14.0	9.1	ナデ	ハケ目	にぶ黄橙(10YR6/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石、雲母を含む	良好	6	キ-17	5526他	
7	壺	16.4		3.3	ナデ	ナデ	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ黄橙(10YR6/4)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	1	エ-6	1057	複合口縁
8	壺		5.9	6.7	不明	ナデ	褐灰(10YR4/1)	にぶ黄褐(10YR5/4)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-3	1678	
9	鉢	17.4		6.5	ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	砂粒少量、石英、長石を含む	良好	6	サ-8	4656他	
10	鉢	19.2		11.6	ナデ	ナデ、ハケ目	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	6	キ-17	5528他	
11	鉢	14.8		7.1	ハケ目	ナデ、ハケ目	にぶ黄橙(10YR6/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-3	1316他	
12	鉢	17.8		6.4	ナデ	ハケの後ナデ消し	にぶ黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/3)	砂粒少量、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-3	593他	
13	甕	24.6	14.8	49.1	ナデ、ハケ目	ナデ、ハケ目	にぶ黄橙(10YR7/4)	にぶ橙(7.5YR6/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-3	1396他	外面の底に砂粒付着
14	鉢			17.0	ナデ、ハケ目	ナデ	にぶ黄褐(10YR5/3)	にぶ黄橙(10YR6/3)	砂粒多量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-3	491他	
15	甕	23.0		35.8	ハケ目	ハケ目	にぶ黄橙(10YR6/3)	灰黄褐(10YR5/2)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	エ-3	1407他	
16	壺	17.6		30.5	ナデ、ハケ目	連点文、ナデ、ハケ目	にぶ橙(7.5YR6/4)	にぶ橙(7.5YR7/4)	砂粒少量、石英、角閃石、長石を含む	良好	1	ウ-3	560他	



第60図　梨木遺跡出土弥生土器（1）



第61図　梨木遺跡出土弥生土器（2）



第62図　梨木遺跡出土弥生土器（3）

第Ⅳ章　まとめ

1　旧石器時代

出土した旧石器時代の遺物は、梨木１区の調査区から出土したナイフ形石器の２点であるが、本遺跡において確実に旧石器時代にも人々が生活していたという確かな証拠となるものであろう。

また、近隣の「くまもと未来国体」の主会場予定地である熊本市平山町の石の本遺跡からも約22,000年前の火山灰堆積層である「姶良・丹沢（ＡＴ）層」の下にあたる、赤褐色土層から局部磨製石斧や剥片石器などが出土しており、これらは旧石器時代人の狩猟生活が想像できる資料であるといえよう。

2　縄文時代

縄文時代の遺構としては、集石遺構が梨木遺跡の１区から１基、５区から１基の合計２基確認されている。いずれもアカホヤ火山灰層下のＶ層より検出された。伴出遺物がないので時期の特定はできないが、縄文時代早期になる可能性がある。

包含層から出土した縄文時代の遺物は、早期の押型文土器と塞ノ神式土器、前期の轟式と曽畑式、中期の並木式・阿高式、後期の出水式・御手洗式・市来式・北久根山式・鐘崎式・御領式、晩期の天城式・古閑式にあたる土器が出土している。また、石器は石鏃・石匙・削器・打製石斧・円盤状石器・磨製石斧・石錐・石錘・磨石・敲石・異形石器などが出土している。

早期土器の中で、ほぼ全体を復原できたものが１点出土している。円筒形の深鉢形土器で、やや外反気味に開く口縁部をもつ。口縁部に貝殻連続刺突文と細い沈線文、胴部上半には平行して貝殻連続刺突文が３条施され、口唇に瘤状の突起が１個現存し、施文の状況から見ると４個あったのではないかと推定される。器形的に早期後半初頭の塞ノ神式土器に近似しており、新東晃一氏の教示によると、塞ノ神式土器の祖型にあたる可能性をもつとのことである。

出土土器の中で多数を占めているのが中期以降の土器であるが、中期の阿高式から後期前半にかけての時期と、後期末の御領式から古閑式に至る時期の２時期に分けることができ、この時期にかなり活発な人間の活動があったことを示している。また、出土石器では、調査区全体から石鏃が100点以上出土し、製品の中でかなりの割合を占めている。

今回の調査では、縄文時代にあたる遺構は確認されなかったものの、包含層からは多数の土器が出土した。このことから、調査部分は集落の周縁部にあたるものと考えられる。調査部分の南西には、集落立地に適した台地状の地形があり、集落はこの周辺に存在していた可能性がある。

3　弥生時代

弥生時代の遺構は、梨木１区から２基、５区から１基、６区から４基の合計７基の円形周溝遺構が確認されている。ほとんどの遺構からは遺物が出土せず、明確な時期等は不明である。ただ、６区２号円形周溝遺構から、弥生後期の土器と思われる甕の脚の一部と弥生時代のものと思われる石鏃が出土したことから、今回確認された円形周溝遺構は弥生時代のものとして扱っている。しかし、東隣の産業展示場建設事業に伴う古閑北遺跡の調査においては、縄文晩期土器を伴出する円形周溝遺構が確認されていることから、遺構の時期についての再検討が必要になるものと思われる。

一方、包含層から出土した弥生土器は、中期土器が数点あるものの後期の土器がほとんどを占めている。出土状況を見ると、遺跡南側の梨木１区から多くが出土する傾向があり、この時期の中心的な空間であった可能性がある。

4　歴史時代

全調査区から大小約30本の溝状遺構が検出された。時期は不確定であるが、これらの溝状遺構は概ね現在の畑地の区画割りに沿っており、覆土から陶磁器片が出土していることから、この地の畑地が形成されるようになってきた近代以降のものが多いと思われる。また、古閑北１区の３号溝や梨木６区の16号溝などの中からは幅約0.30m×厚約0.15mの黒褐色土の硬化面が検出された。これは、人々の往来により踏み固められた道路状遺構と考えられる。

土坑は数十基検出されたが、形が不定形で実測に耐え難い土坑や、溝状遺構と区別が付かないような性格不明の遺構や樹根の跡等がほとんどであったため、特別には掲載しなかった。

参考文献

『益城町史』通史編　益城町　1990
『角川日本地名大辞典43熊本県』角川書店　1987
『熊本大百科事典』熊本日日新聞社　1982
『熊本県の地名』日本歴史地名体系　1985
加藤晋平・鶴丸俊明『石器入門事典　先土器』柏書房　1991
鈴木道之助『石器入門事典　縄文』柏書房　1991
江坂輝彌他『日本考古学小辞典』ニュー・サイエンス社　1983
大川清他『日本土器事典』雄山閣　1996
戸沢充則『縄文時代研究事典』東京堂　1994
新東晃一「九州縄文土器編年の諸問題」塞ノ神式土器再考　1998
可児通宏「押型文系土器様式」『縄文土器大観』小学館　1989
新東晃一「塞ノ神・平栫式土器様式」『縄文土器大観』小学館
新東晃一「九州貝殻文系土器様式」『縄文土器大観』小学館
宮本一夫「轟式土器様式」『縄文土器大観』小学館
木村幾多郎「曽畑式土器様式」『縄文土器大観』小学館
田中良之「阿高式土器様式」『縄文土器大観』小学館
本田道輝「市来・一湊式土器様式」『縄文土器大観』小学館
松永幸男「九州磨消縄文系土器様式」『縄文土器大観』小学館
島津義昭「黒色磨研系土器様式」『縄文土器大観』小学館
緒方勉『福富・横道遺跡調査報告』益城町教育委員会　1993
『伊木力遺跡』同志社大学文学部文化学科　1990
平岡勝昭『竜田陳内遺跡』熊本県教育委員会　1988
木崎康弘『狸谷遺跡』熊本県教育委員会　1987

濱田彰久『庵ノ前遺跡Ⅲ』熊本県教育委員会　1997

宮坂孝宏『白鳥平Ａ遺跡』熊本県教育委員会　1993

宮坂孝宏『白鳥平Ｂ遺跡』熊本県教育委員会　1994

坂田和弘『深水谷川遺跡』熊本県教育委員会　1994

坂田和弘『鶴羽田遺跡』熊本県教育委員会　1998

木崎康弘『無田原遺跡』熊本県教育委員会　1995

木崎康弘『蒲生・上の原遺跡』熊本県教育委員会　1996

木崎康弘他『狩尾遺跡群』熊本県教育委員会　1993

古森政次『ワクド石遺跡』熊本県教育委員会　1994

丸山伸治他『陣山遺跡』熊本県教育委員会　1996

丸山伸治他『大原天子遺跡』熊本県教育委員会　1993

隈昭志他『古保山・古閑・天城』熊本県教育委員会　　1980

江本直『曽畑』熊本県教育委員会　1988

片岡宏二「周溝状遺構」の検討（その４）」『福岡考古第17号』福岡考古懇話会　1996

写 真 図 版

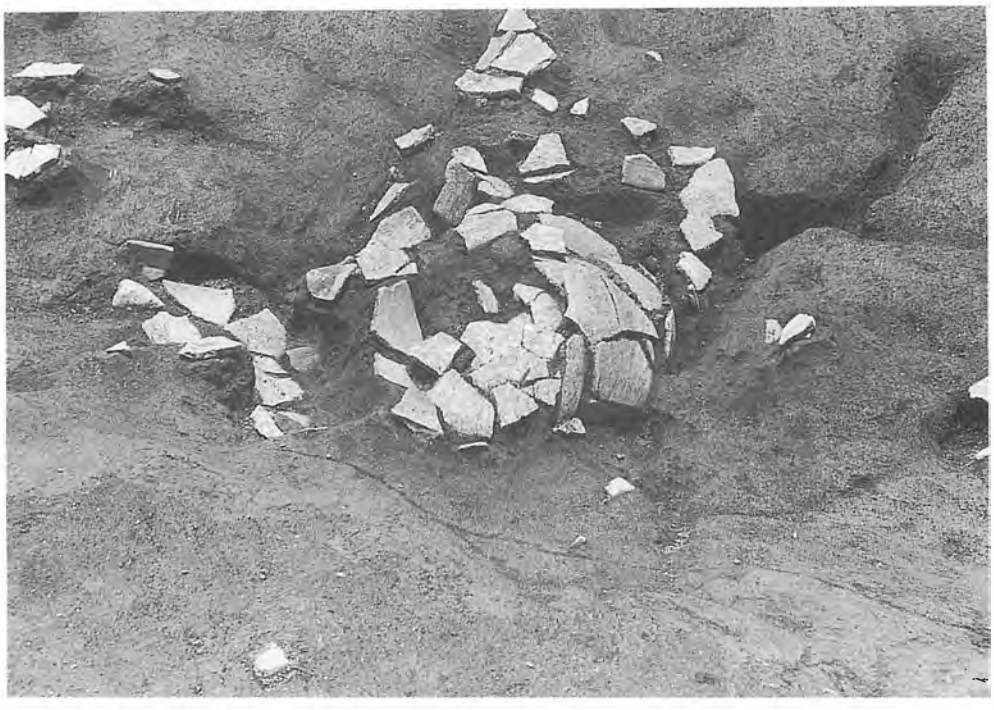
古閑北 1 区全景（遺物出土状況）

古閑北 1 区 3 号溝（完掘）

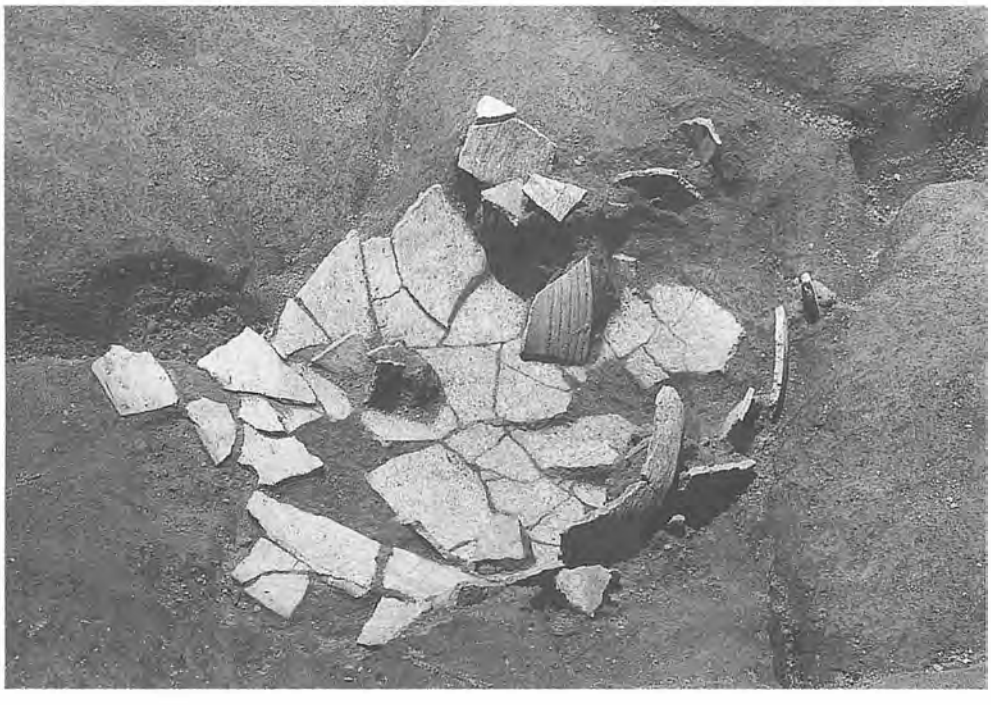
古閑北 1 区磨製石斧（出土状況）

図版 2

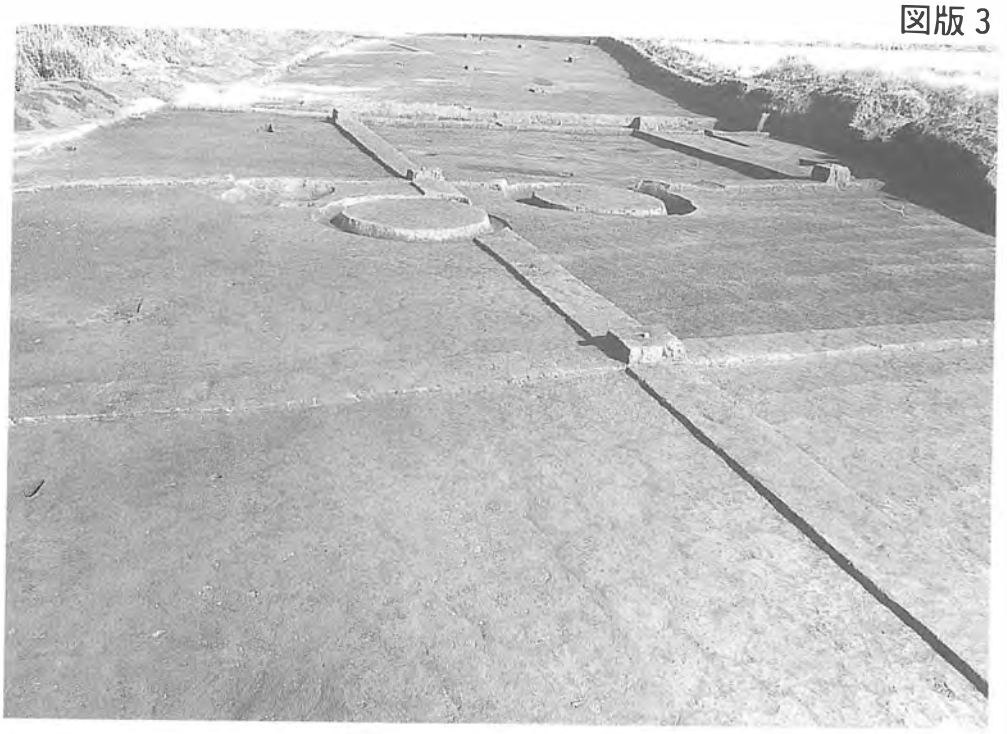
古閑北 2 区全景（完掘）



古閑北 2 区（遺物出土状況）



古閑北 2 区（遺物出土状況）



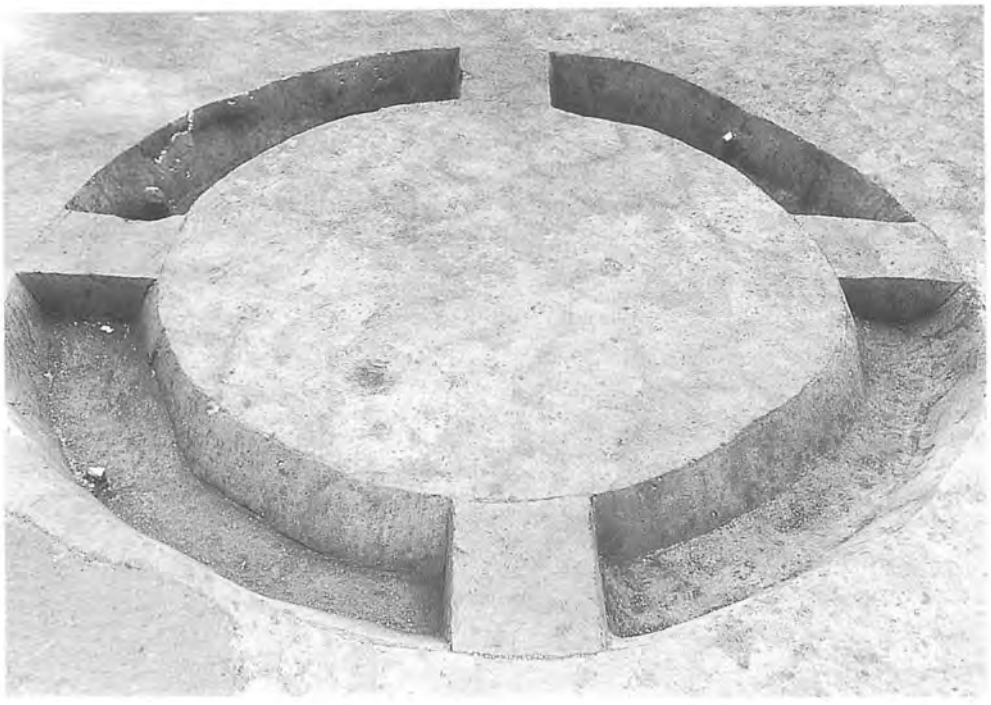
梨木１区全景（完掘）

梨木１区（遺物出土状況）

梨木１区（遺物出土状況）

図版 4

梨木 1 区集石遺構



梨木 1 区 1 号円形周溝遺構（遺物出土状況）

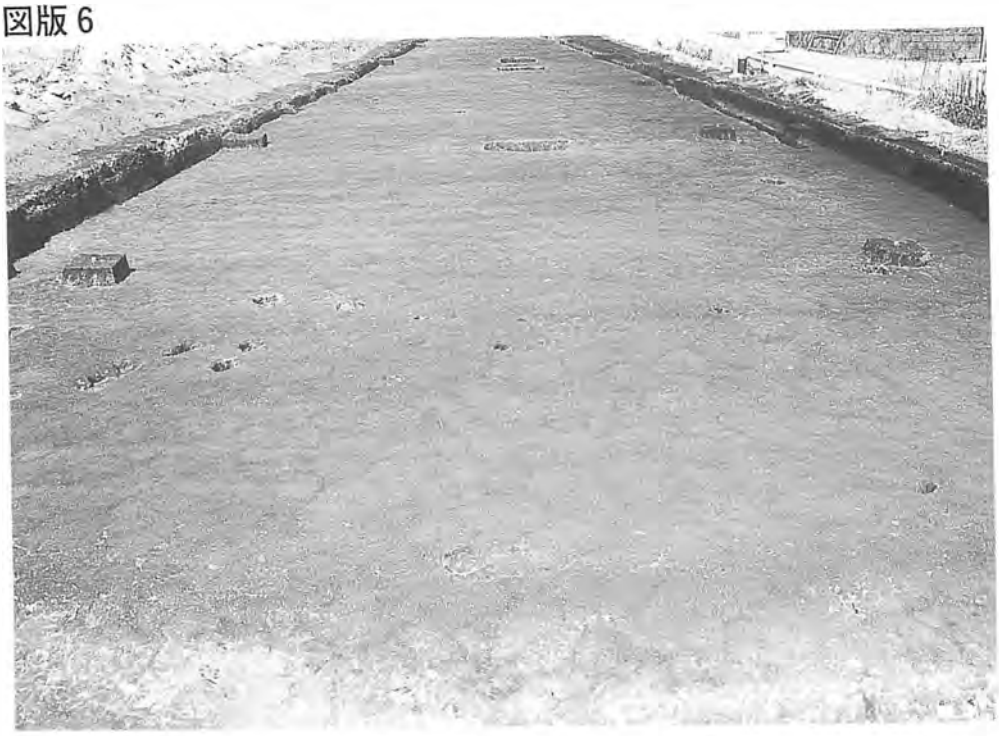
梨木 1 区 2 号円形周溝遺構（遺物出土状況）

梨木 2 区全景（完掘）

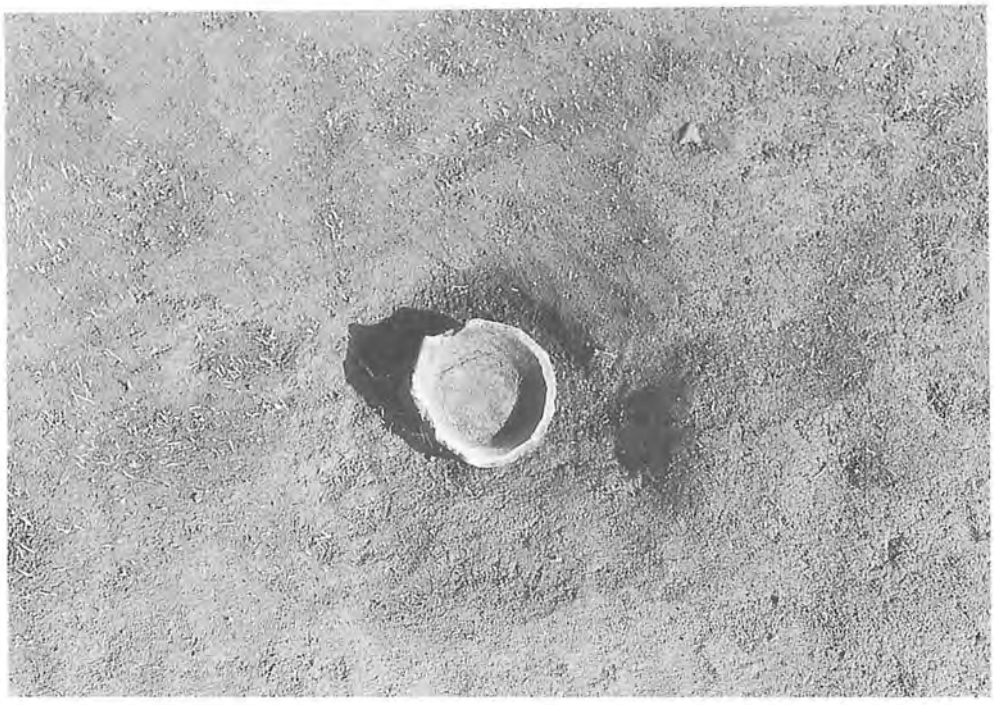
梨木 2 区 2 号溝（完掘）

梨木 2 区 3 号溝（完掘）

図版 6



梨木 3 区全景（完掘）



梨木 3 区弥生土器（出土状況）

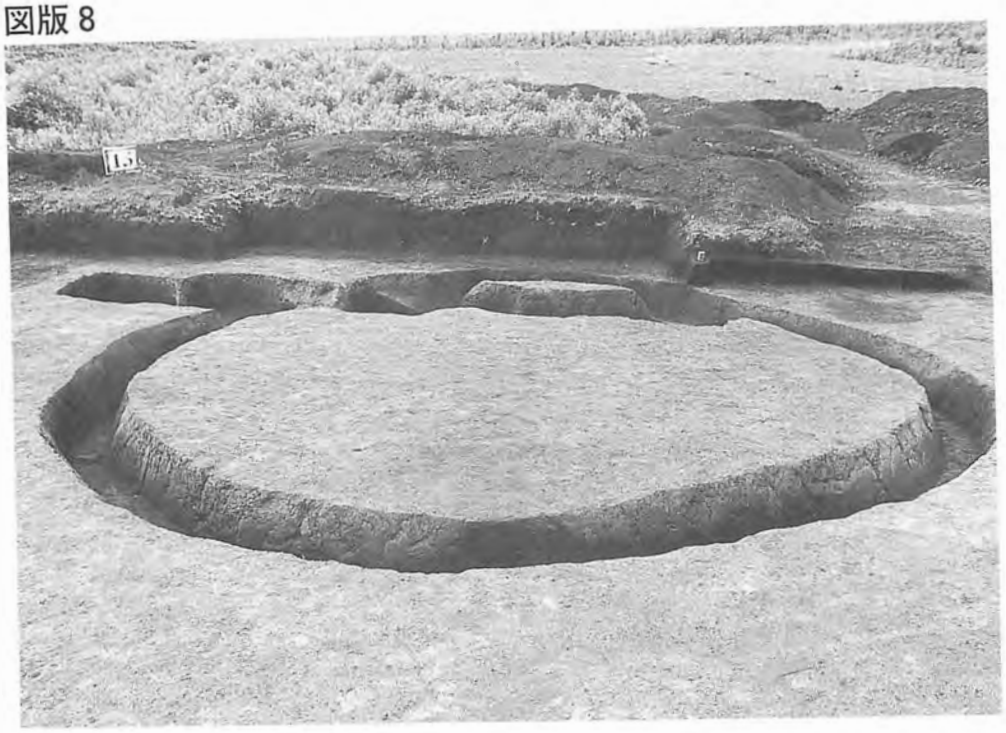
梨木 3 区（遺物出土状況）

梨木 4 区全景（完掘）

梨木 5 区全景（完掘）

梨木 5 区集石遺構

図版 8

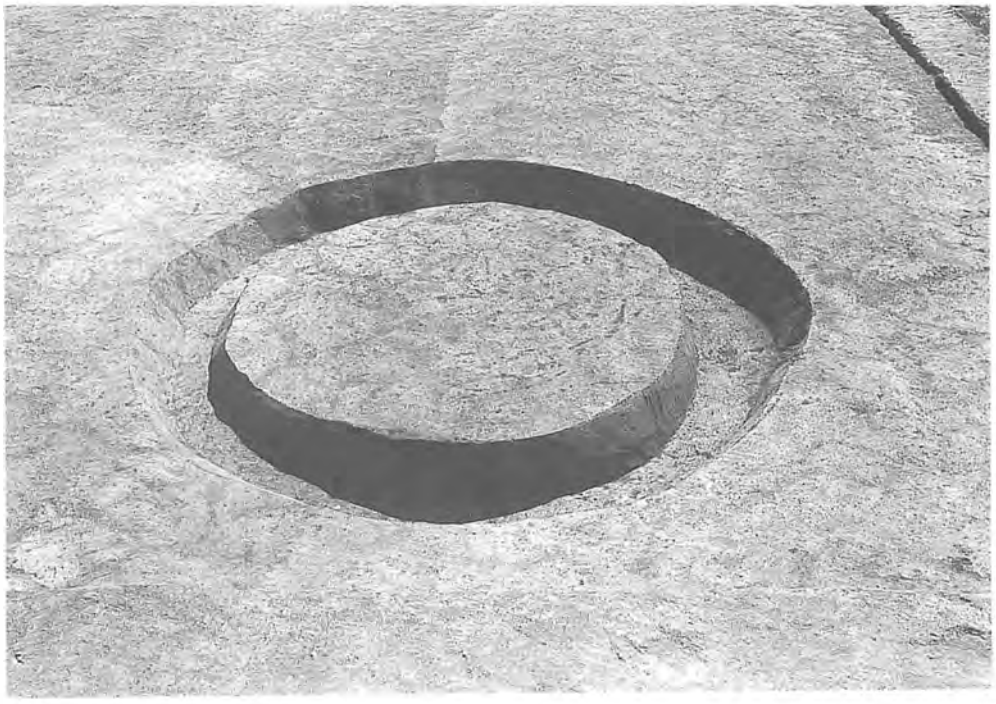


梨木 5 区円形周溝遺構（完掘）

梨木 6 区全景（完掘）

梨木 6 区 1 号円形周溝遺構（完掘）

梨木 6 区 2 号円形周溝遺構（完掘）



梨木 6 区 3 号円形周溝遺構（完掘）

梨木 6 区 4 号円形周溝遺構（完掘）

図版10

梨木６区４号溝（完掘）

梨木６区道路状遺構

梨木６区16号溝（完掘）

作業風景（1）

作業風景（2）

作業風景（3）

古閑北遺跡出土土器（1～6、8）

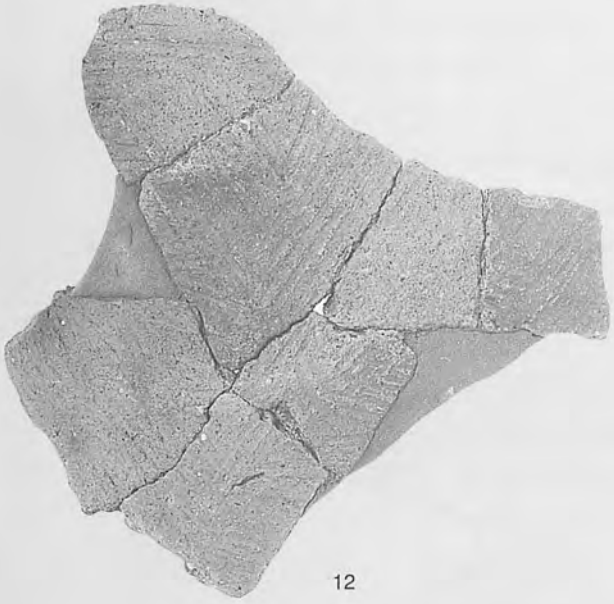
古閑北遺跡出土土器（7、9～14、16～19）

古閑北遺跡出土土器（15、20～25）

古閑北遺跡出土石器（1～10）

梨木遺跡出土縄文土器（1～10）

11

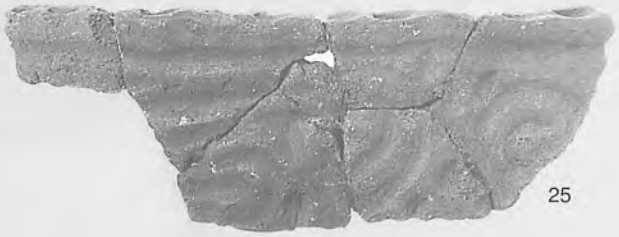


12

13

梨木遺跡出土縄文土器（11～13）

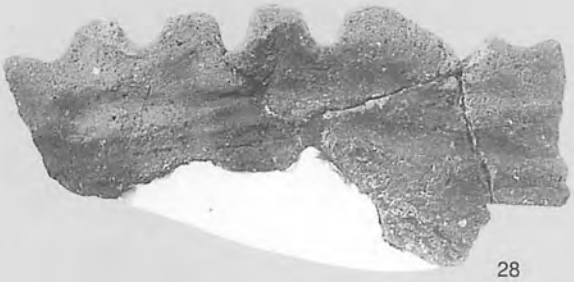
梨木遺跡出土縄文土器（14～20）



梨木遺跡出土縄文土器（21～25）

26

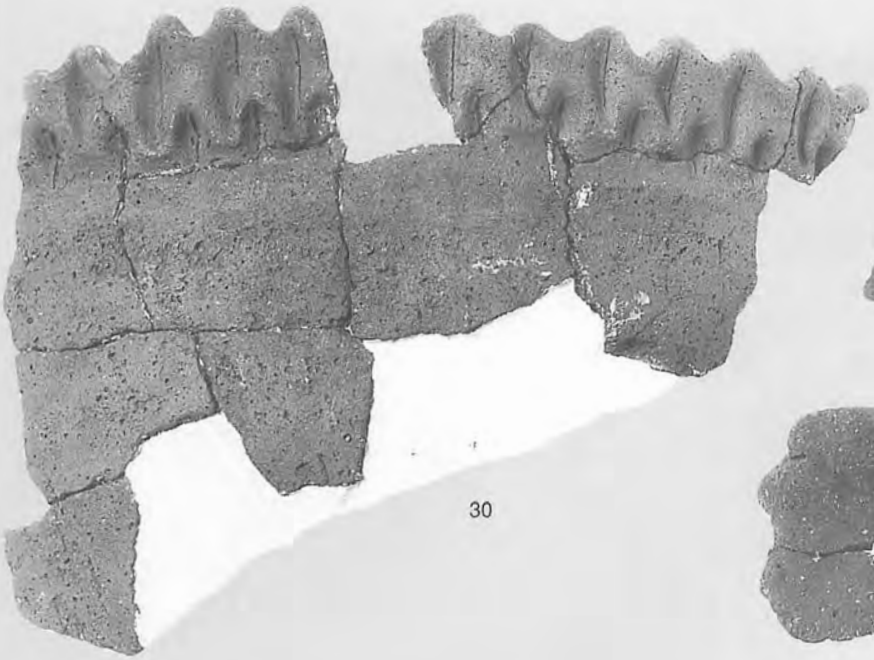
27



28

29

[illegible]出土縄文土器（26～29）

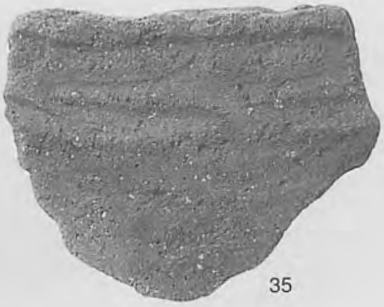

30

31

32

33

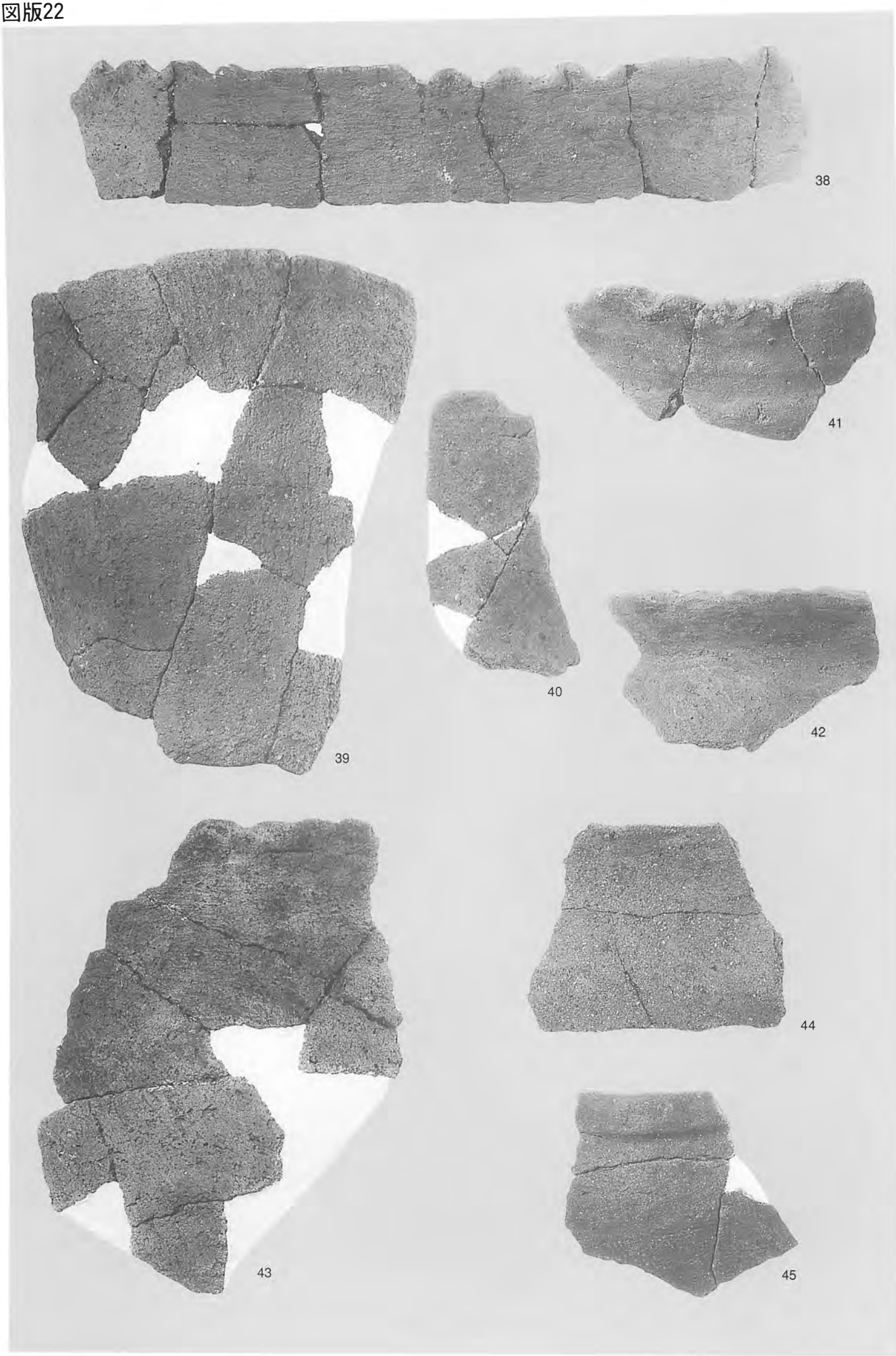
37


35

34

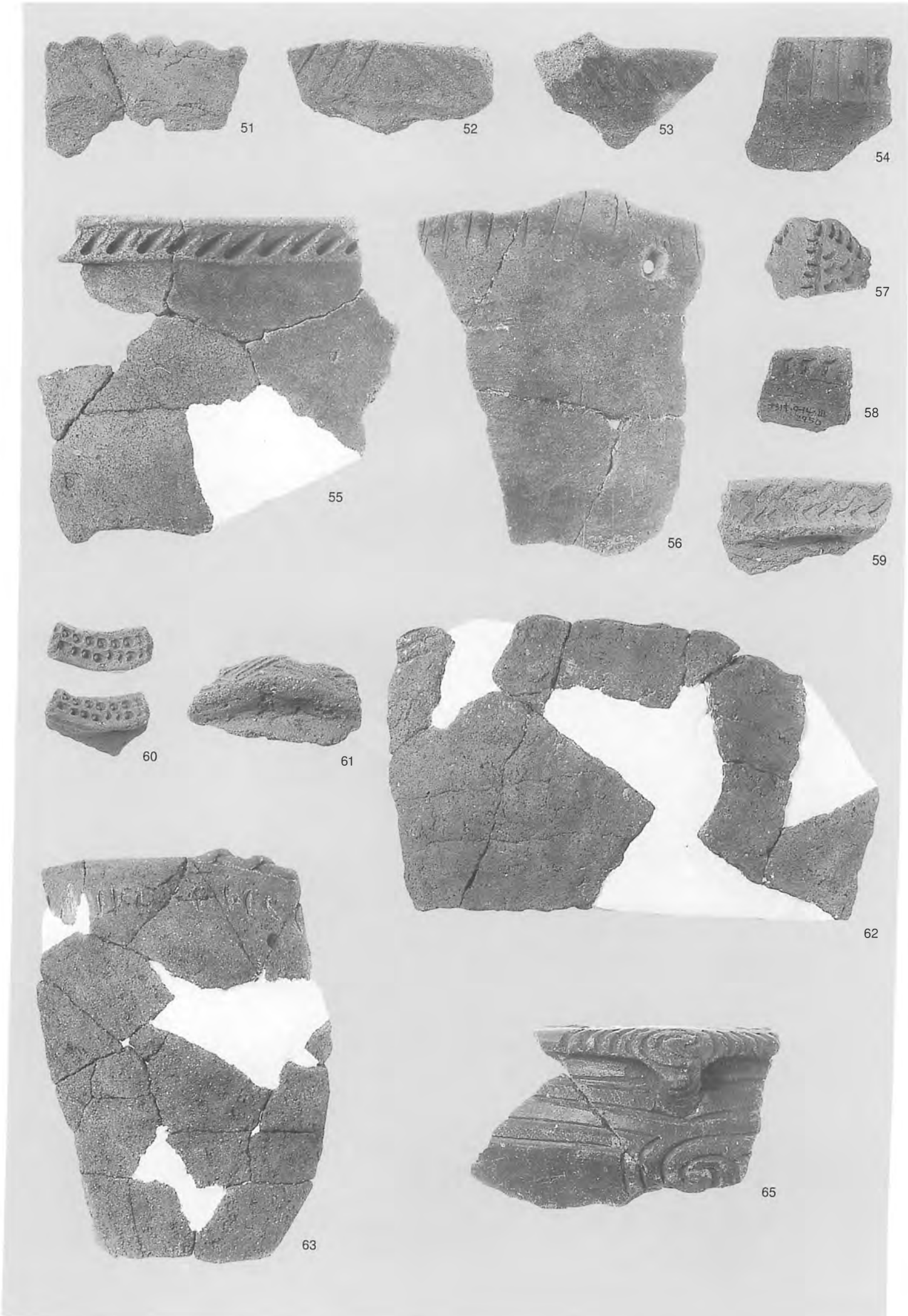
36

梨木遺跡出土縄文土器（30～37）



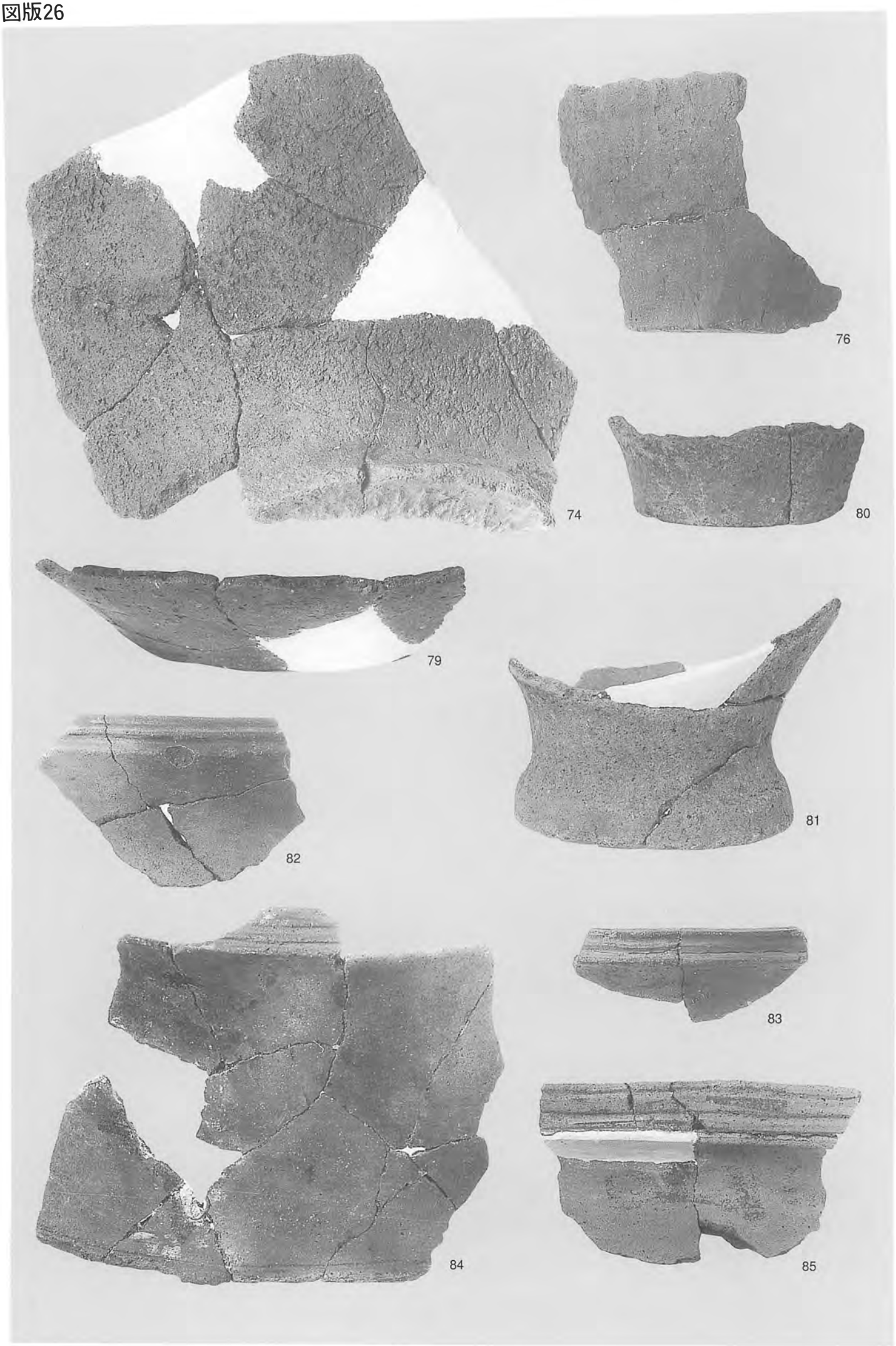
梨木遺跡出土縄文土器（38～45）

梨木遺跡出土縄文土器（46～50）



梨木遺跡出土縄文土器（51～63、65）

梨木遺跡出土縄文土器（64、66～73、75、77、78）



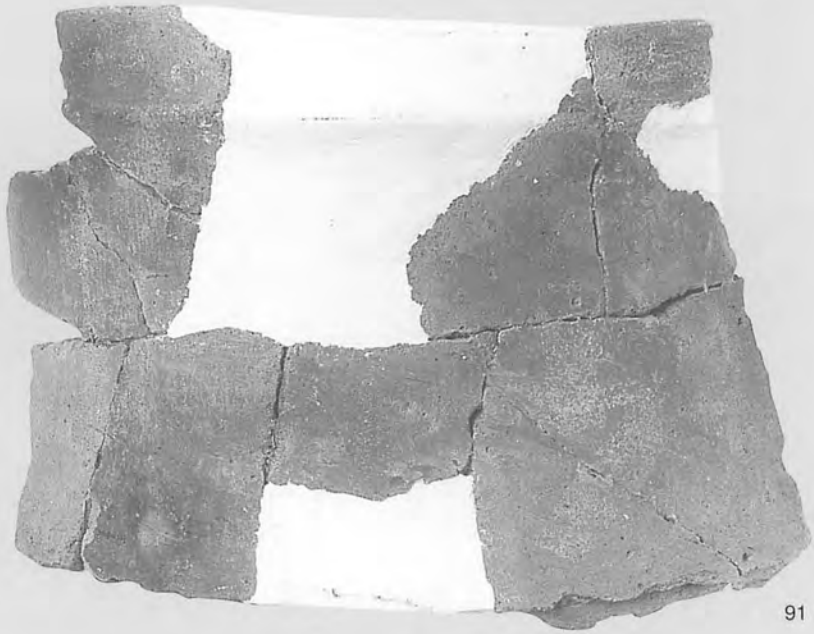
梨木遺跡出土縄文土器（74、76、79～85）

86

88

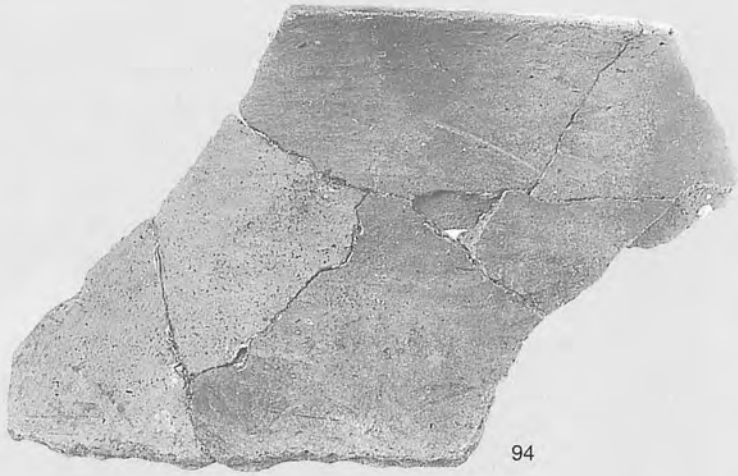
89

梨木遺跡出土縄文土器（86、88、89）



梨木遺跡出土縄文土器（87、90、91）

92


94

93

95

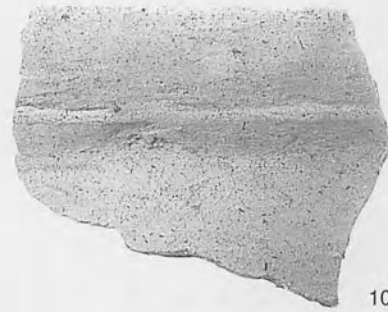
96

97

梨木遺跡出土縄文土器（92～97）

梨木遺跡出土縄文土器（98～101）

102

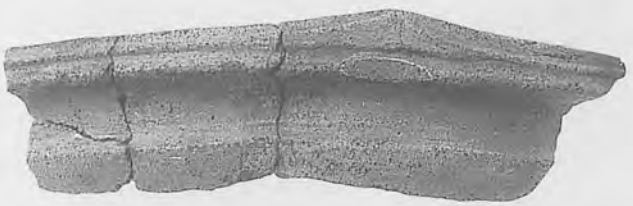


105

103

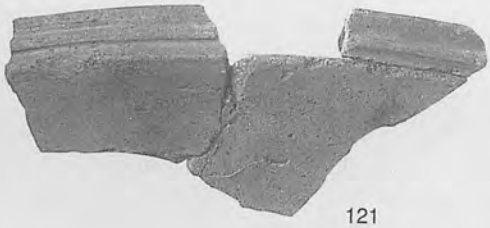
梨木遺跡出土縄文土器（102、103、105）

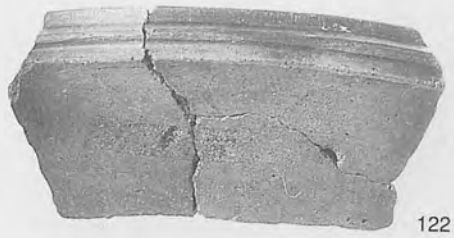
梨木遺跡出土縄文土器（104、106）

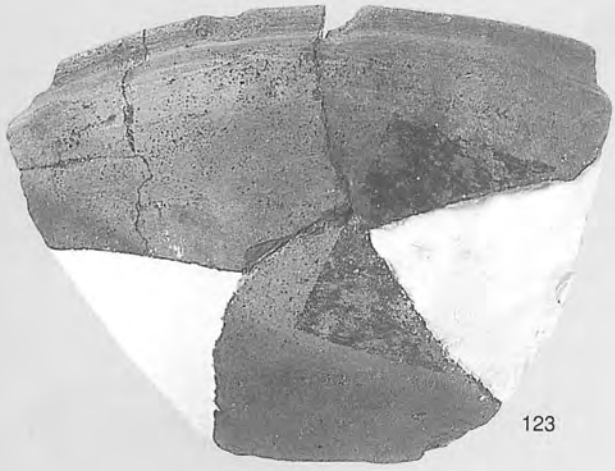


梨木遺跡出土縄文土器（107～112）

梨木遺跡出土縄文土器（113～120）


121


122


123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

梨木遺跡出土縄文土器（121～133）

134

135

136

137

138

139

140

141

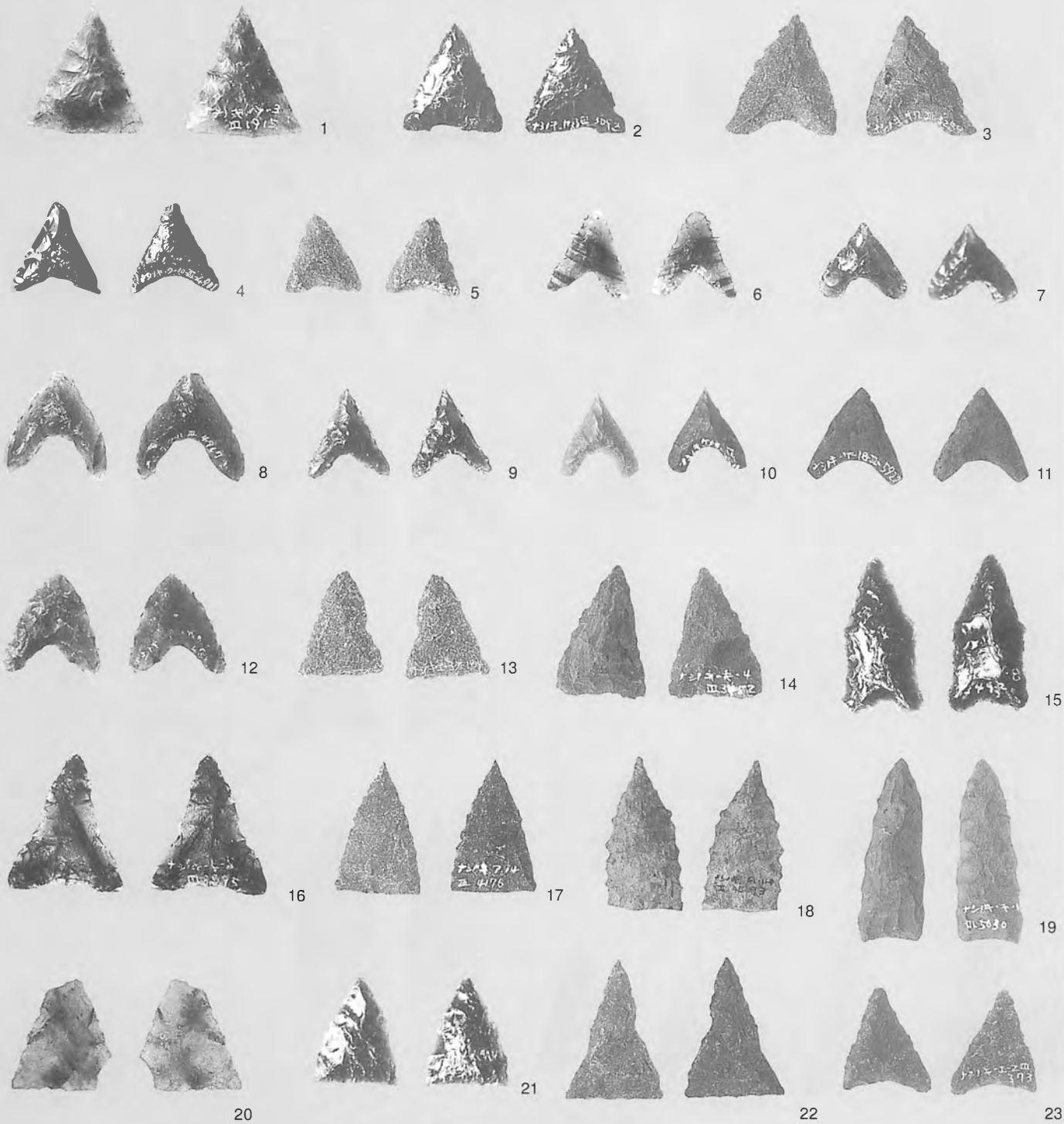
142

143

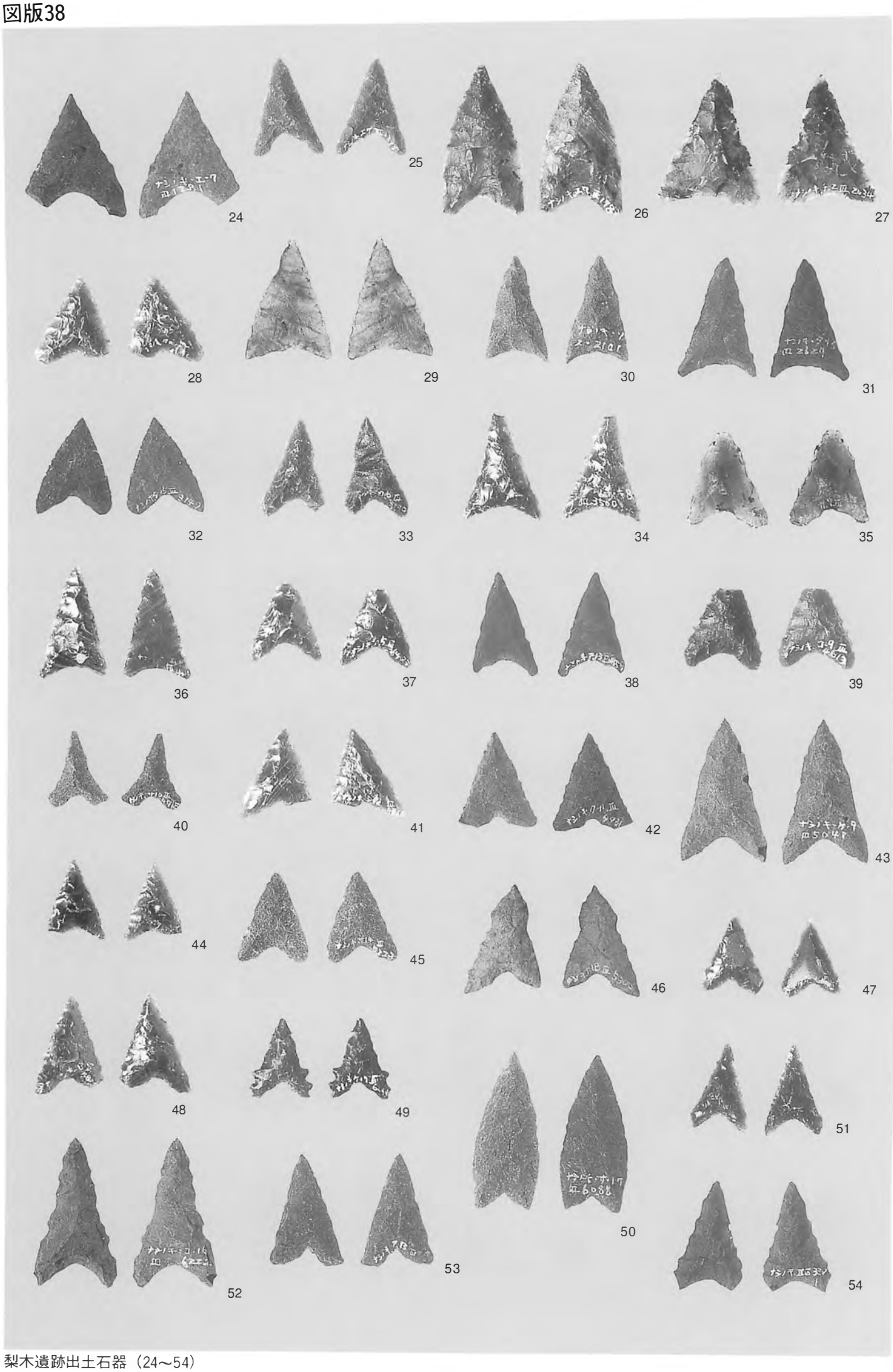
144

梨木遺跡出土縄文土器（134～144）

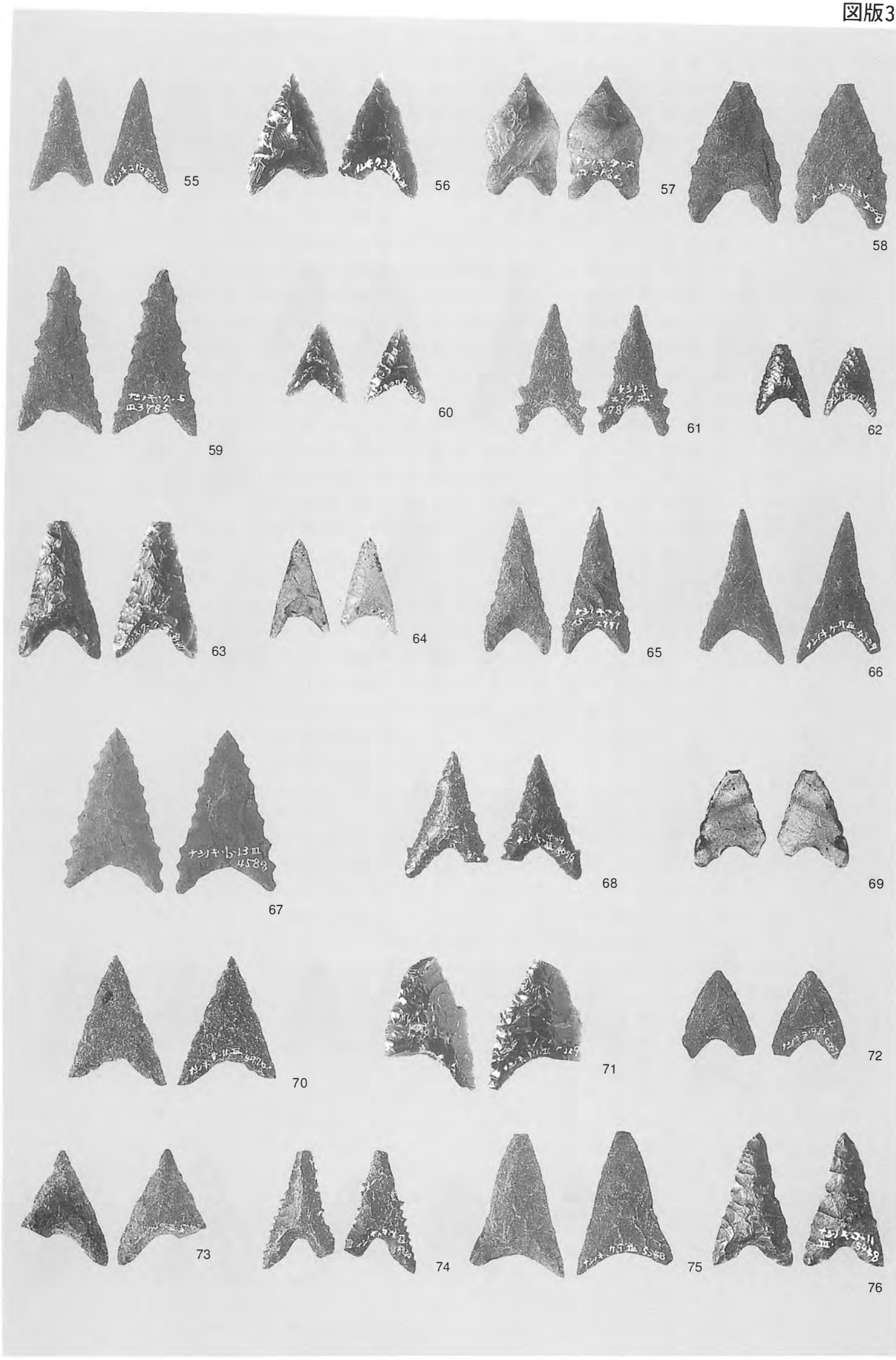
梨木遺跡出土旧石器



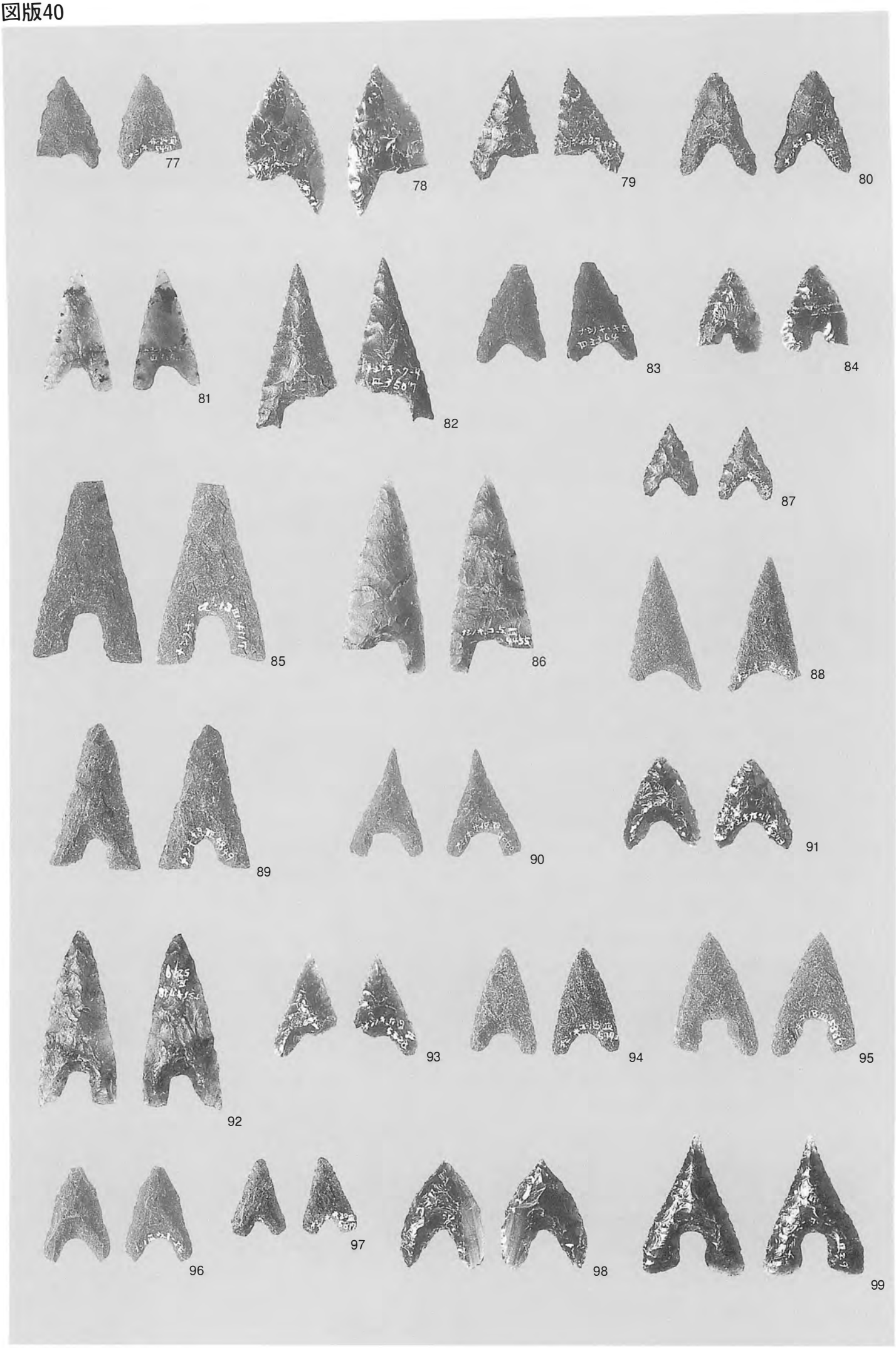
梨木遺跡出土旧石器（1、2）及び梨木遺跡出土石器（1～23）



梨木遺跡出土石器（24～54）

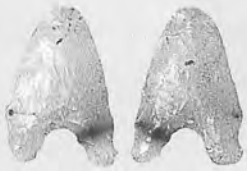


梨木遺跡出土石器（55～76）



梨木遺跡出土石器（77～99）

100

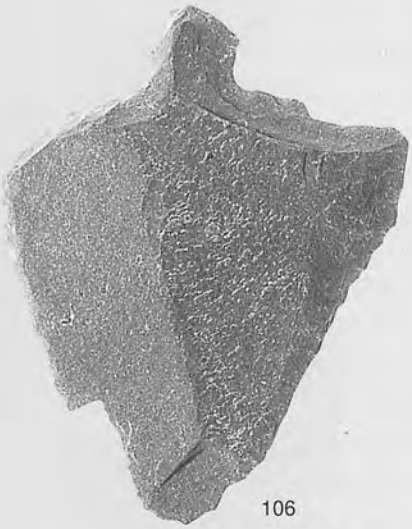

101

102

103

104

105


106

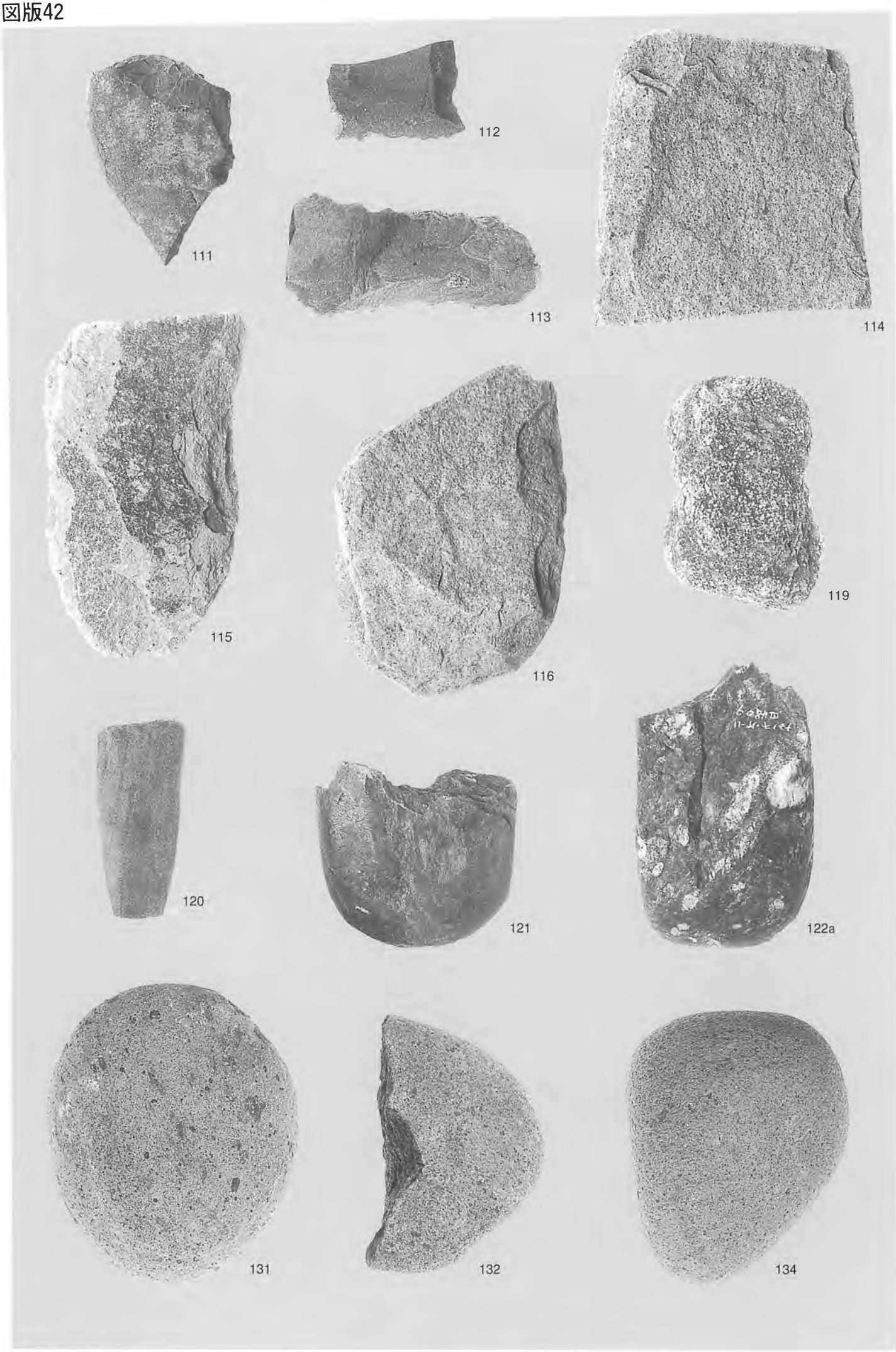
108

107

109

110

梨木遺跡出土石器（100～110）



梨木遺跡出土石器（111～116、119～121、122a、131、132、134）

117

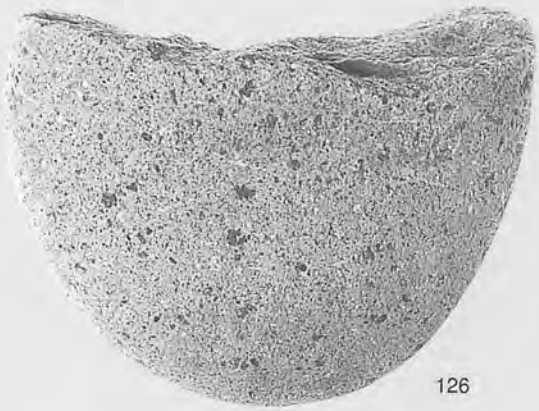
118

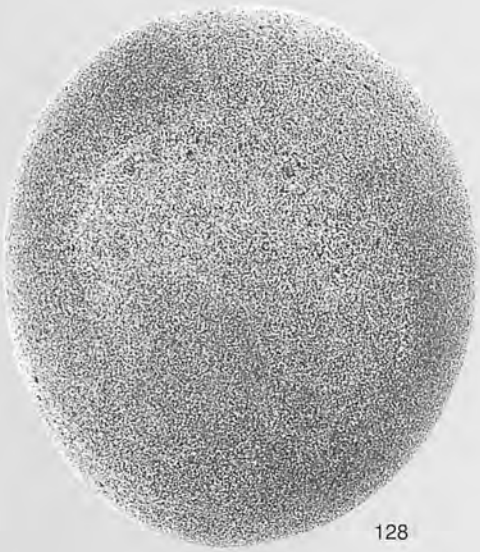
124

122(a+b)

123

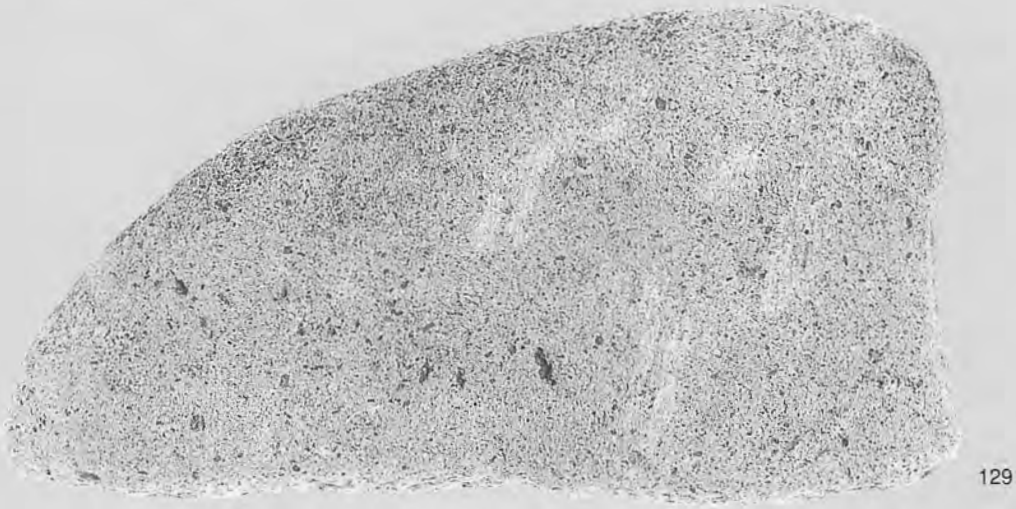
125


126

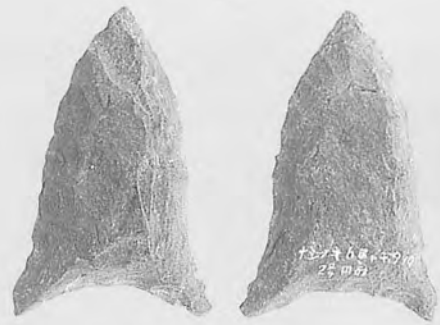

128

127

梨木遺跡出土石器（117、118、122(a+b)、123～128）



梨木遺跡出土石器（129、130、133、135、136）



梨木６区２号円形周溝遺構内出土石器

1

2

4

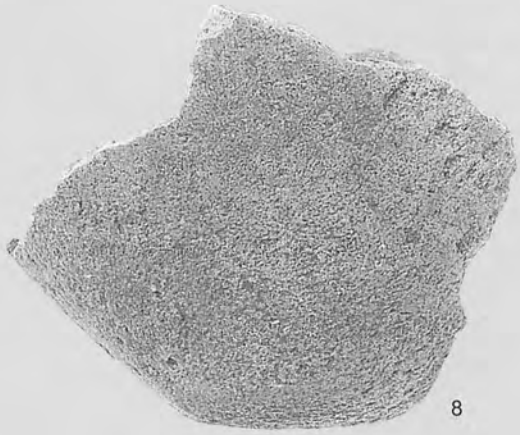
3

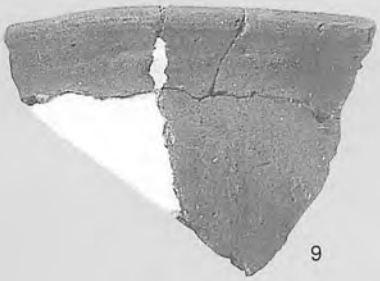
5

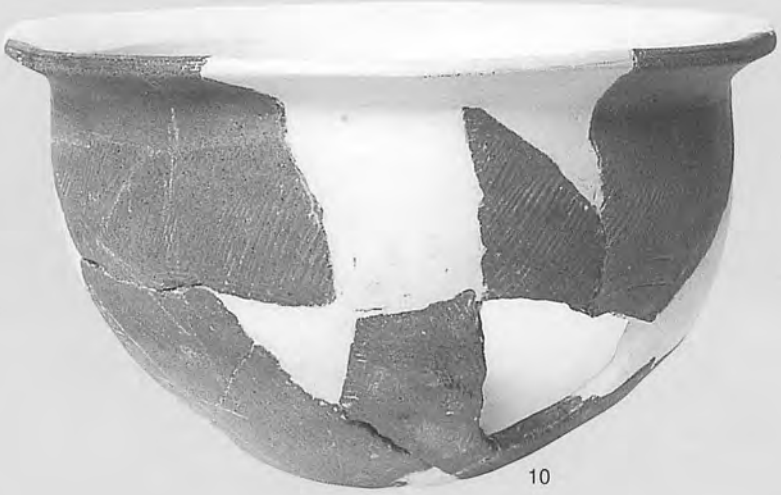
6

梨木６区２号円形周溝遺構内出土石器及び梨木遺跡出土弥生土器（１～６）

7


8


9


10

11

12

梨木遺跡出土弥生土器（7～12）

14

16

13

15

梨木遺跡出土弥生土器（13～16）

報　告　書　抄　録

フリガナ	コガキタ・ナシノキイセキ
書名	古閑北・梨木遺跡
副書名	益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告書
シリーズ番号	第175集
編著者	野田恒親・濱田彰久
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒862-8609　熊本県熊本市水前寺６丁目18番１号
発行年	西暦　1999年３月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
コガキタ 古閑北	カミマシキグンマシキマチオオアザコガ 上益城郡益城町大字古閑 アザヨコミチ 字横道	43443	072	32度 47分 18秒	130度 47分 27秒	19960401 ～ 19970922	1,700㎡	インターチェンジ建設及び周辺施設整備
ナシノキ 梨木	カミマシキグンマシキマチオオアザヒロサキ 上益城郡益城町大字広崎 アザナシノキ 字梨木	43443	071				15,000㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古閑北	散布地	縄文時代 後期 晩期		黒色磨研土器、粗製土器 石鏃、石匙、石錐、磨製石斧	
梨木	散布地	旧石器時代 縄文時代 早期 ～ 晩期	集石２基	ナイフ形石器 押型文土器、条痕土器、塞ノ神式土器、轟式土器、曽畑式土器、並木式土器、阿高式土器、出水式土器、御手洗式土器、市来式土器、北久根山式土器、鐘崎式土器、黒色磨研土器、粗製土器 石鏃、石匙、削器、打製石斧、円盤状石器、磨製石斧、石錘、磨石、敲石、異形石器	
		弥生時代 中期 後期	円形周溝遺構 7基	弥生中後期土器 石鏃	
		歴史時代	溝		

あ と が き

ようやく、益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴う「古閑北・梨木遺跡」の報告書を発行することができました。

これも、発掘・整理作業に携わって頂いた多くの方々のご協力とご努力のお陰であります。

報告書を終えるにあたって、そのご芳名を記し、感謝の意を表したいと思います。

発掘作業	石田　拓也	石田ミネ子	岩田　政秀	内田　　幸	内田ルイ子	大舘ムツエ
	大舘　安敏	片山　孝子	河野　義勝	木下　政広	清田　栄子	杉浦千枝子
	杉浦りえ子	杉本　美子	園山　　絹	田島　久美	田島　弘子	高田　真吾
	田上　貴弘	田上　利子	土田　俊雄	土持アキエ	土持　励子	富永　弘美
	中島　久枝	中島ミサエ	中林るり子	中村　藤子	中村里和子	西坂スマ子
	西明ムツ子	沼田　義宏	野田健太郎	浜島智恵子	福田　清子	藤本　要一
	堀川　貞子	堀野　重子	堀部チカ子	本田イサ子	牧寺　俊明	松田　計子
	三浦キエ子	三次　　都	村崎美穂子	森川　征子	山本　悦子	横田　量子
	吉村久美子	吉村　寿利	吉村八千代	米田　靖史	吉川　雅信	米満公美子
整理作業	荒牧　陽子	上村　孝子	宇野　玲子	大塚トシ子	後藤　直美	田中　洋子
	長野　邦子	吉岡　直子	吉田　律子	吉永恵美子		

熊本県文化財調査報告　第175集

古閑北（こがきた）・梨木（なしのき）遺跡

益城熊本空港インターチェンジ建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日　平成11年３月31日

編　集
発　行　熊本県教育委員会
〒862-8609 熊本市水前寺６丁目18番１号

印　刷　中央印刷紙工株式会社
〒860-0053 熊本市田崎２丁目５番38号

１０ 教委 教文
② ００７

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 175 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：古閑北 梨木遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話：　096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 24 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/